幼児教育学科

2022 年 4 月 1 日　更新

2022 年 9 月 6 日　更新

科目名	日本国憲法	単位数	2	授業時間数	３０	担当教員	わたなべ　のぶひさ 渡辺　演久
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	PUL11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　二部は遠隔で実施　）
授業の内容	憲法はなぜ存在するのかを理解し、憲法は国家権力を縛ることによって、人権を保障していることを説明していく。また子どもの権利条約などの国際法や教育基本法との関連性についても講義していく。最終的には子どもにまつわる憲法上の諸問題について考えられる講義とする。
到達目標	１．憲法の制定目的について説明できる ２．立憲主義について説明できる。 ３．子どもの人権について理解している
学位授与方針	幼児教育学科（　1,3.4　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス、憲法はなぜあるのか（立憲主義）	予習	憲法の前文を読む
			復習	憲法の目的を理解する
第２回	内容	憲法は素晴らしいが、何の役に立つのだろう？（憲法は誰に遵守義務があるのか）	予習	憲法は誰を縛っているのか調べる
			復習	憲法尊重擁護義務について理解する
第３回	内容	戦後の日本はへそによって作られた（日本国憲法の制定過程）	予習	民間の憲法案を調べる
			復習	民間の憲法案がどう反映されたかを理解する
第４回	内容	天皇の給料はお仕事にみあっているか（象徴天皇制）	予習	女性宮家ついて調べる
			復習	現在の皇室をとりまく状況を理解する
第５回	内容	ウルトラマンは地球を守るために戦う？（平和主義と自衛隊））	予習	平和のための戦いはありうるのか考える
			復習	平和主義について理解する
第６回	内容	自由が先か、平等が先か（法の下の平等）	予習	一票の格差とは何か調べる
			復習	選挙制度について理解する
第７回	内容	大岡政談にみる黙秘権と無罪の推定（刑事司法における人権保障）	予習	事件報道について調べる
			復習	無罪推定の意義について理解する
第８回	内容	言論の自由は「言いたいことを言う権利」ではない（言論の自由）	予習	民主政治には何が必要か調べる
			復習	言論の自由の意義を理解する
第９回	内容	教育の主体は国家？それとも国民？（教育を受ける権利）	予習	学校教育の誕生について調べる
			復習	教育を受ける権利について理解する
第 10 回	内容	幸福追求権の中身と自己決定（幸福追求権）	予習	学校のおかしな校則について調べる
			復習	幸福追求権が人権の源になりうることを理解する
第 11 回	内容	参政権があるだけでは民主主義とはいえない（参政権と民意）	予習	自分の選挙区の選挙結果を調べる
			復習	多数が民意とは限らないことを理解する
第 12 回	内容	統治機構は人権を守る手段である（法の支配）	予習	国家を支配しているのは誰か考える
			復習	法の支配について理解する
第 13 回	内容	国会と国会議員の実像（立法機関）	予習	国権とは何か調べる
			復習	三権分立について理解する
第 14 回	内容	内閣と議員内閣制の不思議（内閣）	予習	憲法の行政について読んでおく
			復習	行政権の範囲について理解する
第 15 回	内容	まとめとレポート作成	予習	憲法にまつわる新聞記事を調べる
			復習	憲法の視点から政治問題を考える

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題に関して授業で復習を行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（　90　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（　10　%）
教科書	『憲法のおもしろさ（第３版）』（山本聡・渡辺演久、北樹出版）
参考文献	授業内で適宜紹介する
注意事項	新聞記事等を通じて子どもをとりまく人権状況を取り上げるので、新聞などの報道に興味をもってほしい。

科目名	体育実技	単位数	1	授業時間数	44	担当教員	北洞（きたほら）・津田（つだ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB11101	授業形態	実技	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。また、将来幼児教育者として必要な幼児の運動あそびに関する知識、技能、さらに子どもの指導や援助の技術について理解を深めることを目的としている。
到達目標	1. 運動・ダンス・スポーツに親しむための基礎的技能を習得している。 2. 自己の身体に関心をもち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法を習得している。 3. 運動・ダンス・スポーツを通して協調性・社会性を身に付けている。 4. 幼児教育者として必要な幼児の運動遊びに関する基本的な知識と技能を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2,3,4,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第1回	内容	からだの調整力を育むからだ遊びといろいろなハイハイ（四足移動）	予習	乳幼児期におけるハイハイの必要性を調べる
			復習	授業内容をGoogleクラスルームで復習する
第2回	内容	マット遊びⅠ：マットを道具とした遊び	予習	教科書等でマット遊びを調べる
			復習	授業内容をレポートにまとめて提出する
第3回	内容	マット遊びⅡ：回転遊び	予習	回転遊びを教科書等で調べる
			復習	授業内容をレポートにまとめて提出する
第4回	内容	レクリエーションスポーツⅠ：ソフトバレーボール	予習	ソフトバレーボールのやり方を調べる
			復習	授業で体験したことをレポートにまとめる
第5回	内容	跳び箱遊び1：台として遊ぶ	予習	跳び箱遊びについて教科書等で調べる
			復習	台として遊ぶ跳び箱遊びの内容をまとめる
第6回	内容	跳び箱遊びⅡ：腕立て開脚跳び越し	予習	腕立て開脚跳び越しの跳び方を調べてくる
			復習	腕立て開脚跳び越しのポイントをまとめる
第7回	内容	ボール遊び1：一人遊び	予習	ボール遊びの遊び方を教科書等で調べる
			復習	ボールの一人遊びをまとめる
第8回	内容	ボール遊びⅡ：ペアでパス、転がしドッヂボール	予習	子どものボールゲームを調べる
			復習	ボールもペア遊び・ドッヂボールをまとめる
第9回	内容	レクリエーションスポーツⅡ：バスケットボール	予習	バスケットボールのルールについて調べる
			復習	バスケットボールで使う体力をまとめる
第10回	内容	縄遊びⅠ：短縄遊び	予習	短縄と使った遊びを調べる
			復習	授業で行った短縄遊びをまとめる
第11回	内容	縄遊びⅡ：長縄遊び	予習	長縄を使った遊びを調べる
			復習	授業で行った長縄遊びをまとめる
第12回	内容	身近なものを使った遊び1：新聞紙、レジ袋	予習	新聞紙とレジ袋と使った遊びを調べる
			復習	授業で行った遊びをまとめる
第13回	内容	レクリエーションスポーツⅢ：バドミントン	予習	バドミントンのルールを調べる
			復習	バドミントンで使う体力をまとめる
第14回	内容	巧技台遊び1：器具の名称を覚える、基本の動き	予習	巧技台の器具の名称を教科書で調べてくる
			復習	巧技台の基本の動き方をまとめる
第15回	内容	巧技台遊びⅡ：色々な使い方	予習	巧技台の使い方を教科書で調べてくる
			復習	授業で行った動きをまとめる
第16回	内容	いろいろなウォーミングアップ、幼児の体操	予習	幼児期の運動の意義について教科書を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第17回	内容	幼児の運動あそび① 遊びの工夫について	予習	幼児期の運動発達について調べておく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第18回	内容	幼児の運動あそび② 幼児指導の想定、実践	予習	指導法について教科書を読み、要点を確認する。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第19回	内容	いろいろな用具を使った運動あそび ボール、フープ、縄を使った運動あそび	予習	用具を使う遊びについての留意点を調べておく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
	内容		予習	幼児期のダンスの意義について教科書を読んでおく。

	第 20 回		リズミカルなダンス① グループワーク：作品創り	復習	授業内容をノートにまとめる。
	第 21 回	内容	リズミカルなダンス② グループワーク：作品のブラッシュアップ	予習	前回の授業内容を思い出し、アイディアをまとめる。
				復習	授業内容をノートにまとめる。
	第 22 回	内容	リズミカルなダンス③ グループワーク：発表	予習	発表に向け練習。
				復習	創作過程を振り返り、感想や反省を記入する。
	予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。				
課題へのフィードバック	課題に対するレポートや小テストの解答提出に関しては、Google クラスルーム上で評価をフィードバックする				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（10%）、レポート・課題（50%）、作品・発表（　　%）、実技（20%）、授業態度【積極性　】(20%)				
教科書	乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび～からだとこころを育む指導法（宮下恭子・茗井香保里編、大学図書出版）				
参考文献	脳を鍛えるじゃれつき遊び（正木建雄・井上高光・野尻ヒデ、小学館）				
注意事項	実技の際は、指定のジャージを着用のこと。また実技はレクリエーション以外、基本的に「裸足」で行うので、ストッキングを脱いでくること。「野外環境教育実習（夏）（冬）」は実施予定。夏の参加学生は、後期の実技の授業の出席を免除する。（社会情勢等を鑑みて判断するため、変更あり。）第 1 回の②③野外環境実習（夏・冬）に参加する際に関わる各諸経費については、全額学生負担となる。				

科　目　名	体育実技	単 位 数	1	授業時間数	４４	担当教員	きたはら　たかし 北原　隆史
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB11101	授業形態	実技	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	Comfort Zone（居心地のよい空間）の広がりとそこからのさらに一歩踏み出せる勇気と視点の多様性をテーマにして授業を展開する。そのため、その人なりの運動への関わり方を認め、その人なりのレベルで活動することにより、相互に影響しあう経験を共有する。また、運動環境を活かし、様々な視点から活動を考え工夫することから視点の多様性による可能性の広がりを体験的に理解することを目的とする。
到達目標	１．　運動・スポーツの文化的価値の多様性について理解している。 １）人と人との運動的な関わりを通してのコミュニケーションの意義を体験的に理解している。 ２）運動・スポーツに対する肯定的な視座を獲得している。 ２．　協働的に課題に取り組みながら人と表現工夫することの意義を理解している。 １）集団での表現活動、発表を通しての身体的表現活動の魅力を理解している。 ２）協働的に取り組むことの教育的な意義を体験的に理解している。 ３）協働的に取り組むことの達成感による帰属意識の高まりと自己肯定感への影響を体験的に理解している。 ３．　運動・スポーツ文化を伝承する保育者としての基本的資質を獲得している。 １）運動・スポーツを通しての人間観、人間関係の変化の要因について体験的に理解している。 ２）運動・スポーツを通して支援することの本質について体験的に理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーションとガイダンス アイスブレイク	予習	
			復習	
第２回	内容	グループコミュニケーション１ 課題解決における相互作用の重要性	予習	
			復習	
第３回	内容	グループコミュニケーショ２ 課題解決における課題解決の過程の重要性と支援の在り方	予習	
			復習	
第４回	内容	長縄飛びによるグループワークトレーニング① 代表的な長縄飛び	予習	
			復習	
第５回	内容	長縄飛びによるグループワークトレーニング② 目標設定と課題解決への取り組み	予習	
			復習	
第６回	内容	様々な長縄跳びのバリエーションへの挑戦	予習	
			復習	
第７回	内容	ボールを使っての運動遊び　① 基本的な動作を中心にして	予習	
			復習	
第８回	内容	ボールを使っての運動遊び　② 様々なボール遊びのバリエーション	予習	
			復習	
第９回	内容	ソフトバレーボール ゲームを楽しむ	予習	
			復習	
第 10 回	内容	卓球①　基本的技術の導入と基礎知識	予習	
			復習	
第 11 回	内容	卓球②　技術の練習とゲーム	予習	
			復習	
第 12 回	内容	バドミントン①　基本的技術の導入と基礎知識	予習	
			復習	
第 13 回	内容	バドミントン②　技術の練習とゲーム	予習	
			復習	
第 14 回	内容	新聞紙での遊びの体験と遊びの創作	予習	
			復習	
第 15 回	内容	紙飛行機の製作と記録会	予習	
			復習	
第 16 回	内容	仲間との運動遊び１　いろいろな鬼ごっこ	予習	
			復習	

	第 17 回	内容	仲間との運動遊び２　いろいろなナワ遊び	予習	
				復習	
	第 18 回	内容	仲間との運動遊び３　お手玉遊び	予習	
				復習	
	第 19 回	内容	リズミカルに動く「ダンス・幼児体操・パラバルーン」①　仲間と関わって作品を創る	予習	
				復習	
	第 20 回	内容	リズミカルに動く「ダンス・幼児体操・パラバルーン」②　発表会	予習	
				復習	
	第 21 回	内容	ミニ運動会①　運動会の企画・準備	予習	
				復習	
	第 22 回	内容	ミニ運動会②　運動会の実施	予習	
				復習	
	予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。				
課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題等のフィードバックを行う。発表後、講評を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【意欲をもって積極的に取り組む姿勢】(30%)				
教科書	「乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび～かだらとこころを育む指導法～」（宮下恭子編　大学図書出版）				
参考文献	使用しない。				
注意事項	実技の時は、必ず指定の運動着を着用して受講すること。 意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する。				

科　目　名	体育講義	単 位 数	1	授業時間数	１６	担当教員	つだ　まきこ 津田　麻希子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB11102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	心身の健康保持増進は、豊かなライフスタイルを送る上で必要不可欠である。健康と運動との関わりに関する正しい知識を身に付け、理解を深めることを目的とする。また、自身の身体の仕組みについて知識を深め、自らの健康維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことを狙いとする。
到達目標	１．　健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 ２．　各年齢に適した食事や運動実践方法について理解をしている。 ３．　自己管理や、子どもの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう、基礎知識を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（1、3、4）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	受講上の留意事項について 現代社会と健康、食事について考える	予習	教科書 p5～18 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第２回	内容	心の健康と運動、対処法について	予習	教科書 p21～26 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第３回	内容	青年期の性、性教育について	予習	教科書 p27～32 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第４回	内容	運動と健康、体力について	予習	教科書 p35～50 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第５回	内容	トレーニングの基礎理論	予習	教科書 p51～56 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第６回	内容	スポーツ傷害と応急処置、実践法について	予習	教科書 p57～63 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第７回	内容	乳幼児の体育について	予習	教科書 p65～75 を読んでおく。
			復習	授業内容をノートにまとめる。
第８回	内容	まとめ	予習	今までの授業内容を見直す。
			復習	講義内容を全て見返し、理解を深める。

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストや復習問題等で解説をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（２０％）、作品・発表（　　％）、実技（　　％）、授業態度【積極的参加】（３０％）
教科書	『大学生のための体育講義-今日つくる未来・今日を生きる知恵-』（茗井香保里他、推敲舎）
参考文献	必要に応じてプリントを随時配布。
注意事項	授業は 11 月頃より開始予定、毎回教科書とプリント、ノートを必ず持参すること。

科目名	体育講義	単位数	1	授業時間数	１６	担当教員	きたはら　たかし 北原　隆史
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	DMB11102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	健康や運動に関する情報があふれている現代社会において、それらに対応していく力をつけることが望まれる。よって、本講義では健康・運動・体力について正しい知識及び自らの健康の維持増進の方法を理解し、実践していく力を養うことができることを目的とする。
到達目標	１．　健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを実践する力を身に付けている。 ２．　食事や休息、運動実践の方法について具体的に理解している。 ３．　幼児教育者としての自己の健康管理、子どもたちの健康・運動・安全の援助指導を適切に実践できる基礎的知識を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーションとガイダンス　体育講義のねらい	予習	講義ガイダンスの事前確認
			復習	運動技能の獲得について他の課題への取り組み
第２回	内容	健康・体力と生活①：現代社会と健康	予習	現代社会と健康について教科書を確認しておく
			復習	各自のヘルスプロモーションを考える
第３回	内容	健康・体力と生活②：食事と健康	予習	食事と健康について教科書を確認しておく
			復習	各自の食生活の目標設定をする
第４回	内容	健康・体力と生活③：体力と健康	予習	体力について教科書を確認しておく
			復習	各自の体力を把握して体力維持向上プログラムを考える
第５回	内容	健康・体力と生活④：トレーニングの基本理論	予習	トレーニングの基礎理論を教科書で確認しておく
			復習	学習したトレーニング理論に基づき各自のトレーニングを見直す
第６回	内容	スポーツと Quality of Life	予習	スポーツについて教科書を確認すると共に各自のスポーツのイメージを膨らませておく
			復習	スポーツについての新たな発見を整理し、各自がプログラムした運動実践に取り組む
第７回	内容	運動スキルの発達と支援のあり方	予習	運動スキルについて下調べをしておく
			復習	運動スキル発達について整理し、各自が取り組んでいる運動実践に活かす
第８回	内容	スポーツ障害と応急処置	予習	スポーツ障害と応急処置について教科書を確認しておく
			復習	現在の救急の現状と救急処置のあり方を整理し理解を深める

予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題のフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（100%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	「大学生のための体育講義　今日つくる未来・今日を生きる知恵」（茗井香保里他、推敲舎）
参考文献	使用しない。
注意事項	授業は、11 月頃より開始。詳細は、掲示にて連絡する。

科　目　名	キャリアデザインⅠ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき　きたざわ　ほりうち　とねがわ 塩崎・北澤・堀内・利根川
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11105	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	この授業は、広い意味での「教養」を身につけるためのものである。授業を通して女性が直面している諸課題を明らかにし、女性が職場や地域社会で活躍することの意義について学習する。自分らしい生き方や働き方とは何か、資料やデータを活用し、自己実現を図るための方法とキャリアデザインの重要性を理解する。
到達目標	１．　授業を通して自己を見つめ、自分らしく主体的に大学生活を送る姿勢を身につけている。 ２．　さまざまな生き方、働き方を参考に自分のキャリアデザインについて考えることができる。 ３．　社会人としてのマナーや礼儀作法を身につけることができている。
学位授与方針	幼児教育学科（2・4・5）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	【塩崎①】授業ガイダンス 自己紹介を考えよう。仲間を知ろう。	予習	シラバスを読み、授業の概要を捉える
			復習	本日の活動を振り返り、まとめる
第２回	内容	【塩崎②】自己紹介しよう。プレゼンテーションに挑戦	予習	自己紹介文章、紹介するデザインを考えてくる
			復習	仲間の発表を踏まえ、自分の発表について振り返り、まとめる
第３回	内容	【利根川①】女性の生き方・働き方とジェンダー① 著名な女性の半生を学ぶ	予習	女性の生き方・働き方について考える
			復習	講義で取り上げた人物をまとめる
第４回	内容	【利根川②】女性の生き方・働き方とジェンダー② 著名な女性の半生を学ぶ	予習	女性の生き方・働き方について考える
			復習	講義で取り上げた人物をまとめる
第５回	内容	【利根川③】女性の生き方・働き方とジェンダー③ 建学の心と保育をテーマにスライドを作成する	予習	女性の生き方・働き方について考える
			復習	スライド内容を作成する
第６回	内容	【利根川④】女性の生き方・働き方とジェンダー④ 建学の心と保育をテーマにスライドをまとめる	予習	スライド内容を作成する
			復習	スライド発表の準備をする
第７回	内容	【利根川⑤】女性の生き方・働き方とジェンダー⑤ 建学の心と保育をテーマにスライドを発表する	予習	スライド発表の準備をする
			復習	授業を振り返り、自分の保育観について考える
第８回	内容	【堀内①】言葉遣いと人間関係のマナー	予習	社会人として必要な基礎力について考えてみる
			復習	授業内で見つけた課題について取り組むこと
第９回	内容	【堀内②】電話のマナー、手紙・はがきのマナー	予習	言葉遣いについて自分を顧みる
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第 10 回	内容	【堀内③】職場のルール、来客応対・席次のマナー	予習	社会人として働く姿を想像してみる
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第 11 回	内容	【堀内④】箸使い・食事のマナー	予習	箸を準備、持ち方を確認する
			復習	授業で学んだ事を日常生活で活用してみること
第 12 回	内容	【堀内⑤】立ち居振る舞い	予習	鏡に姿を映し、姿勢や歩き方を確認する
			復習	全５回を振り返り社会人としての基礎力をつける
第 13 回	内容	【北澤①】働くということ・キャリアをデザインするということ	予習	教科書ｐ166、167、ｐ179～181 を読んでくる
			復習	自分のキャリアについて具体的に考える
第 14 回	内容	【北澤②】キャリアデザインのための自己理解① ～自分のこれまでについて振り返ろう～	予習	教科書ｐ１９９を読んでくる
			復習	自己史チェックシートをみながら感想を記入する
第 15 回	内容	【北澤③】キャリアデザインのための自己理解② ～自分の強みをみつけキャリアデザインⅡにつなげる～	予習	自分の好きなことや得意なことを箇条書きにしてくる
			復習	偏愛マップをみながら自分の強みについて考える

予習に要する学習時間：概ね　15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う 演習時に模範解答を示し説明・指導する。レポートは添削をして返却する。発表については講評をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（　50%）、作品・発表（20%）、実技（　　%）、授業態度【　演習　】（　30%）
教科書	『建学の心』冊子 『保育者になるための初年次教育・キャリア教育』（浅井拓久也編著、萌文書林）
参考文献	『新生活教養』（近喰晴子他、建帛社）『保育のマナーと言葉』（長島和代編、わかば社）
注意事項	卒業および資格取得のための必須科目なので、全員が履修すること。 塩崎２回、北澤３回、利根川５回、堀内５回

科　目　名	キャリアデザインⅠ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	茗井（めいい）　香保里（かおり）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11105	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	本授業では、大学での学び、進路選択や職業観について考える。 また、学生一人ひとりのキャリア形成に必要な知識を習得し、実践的な演習を行う。
到達目標	１．自分らしさに気づき、自己表現できる。 ２．自己発見、他者理解を深める姿勢が身についている。 ３．自分のキャリアについて考えることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション、人生を支える健康	予習	自己紹介文を書いておく
			復習	人生の４つの要素をノートにまとめる
第２回	内容	学生と社会人	予習	学生と社会人のちがいについて調べておく
			復習	授業で学んだ事への理解を深めノートにまとめる
第３回	内容	大学の学びと将来のキャリアのイメージ	予習	シャインの８つのキャリアアンカーを調べておく
			復習	授業で学んだ事への理解を深めノートにまとめる
第４回	内容	仕事と職業	予習	ワークライフバランスについて調べておく
			復習	自分のワークライフバランスについて考えをまとめておく
第５回	内容	専門職と技術職	予習	職種について、業種について、調べておく
			復習	授業で学んだ事への理解を深めノートにまとめる
第６回	内容	資格と職種①保育系	予習	保育系の仕事について調べておく
			復習	授業で学んだ事への理解を深めノートにまとめる
第７回	内容	資格と職種②教職系	予習	教職系の仕事について調べておく
			復習	授業で学んだ事への理解を深めノートにまとめる
第８回	内容	プロティアンキャリア	予習	働くという事を想像し大切な事や疑問を考える
			復習	授業で学んだ事への理解を深めノートにまとめる
第９回	内容	自分らしさを知る	予習	自分史を書いておく
			復習	自分史を分析する
第 10 回	内容	自分らしさを育てる	予習	自分らしさについてまとめておく
			復習	グループワークの結果をノートにまとめる
第 11 回	内容	キャリア教育ゲーム　小学生編	予習	キャリア教育ゲームについて調べておく
			復習	キャリア教育ゲームの感想をまとめる
第 12 回	内容	キャリア教育ゲーム　中学生編	予習	成人対象のキャリア教育ゲームについて調べておく
			復習	キャリア教育ゲーム実践の感想をまとめる
第 13 回	内容	ライフキャリア	予習	ライフキャリアについて調べておく
			復習	ライフキャリア発達をノートにまとめる
第 14 回	内容	生きることと人生設計	予習	命とは何か考えておく
			復習	命の終わりと人生についてノートにまとめる
第 15 回	内容	まとめ	予習	全回の授業内容を振り返る
			復習	自分のキャリアについての考えを第三者に伝えられるようにする

予習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	マイ講義ノートを集め、コメントを書き入れて返却する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：レポート・課題（50%）、授業態度【積極的参加】(50%)
教科書	『大学生のキャリアデザイントレーニング』(稲本恵子、晃洋書房)
参考文献	『キャリア・ウェルネス「成功者を目指す」から「健やかに働き続ける」への転換』(村山昇、日本能率協会マネジメントセンター) 『キャリアデザイン論-大学生のキャリア開発』(安武伸朗、創成社)　『大学生の学びとキャリア - 入学から卒業までの継続調査分析』(梅田修、ミネルヴァ書房)　『キャリアデザインノート』(秋草学園短期大学)
注意事項	１．卒業および資格取得のための必須科目なので、全員が履修すること。

科　目　名	キャリアデザインⅡ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	きたざわ　あきこ 北澤　明子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11106	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	本授業では、受講者一人ひとりが、自分自身の価値観やこれまでの生き方、長所や短所など知り、これからの学生生活や生き方、働き方を考えていくための授業である。このような生き方や働き方を考えていく理論と方法であるキャリアデザインの基本を理解した上で、現在社会人として活躍している多様な先輩のキャリアについて聞き、2年次に始まる就職活動に向け、自分自身の職業生活についてイメージしていく。また、就職活動の流れや履歴書の書き方、自己ＰＲなど就職活動の際に必要な技術についても具体的に学んでいく。
到達目標	１．キャリアデザインの基本と方法について理解している ２．授業を通して自分の長所や短所、生活や行動のスタイル、価値観等について自己理解を深めようとする姿勢が身についている ３．先輩や卒業生、資格や免許を活かして働いている方の人生やキャリア、働き方等を参考に、自分のキャリアについて考えることができる
学位授与方針	幼児教育学科（　１・２・５　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション・キャリアデザインとは 就活までの道のり・心構え・これからすべきこと	予習	シラバスを読んでくる
			復習	教科書該当ページを読み返す
第２回	内容	本学、幼児教育学科で取得できる資格を生かした多様な仕事について	予習	教科書の保育所・幼稚園・認定こども園の比較表に目を通してくる
			復習	授業内容の振り返りをまとめ自分自身のキャリアについて考える
第３回	内容	キャリアデザインのための自己理解―偏愛マップ・自己史チェックシート・相互インタビュー―	予習	自分の好きなことについて箇条書きにしてくる
			復習	授業内容についての振り返りをまとめる
第４回	内容	幼・保・施フェアに参加し、幼稚園・保育所・施設の方の話を聞く	予習	フェアに参加するために必要なマナーや服装について自分なりに考え準備をする
			復習	参加して聞いた話をまとめる
第５回	内容	働く意義・現代を取り巻く平均的なライフサイクルの現状について	予習	自分のライフプランについて考える
			復習	配布資料を読み返す
第６回	内容	秋草ＯＢから聞く保育の仕事①幼稚園	予習	幼稚園についての質問を考えてくる
			復習	授業内容についての振り返りをまとめる
第７回	内容	秋草ＯＢから聞く保育の仕事②保育所／認定こども園	予習	保育所・認定こども園についての質問を考えてくる
			復習	授業内容についての振り返りをまとめる
第８回	内容	秋草ＯＢから聞く保育の仕事③施設／企業	予習	施設・企業についての質問を考えてくる
			復習	授業内容についての振り返りをまとめる
第９回	内容	秋草ＯＢから聞く保育の仕④小規模保育など	予習	小規模保育について予習してくる
			復習	授業内容についての振り返りをまとめる
第 10 回	内容	履歴書の書き方・社会人基礎力としてのマナー	予習	教養演習などの資料を見返し、マナーの復習をしてくる
			復習	履歴書の書き方の復習を行う
第 11 回	内容	キャリアデザインのための自己理解②自己ＰＲ・自己紹介	予習	教科書ｐ１９９読んでくる
			復習	自己ＰＲのエピソード収集をする
第 12 回	内容	多様なキャリアについて知り、考える②	予習	教科書ｐ173～176 読んでくる
			復習	授業内容についての振り返りをまとめる
第 13 回	内容	公立保育士について知ろう スケジュール・合格した先輩からの話	予習	教科書ｐ１６１～１６５を読んでくる
			復習	授業内容を振り返りまとめる
第 14 回	内容	先輩の就職体験記（2 年生）	予習	先輩への質問を考えてくる
			復習	授業内容を振り返りまとめる
第 15 回	内容	自分のキャリアをデザインしてみる	予習	自分のキャリアデザインを考えてくる
			復習	１５回を振り返り感想をまとめる

予習に要する学習時間：概ね　１５　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポートを返却し、どのような視点で採点したのかについてフィードバックする時間を設ける。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（　８０　%)、授業態度【積極的参加】（２０%）
教科書	『保育者になるための初年次教育・キャリア教育』(浅井拓久也編著　北澤第 3 章担当、萌文書林)
参考文献	『大学生のキャリアデザイントレーニング』(稲本恵子編著、晃洋書房)
注意事項	・外部講師の都合等で内容が前後する場合があるため授業内でアナウンスを行う。

科　目　名	キャリアデザインⅡ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	茗井（めい）　香保里（かおり）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11106	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	対面　・（遠隔）・　その他（　　）
授業の内容	本授業では、自らのライフキャリア（人生生活全般）を形成するための智慧、それをキャリアデザイン（人生設計）することに関する内容を扱う。また、ライフキャリアに関する基礎知識、キャリア発達理論を学び、自らの課題を発見して実践的に活用できる力の育成をめざす。
到達目標	１．自己理解、他者理解を深めることができる。 ２．キャリアデザインの基本と方法について理解できる。 ３．修得した知識を実践的に活用できる
学位授与方針	幼児教育学科（　１３５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
	第１回	内容	オリエンテーション、キャリアデザインとは 構成的グループエンカウンターの実践	予習：シラバスを熟読する 復習：本時のグループ活動についてノートにまとめる
	第２回	内容	自己紹介とハンセンの４L 理論	予習：自己紹介の内容を考える 復習：授業での学びをノートに書き、４L と人生をまとめる
	第３回	内容	自己分析とライフラインチャート	予習：自分の人生の出来事をノートに書いておく 復習：ライフラインチャートから、自分の考える幸福についてノートにまとめる
	第４回	内容	シャインのキャリアアンカー8 分類	予習：教科書や参考資料からキャリアアンカ―の言葉の意味を調べておく 復習：シャインについて調べノートにまとめる
	第５回	内容	キャリア教育の基礎理論 パーソンズ、スーパー、サビカス	予習：代表的なキャリア教育の基礎理論について調べておく 復習：教科書の該当ページを熟読する
	第６回	内容	キャリアプラン、キャリアパス、ライフキャリア発達	予習：言葉の意味を調べておく 復習：授業を振り返り自分の課題としてノートにまとめる
	第７回	内容	ライフキャリア発達課題	予習：教科書の該当頁を熟読する 復習：授業を振り返り自分の発達課題についてノートにまとめる
	第８回	内容	外的キャリア、内的キャリア	予習：job と work の違いについて調べておく 復習：自分の仕事の価値をどこに置くか、ノートにまとめる
	第９回	内容	クランボルツの計画的偶発性学習理論	予習：クランボルツについて調べておく 復習：自分のプランドハプスタンスをノートにまとめる
	第 10 回	内容	トランジションとシュロスバーグの４S 理論	予習：一般的な人生の転機の兆候や特徴について調べておく 復習：自分の人生の転機を振り返りノートに書く
	第 11 回	内容	リアリティーショックとキャリアショック	予習：リアリティーショックとキャリアショックの言葉の意味を調べておく 復習：これらのショックから立ち直る方法を考える
	第 12 回	内容	働く理由　グループディスカッション	予習：自分の働く理由をノートに書いておく 復習：自分の社会での役割は何なのかというテーマから、ディスカッションの内容をまとめる
	第 13 回	内容	自己課題とキャリアプランニング	予習：キャリア形成における自己課題をノートに書いておく 復習：大学での学びを活用して自己課題を解決するためのアイデアをノートにまとめる
	第 14 回	内容	人生設計のまとめ、 行動し、失敗を重ねて前進する力	予習：これまでのマイ講義ノートを読み返しておく 復習：これまでの授業を振り返り、学びと感想をマイ講義ノートに書きまとめる
	第 15 回	内容	健康に生きること、人生、命	予習：教科書とこれまでのマイ講義ノートを読み返しておく 復習：これまでの授業を振り返り、学びと感想をマイ講義ノートに書きまとめ、その考えを第三者に伝えられるようにする
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。			

課題へのフィードバック	マイ講義ノートを集め、コメントを書き入れて返却する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（50%）、授業態度【　積極的参加】(50%)
教科書	『大学生のためのキャリアデザイン入門』(岩上真珠他、有斐閣)
参考文献	『大学生として学ぶ自分らしさとキャリアデザイン』(高丸理香、有斐閣)
注意事項	必修科目の為全員が履修すること

科　目　名	基礎演習Ⅰ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11102	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	大学での学習に必要な基礎学力である語彙力や文章表現力、保育に関わる基礎用語や敬語等について学ぶ。これらは、社会人として、さらに幼稚園教諭免許や保育士資格取得のための保育の実践（実習）にて、必要な文章力（例えば実習生調査書や実習日誌、指導案作成）が求められる。そのため、授業を通して基礎学力の向上を目指し、グループワークやＡＬ（アクティブ・ラーニング）補習を活用しながら学習する態度を身につける。
到達目標	１．保育分野の基礎的な用語を理解し、正しく書くことができる。 ２．実習日誌や指導案作成など、保育者に必要な基礎的な文章表現力を身につけている。 ３．手紙の書き方を正しく理解している。 ４．敬語など、言葉での表現の仕方を正しく使うことができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション/短大で学ぶこと/ＡＬ補習の説明	予習	シラバスを読んでおく
			復習	これから学ぶ内容を理解する
第２回	内容	入学前ワークブックの振り返り①1 部（グループワーク）	予習	ワークブックを見直す
			復習	ワークブックの 1 部を完成させる
第３回	内容	入学前ワークブックの振り返り②2 部（3）について考える	予習	ワークブック 2 部（3）を確認する
			復習	課題を完成させる
第４回	内容	4 月の漢字/文章表現方法/保育の基礎用語	予習	教科書 p 16-17 を予習する
			復習	間違えた漢字や基礎用語を復習し覚える
第５回	内容	5・6 月の漢字/敬語での表現	予習	教科書 p 18-21 を予習する
			復習	間違えた漢字を復習し覚える/敬語を覚える
第６回	内容	入学前ワークブックの振り返り③2 部（1）（2）	予習	ワークブックを見直す
			復習	間違えた箇所を復習し覚える
第７回	内容	敬語（言葉での表現方法・グループワーク）/9 月の漢字/保育の基礎用語	予習	敬語のプリントを見直す/教科書 p 26-27 を予習する
			復習	間違えた漢字や基礎用語を復習し覚える
第８回	内容	10 月の漢字/手紙の書き方①構成・季語など	予習	教科書 p 28-29 を予習する
			復習	間違えた漢字を復習し覚える/季語を調べる
第９回	内容	手紙の書き方②手紙を書く	予習	手紙の書き方を理解する
			復習	手紙を完成させる
第 10 回	内容	12・2 月の漢字/保育の基礎用語	予習	教科書 p 32-33. 36-37 を予習する
			復習	間違えた漢字や基礎用語を復習し覚える
第 11 回	内容	理想とする保育者像（グループワーク/ディスカッション）	予習	保育者の仕事を確認する
			復習	自分の考えをまとめる
第 12 回	内容	3 月の漢字/レポートの書き方	予習	教科書 p 38-39 を予習する
			復習	レポートの書き方について理解する
第 13 回	内容	保育者になるために①文章表現/保育の基礎用語	予習	保育者に必要な資質を考える
			復習	課題を完成させる
第 14 回	内容	保育者になるために②作文	予習	保育者に必要な資質を整理する
			復習	課題を完成させる
第 15 回	内容	文章表現の確認・まとめ/保育の基礎用語	予習	文章表現・基礎用語の確認をする
			復習	文章表現・基礎用語の振り返りをする

予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題や確認テストに対し、返却し解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　課題（30%）、小テスト（20%）、発表（30%）、授業態度【積極的な取り組み】（20%）
教科書	『保育者になりたい人のためのワークブック～秋草学園短期大学・幼児教育学科の歩き方～』（秋草学園短期大学　幼児教育学科編） 『改訂版　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』（長島和代編、わかば社）
参考文献	
注意事項	必修科目のため、全員が履修すること。各自意欲をもって取組み、基礎学力の向上を図ること。ＡＬ（アクティブ・ラーニング）補習を活用すること。

科　目　名	基礎演習Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸 橋　聡 美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11103	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	本科目は、保育者に求められる語彙力、読解力、文章表現力を「基礎演習Ⅰ」からの継続として学修する。保育の基礎用語、文章表現力を身につけ、保育の実践記録の記入や読み取り、レポートの書き方など演習を通じて学ぶ。グループワーク等に参加し、ＡＬ（アクティブ・ラーニング）補習を活用しながら、学習する意欲・態度を身につける。
到 達 目 標	1. 専門科目を理解するための読解力が身についている。 2. 保育分野の基礎的な用語を説明できる。 3. 実習日誌や指導案の作成の基礎となる文章表現力を身につけている。 4. レポートの書き方を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.2　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	「基礎演習Ⅰ」の確認テスト/実習に向けてのワーク/ＡＬ補習の説明	予習	「基礎演習Ⅰ」の確認・復習
			復習	テストを振り返る
第２回	内容	保育の実践記録の文章表現方法/保育の基礎用語	予習	幼稚園のディリープログラムを確認する
			復習	課題を行う。基礎用語の説明を要約する
第３回	内容	保育の実践記録（幼稚園①年少・解説）/保育の基礎用語	予習	課題①を読んでおく
			復習	課題①を行う。基礎用語の説明を要約する
第４回	内容	保育の実践記録（幼稚園②年中・解説）/保育の基礎用語	予習	課題②を読んでおく
			復習	課題②を行う。基礎用語の説明を要約する
第５回	内容	保育の実践記録（幼稚園③年長・解説）	予習	課題③を読んでおく
			復習	課題③を行う。
第６回	内容	保育の実践記録（保育園①乳児・解説）/保育の基礎用語	予習	保育園の乳児クラスのディリープログラムを確認する/課題①を読んでおく
			復習	課題①を行う。基礎用語の説明を要約する
第７回	内容	保育の実践記録（保育園②幼児・解説）/保育の基礎用語	予習	保育園の幼児クラスのディリープログラムを確認する/課題②を読んでおく
			復習	課題②を行う。基礎用語の説明を要約する
第８回	内容	考察の書き方、エピソード記録の書き方	予習	教科書 p48～読んでおく
			復習	課題を行う。
第９回	内容	部分実習指導案①説明・文章表現/保育の基礎用語	予習	教科書 p 10～13 を読んでおく
			復習	課題を行う/基礎用語の説明を要約する
第 10 回	内容	部分実習指導案②絵本の読解/保育の基礎用語	予習	子どもの発達にあった絵本を選ぶ
			復習	課題プリントを完成させる/基礎用語の説明を要約する
第 11 回	内容	部分実習指導案③指導案作成・文章表現/保育の基礎用語	予習	教科書 p 54～57 を読んでおく
			復習	指導案を完成させる/基礎用語の説明を要約する
第 12 回	内容	部分実習指導案④グループワーク/保育の基礎用語	予習	課題プリントを読んでおく
			復習	グループワークを元に指導案を修正する/基礎用語の説明を要約する
第 13 回	内容	手紙の書き方②お礼状	予習	「基礎演習Ⅰ」手紙の書き方を確認する/実習を振り返る
			復習	お礼状を完成させる
第 14 回	内容	レポートの書き方Ⅱ①文献の調べ方	予習	文献を読む
			復習	調べたことを整理し、まとめる
第 15 回	内容	レポートの書き方Ⅱ③構成　/まとめ	予習	構成を考える
			復習	レポートを清書する（提出）

予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	確認テストを返却し、コメントをする。課題作成後、解説をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート（30%）、課題（40%）、授業態度【積極的な課題への取り組み】（30%）
教科書	『改訂版　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』（長島和代編、わかば社）/『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』 『実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド』（小櫃智子編、わかば社）
参考文献	
注意事項	必修科目のため、全員が履修すること。各自意欲をもって取組み、基礎学力の向上を図ること。ＡＬ（アクティブ・ラーニング）補習を活用すること。

科　目　名	基礎演習Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	きたざわ　あきこ 北澤　明子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11103	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	本科目は、保育者に求められる語彙力、読解力、文章表現力を「基礎演習Ⅰ」からの継続として学修する。保育の基礎用語、文章表現力を身につけ、保育の実践記録の記入や読み取り、レポー書き方など演習を通じて学ぶ。グループワーク等に参加し、ＡＬ（アクティブ・ラーニング）補習を活用しながら、学習する意欲・態度を身につける。
到達目標	１．　専門科目を理解するための読解力が身についている。 ２．　保育分野の基礎的な用語を説明できる。 ３．　実習日誌や指導案の作成の基礎となる文章表現力を身につけている。 ４．　レポートの書き方を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.2　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	「基礎演習Ⅰ」の確認テスト/実習に向けてのワーク/ＡＬ補習の説明	予習	「基礎演習Ⅰ」の確認・復習
			復習	テストを振り返る
第２回	内容	保育の実践記録の文章表現方法/保育の基礎用語	予習	幼稚園のディリープログラムを確認する
			復習	課題を行う。基礎用語の説明を要約する
第３回	内容	保育の実践記録（幼稚園①年少・解説）/保育の基礎用語	予習	課題①を読んでおく
			復習	課題①を行う。基礎用語の説明を要約する
第４回	内容	保育の実践記録（幼稚園②年中・解説）/保育の基礎用語	予習	課題②を読んでおく
			復習	課題②を行う。基礎用語の説明を要約する
第５回	内容	保育の実践記録（幼稚園③年長・解説）	予習	課題③を読んでおく
			復習	課題③を行う。
第６回	内容	保育の実践記録（保育園①乳児・解説）/保育の基礎用語	予習	保育園の乳児クラスのディリープログラムを確認する/課題①を読んでおく
			復習	課題①を行う。基礎用語の説明を要約する
第７回	内容	保育の実践記録（保育園②幼児・解説）/保育の基礎用語	予習	保育園の幼児クラスのディリープログラムを確認する/課題②を読んでおく
			復習	課題②を行う。基礎用語の説明を要約する
第８回	内容	考察の書き方、エピソード記録の書き方	予習	教科書 p48～読んでおく
			復習	課題を行う。
第９回	内容	部分実習指導案①説明・文章表現/保育の基礎用語	予習	教科書ｐ10～13 を読んでおく
			復習	課題を行う/基礎用語の説明を要約する
第 10 回	内容	部分実習指導案②絵本の読解/保育の基礎用語	予習	子どもの発達にあった絵本を選ぶ
			復習	課題プリントを完成させる/基礎用語の説明を要約する
第 11 回	内容	部分実習指導案③指導案作成・文章表現/保育の基礎用語	予習	教科書ｐ54～57 を読んでおく
			復習	指導案を完成させる/基礎用語の説明を要約する
第 12 回	内容	部分実習指導案④グループワーク/保育の基礎用語	予習	課題プリントを読んでおく
			復習	グループワークを元に指導案を修正する/基礎用語の説明を要約する
第 13 回	内容	手紙の書き方②お礼状	予習	「基礎演習Ⅰ」手紙の書き方を確認する/実習を振り返る
			復習	お礼状を完成させる
第 14 回	内容	レポートの書き方Ⅱ①文献の調べ方	予習	文献を読む
			復習	調べたことを整理し、まとめる
第 15 回	内容	レポートの書き方Ⅱ③構成　/まとめ	予習	構成を考える
			復習	レポートを清書する（提出）

予習に要する学習時間：概ね　20　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。

課題へのフィードバック	確認テストを返却し、コメントをする。課題作成後、解説をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　レポート（30%）、課題（40%）、授業態度【課題取組】(30%)
教科書	『改訂版　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』(長島和代編、わかば社) 『実習日誌・実習指導案　パーフェクトガイド』(小櫃智子編、わかば社)
参考文献	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
注意事項	必修科目のため、全員が履修すること。各自意欲をもって取組み、基礎学力の向上を図ること。ＡＬ（アクティブ・ラーニング）補習を活用すること。

科目名	基礎演習Ⅱ	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	しみず すみこ 清水 澄子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SEM11103	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	保育士、幼稚園教諭、各種施設職員などとして働く「職業人」に必要な、社会問題や時事問題などを中心とする基本的な常識を提供することを目的とする。幼児教育に携わる者は子どもを育てる技術はもちろんのこと、社会で生きていく人間としての基本的な知識が求められる。いわゆる「幅広い教養」を身に付けてもらうことを目的とする講義を行う。
到達目標	１．社会で起きていることに日々興味を持つ姿勢を身につけている。 ２．社会で起きていることについて自分なりに考え、意見や感想を述べることができる。 ３．自分の意見や感想などを人前で簡潔に発表できる。
学位授与方針	幼児教育学科（ ２，３ ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

業計画				
第１回	内容	オリエンテーション：15 回の授業で目指すことを説明。	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	新聞を読み、ニュースをみるようにする。
第２回	内容	基本的な知識の確認:プリントで問題をやり解説する。	予習	最近の出来事を思い出しておく。
			復習	プリントを読み直す。
第３回	内容	90 歳代の秋草出身女性が生きた時代	予習	秋草学園入学でもらった資料を読み直す。
			復習	戦前から戦後の暮らしを今と比べておく。
第４回	内容	昭和の時代に働いた保育士の話	予習	「昔の保育士」をネットで調べてみる。
			復習	保育士の仕事の苦労を復習する。
第５回	内容	少子高齢化問題：現状、原因、対策など	予習	なぜ出生率が下がっているのかを調べてみる。
			復習	自分の将来にもかかわる問題として自覚する。
第６回	内容	ブラック保育園に注意！：働いた人の現実から	予習	秋草にある求人票を見ておく。
			復習	必ず仲間と話し合ってみること。
第７回	内容	日本人の賃金：保育士の賃金はなぜ低い？	予習	保育士の賃金を調べてみる。
			復習	賃金格差問題を真剣に考えてみる。
第８回	内容	私が出会ったホームレス女性：女性の貧困問題	予習	ホームレスについて調べておく。
			復習	どうしたら貧困に陥らないかを考える。
第９回	内容	子どもへの虐待問題：その現実と原因、対策など	予習	子どもへの虐待事件を調べてみる。
			復習	保育士や幼稚園教諭が出来ることを考える。
第 10 回	内容	子どもが巻き込まれる犯罪：どうしたら防げるか	予習	最近起きた子どもが犠牲となった犯罪を調査。
			復習	どうしたら防げるかをもう一度考える。
第 11 回	内容	日本の男性の現実：育休が取りにくい現実など	予習	育児休業取得率を調べておく。
			復習	日本の男性特有の問題を頭に入れておく。
第 12 回	内容	海外の保育士の現実と海外で働く保育士になるには	予習	北欧の保育園、保育士を調べてみる。
			復習	将来、どこでどのように働くかを考える。
第 13 回	内容	保育士による虐待：その原因と対策	予習	保育士の苦労を考えてみる。
			復習	虐待しない保育士になる秘訣を考える。
第 14 回	内容	今年の出来事のまとめ：4 月以降にあった重要な時事	予習	4 月以降に起きた様々な事柄を思い出す。
			復習	あなたにとっての入学以降を考えてみる。
第 15 回	内容	全 14 回の復習とレポート作成	予習	今までの授業全体を振り返る。
				1000 字の作文を書く準備をする。
			復習	何が身に付いたかをもう一度思い出す。
予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	何度か細かいレポート提出を求める。その時に、思い出しながらもう一度授業でやったことを噛みしめる。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○ ）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（50 %）、作品・発表（20 %）、実技（ %）、授業態度【意欲的学習態度 】（ 30 %）
教科書	なし。その都度資料を作成して（基本的には A4 で 7 枚程度）渡します。
参考文献	日常的に流されるニュースや新聞など。
注意事項	

科目名	情報機器操作	単位数	2	授業時間数	３０	担当教員	ほしの　おさむ 星野　治
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDT11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	Microsoft Office に含まれる事務処理系ソフトウェア群のうち、文書作成用ソフトウェア（Word）、表計算用ソフトウェア（Excel）およびプレゼンテーション用ソフトウェア（PowerPoint）の基本的な取り扱いかたを学ぶ。 第２回～第 14 回の授業では、相隣り合う２～３コマずつの授業をペアとして進行する。各ペアの前半ではソフトウェアの基本操作を主に講義形式で、同じく後半ではソフトウェアの応用操作を主に自習形式で学びつつ、２～３コマの授業時間を使って１つの課題を仕上げる。
到達目標	1. 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法を習得している。 2. パソコン初心者は、「覚えるよりも慣れること」の大切さを理解している。 3. パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
第１回	内容	ガイダンス 情報リテラシー、サインイン・サインアウト、Windows の基礎知識、日本語入力、Gmail、Classroom、その他	予習	シラバスを読んでおく。
			復習	パソコンの基本操作を確実に行う。
第２回	内容	Word の学習(1a)① やさしい文書の作成、その他	予習	Word の編集画面の内容を理解する。
			復習	教科書を用いて入力練習をする。
第３回	内容	Word の学習(1b) 表の取り扱い、文章の修飾(フォント、下線、網かけ、レイアウト、等々)、その他	予習	表の取り扱い（Word の場合）について確認する。
			復習	指定された課題（表付き文書）を作成する。
第４回	内容	Word の学習(2a) 文章の修飾（クリップアート、ワードアート、図・画像の挿入、ページ罫線）、その他	予習	文書の基本的な修飾機能について確認する。
			復習	指定された課題（修飾付き文書）を作成する。
第５回	内容	Word の学習(2b) やや高度な文書加工（ページ番号、ヘッダー・フッター、段落、文字列の検索・置換）、その他	予習	文書の応用的な修飾機能について確認する。
			復習	指定された課題（応用修飾付き文書）を作成する。
第６回	内容	Excel の学習(1a) 基本的な表（数表）の作成、その他	予習	Excel の編集画面の内容を理解する。
			復習	表作成を通して Word の操作との違いを理解する。
第７回	内容	Excel の学習(1b) 表（数表）の作成（関数の取り扱い、文字の装飾、行・列の加工、等々）、その他	予習	教科書などを通して組み込み関数を確認する。
			復習	指定された課題（計算付き数表）を作成する。
第８回	内容	Excel の学習(2a) データ処理の応用（条件判定、セル参照、グラフ）、その他	予習	条件判定の指定方法について確認する。
			復習	指定された課題（条件付き数表）を作成する。
第９回	内容	Excel の学習(2b) より高度なデータ処理（簡単なデータベース、フィルタリング）、その他	予習	入力値の並べ替え方法について確認する。
			復習	指定された課題（入力値の抽出処理）を作成する。
第 10 回	内容	PowerPoint の学習(1) スライド作成の基本（文字入力、スライドの編集(挿入・削除・置換)）、その他	予習	PowerPoint の編集画面の内容を理解する。
			復習	指定された課題（簡単なスライド）を作成する。
第 11 回	内容	PowerPoint の学習(2) スライド作成の応用（図表・画像の挿入、マルチメディア効果）、その他	予習	スライドの応用的な修飾方法について確認する。
			復習	指定された課題（前回の成果物の改良）を作成する。
第 12 回	内容	ソフトウェアの応用(1) 長文レポート（鑑賞文など）の作成、その他	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。
			復習	指定された課題（両ソフトの同時利用）を作成する。
第 13 回	内容	ソフトウェアの応用(2) Excel を用いた数学問題の求解、その他	予習	各ソフトウェアの応用操作を再確認する。
			復習	指定された課題（数学問題の求解など）を作成する。
第 14 回	内容	ソフトウェアの応用(3) Word や Excel を併用したスライドの作成、その他	予習	各ソフトウェアの基本操作を再確認する。
			復習	指定された課題（授業時に指示する）を作成する。
第 15 回	内容	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報リテラシーに関する各自の見解のまとめ	予習	これまでの課題全般に目を通しておく。
			復習	授業時に指定された内容のレポートを作成する。
予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	提出されたレポート・課題については、必要に応じて改訂増補された成果物の再提出を求める。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（50%）、授業態度【積極的参加】（50%）
教科書	『Windows10 対応　30 時間でマスター　Office2019』（実教出版企画開発部、実教出版株式会社）
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	授業の進行状況に応じて、授業計画の内容を適宜変更する場合がある。 パソコンの操作はピアノの演奏と同様に、触れる機会が多ければ多いほど早く上達する。また、パソコンとスマートフォンとは、用途も使い勝手も互いに全く異なるIT機器同士である。スマートフォンの操作はできる反面パソコンに対して苦手意識があるという人は、時間の許す限り、たとえば授業時間外にネットサーフィンを行う等して、パソコンの取り扱いに慣れ親しむようにしてほしい。

科目名	英語	単位数	2	授業時間数	60	担当教員	なかじま なおき 中島 尚樹
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ENL11101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	この授業は、実践的な英語力の基礎を身につけるためのものです。日常生活の身近な話題に関して、英語で理解し、表現できるようになることを目指して、基本的な文法と語彙の学習から英作文に至るまで発信型の練習をしていきます。また、英語の歌や月の名前の由来などの文化的な話題にも触れたいと思っています。
到達目標	１．Be 動詞の構文（現在と過去）を正しく使うことができる。 ２．一般動詞の構文（現在と過去）を正しく使うことができる。 ３．日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（２、５ ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	授業説明 (年間の授業の流れ、評価方法、履修上の注意点など)	予習	シラバスを読む。
			復習	１年間の授業の流れを確認する。
第２回	内容	Pre-Unit 品詞と語順 (英語の品詞と基本語順)	予習	Pre-Unit の部分を読んで、問題をやる。
			復習	各品詞の例を自分で考えてみる。
第３回	内容	文法：名詞と代名詞 (名詞と代名詞の種類、主格の代名詞)	予習	代名詞の分類をしてみる。
			復習	指示に沿って代名詞についてまとめる。
第４回	内容	文法：Be 動詞の現在形(肯定文) (Be 動詞＋名詞句/形容詞句/前置詞句)	予習	プリント１の説明部分を読み、例文を訳す。
			復習	プリント１の練習問題の訳をノートに書く。
第５回	内容	文法：Be 動詞の現在形(否定文と疑問文) (Be 動詞＋名詞句/形容詞句/前置詞句)	予習	プリント２の説明部分を読み、例文を訳す。
			復習	プリント２の練習問題の訳をノートに書く。
第６回	内容	文法：Be 動詞の過去形 (肯定文、否定文、疑問文)	予習	プリント３の説明部分を読む。
			復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
第７回	内容	Unit 1 First Day of Class (be 動詞の構文)	予習	テキストＵ１の Grammar Aid の部分を読む。
			復習	Ｕ１の Conversation の B を聞いて音読する。
第８回	内容	文法：There 構文 (人やモノの存在を表す表現)	予習	プリント４の説明部分を読み、例文を訳す。
			復習	これまで出てきた Be 動詞の構文をまとめる。
第９回	内容	文法：一般動詞の現在形(肯定文) (主語によって変わる現在形の動詞の形)	予習	プリント５の説明部分を読む。
			復習	プリント５の練習問題の訳をノートに書く。
第 10 回	内容	文法：一般動詞の現在形(否定文) (don't/doesn't の区別と使い方)	予習	プリント６の説明部分を読み、例文を訳す。
			復習	プリント６の練習問題の訳をノートに書く。
第 11 回	内容	文法：一般動詞の現在形(疑問文) (Do/Does の区別と使い方)	予習	プリント７の説明部分を読み、例文を訳す。
			復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
第 12 回	内容	Unit 2 I love Bread (一般動詞の現在形)	予習	テキストＵ２の Grammar Aid の部分を読む。
			復習	Ｕ２の Conversation の B を聞いて音読する。
第 13 回	内容	Unit 3 Pizza Time (可算名詞と不可算名詞)	予習	テキストＵ３の Grammar Aid の部分を読む。
			復習	Ｕ３の Conversation の B を聞いて音読する。
第 14 回	内容	Unit 4 Not Just a Baker (代名詞：所有格、目的格)	予習	テキストＵ４の Grammar Aid の部分を読む。
			復習	Ｕ４の Conversation の B を聞いて音読する。
第 15 回	内容	まとめ：be 動詞と一般動詞の現在形など (文法問題の練習と英作文)	予習	これまで学んだ構文を自分で整理する。
			復習	これまで出てきた単語を整理し、まとめる。
第 16 回	内容	文法：時点を表す副詞的な表現 (基本的な時間表現と前置詞の有無)	予習	これまで出てきた時間表現を書き出してみる。
			復習	プリント８の時間表現を自分でまとめる。
第 17 回	内容	文法：文型と前置詞 (文型と位置や移動を表す前置詞)	予習	これまでの空間関係の前置詞をまとめる。
			復習	学んだ文型の具体例を書き出して整理する。
第 18 回	内容	Unit 7 I Feel Healthy Already! (時と場所を表す前置詞)	予習	テキストＵ７の Grammar Aid の部分を読む。
			復習	Ｕ７の Conversation の B を聞いて音読する。
第 19 回	内容	文法：一般動詞の過去形(肯定文) (規則動詞と不規則動詞)	予習	プリント９の説明部分を読み、例文を訳す。
			復習	リストにある不規則動詞の過去形を覚える。
第 20 回	内容	文法：一般動詞の過去形(疑問文・否定文) (Did … と didn't の使い方)	予習	プリント 10 の説明部分を読み、例文を訳す。
			復習	プリント 10 の練習問題の訳をノートに書く。

	第 21 回	内容	Unit 5　What's Wrong with Hitomi? (一般動詞の過去形)	予習	テキストＵ５の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ５の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 22 回	内容	Unit 11　Hitomi wants a New Look (接続詞)	予習	テキストU11 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	U11 の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 23 回	内容	文法：Wh 疑問文 (疑問詞が主語の場合とそれ以外の場合の Wh 疑問文)	予習	知っている疑問詞をまとめる。
				復習	出てきた疑問詞を整理し、例文を作る。
	第 24 回	内容	Unit 13　I'm Meeting a Friend (疑問詞)	予習	テキストU13 の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	U13 の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 25 回	内容	文法：現在進行形 (現在時の動作の進行を表す表現)	予習	プリント 11 の説明を読む
				復習	プリント 11 の練習問題の訳をノートに書く。
	第 26 回	内容	文法：現在進行形と現在形 (現在進行形と現在形の違い)	予習	プリント 12 の説明部分の例文を訳す。
				復習	現在進行形と現在形の違いについてまとめる。
	第 27 回	内容	文法：過去進行形 (過去のある時点の動作の進行を表す表現)	予習	プリント 13 の説明部分を読む。
				復習	これまでの単語をまとめ、単語帳を作る。
	第 28 回	内容	Unit 6　It Won't Hurt (進行形)	予習	テキストＵ６の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	Ｕ６の Conversation の B を聞いて音読する。
	第 29 回	内容	Unit 8　Small Talk (未来形)	予習	テキストＵ８の Grammar Aid の部分を読む。
				復習	これまでの語彙と構文を整理して総復習する。
	第 30 回	内容	まとめ：一般動詞の過去形、現在・過去進行形など。 (文法問題の練習と英作文)	予習	これまでの構文を整理し、疑問点をまとめる。
				復習	試験に出る英作文を覚える。
	予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。				
課題へのフィードバック	試験は、試験後に解答についての解説をし、達成度に関するコメントを加えます。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○ ）する／（　 ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（９０％)、授業態度【積極的な参加や真摯な学習態度】(１０％)				
教科書	*English Aid*　(Robert Hickling・臼倉美里、金星堂)				
参考文献					
注意事項	初回の授業でテキストの音声のダウンロードの仕方を説明しますので、教科書を持参してください。				

科　目　名	英　語	単 位 数	2	授業時間数	６０	担当教員	林（はやし）　貴子（たかこ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ENL11101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	本授業は、英語の基礎学力と、基本的な英語のコミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。 幼児教育の現場で使う英会話や、英語の歌や絵本の読み聞かせができ、季節のイベントを英語で説明する力等を身に着けます。 幼児教育者の英語資格である「幼保英語検定（幼児教育・保育英語検定）」の対策を行います。
到達目標	１．英語の基礎学力（読む・書く・聞く・話す）を体得している。 ２．幼保英語の基礎的な文法を理解したうえで、定型的なフレーズを用いた英語での会話ができる。 ３．海外にルーツをもつ園児や保護者に対して、英語でコミュニケーションを取ることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2, 4, 5 ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	授業ガイダンス（年間の授業の流れ、評価方法など）	予習	シラバスを読む
			復習	1 年間の授業の流れを確認する
第２回	内容	Unit 1: 挨拶・自己紹介	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第３回	内容	Unit 2:　園内の案内、道案内	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第４回	内容	Unit 3: 登園時の会話、体調を聞く	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第５回	内容	幼児教育・保育英語検定①：幼保英語検定の問題に挑戦してみよう	予習	これまで教科書で学んだ語彙や会話を確認する
			復習	授業で解いた問題を復習する
第６回	内容	幼児向け DVD・音楽を鑑賞する①	予習	地域性とシーンの関係性を調べる
			復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
第７回	内容	【発表】英語の絵本の読み聞かせをしよう①：「Miffy is naughty」	予習	発表用絵本の英語の発音や意味を確認しておく
			復習	英語での読み聞かせがｽﾑｰｽﾞに出来るようにする
第８回	内容	Unit 4: 工作時間の会話、英語で「かぐや姫」を読む	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第９回	内容	Unit 5: 園外散歩での会話、集団で行う園活動	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第 10 回	内容	Unit 6: 園庭での会話、英語で「桃太郎」を読む	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第 11 回	内容	幼児教育・保育英語検定②：幼保英語検定の問題に挑戦してみよう	予習	これまで教科書で学んだ語彙や会話を確認する
			復習	授業で解いた問題を復習する
第 12 回	内容	幼児向け DVD・音楽を鑑賞する②	予習	地域性とシーンの関係性を調べる
			復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
第 13 回	内容	【発表】英語の絵本の読み聞かせをしよう②：「金の斧 銀の斧」	予習	発表用絵本の英語の発音や意味を確認しておく
			復習	英語での読み聞かせがｽﾑｰｽﾞに出来るようにする
第 14 回	内容	Unit 7: 保護者からの相談、食材の名前	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第 15 回	内容	前期授業全体のまとめ	予習	既習項目について、得意・不得意を分析する
			復習	既習項目について、不得意項目の克服を図る
第 16 回	内容	Unit 8: お昼寝時間の会話、英語のジェスチャー	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第 17 回	内容	Unit 9：降園時の会話	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第 18 回	内容	Unit 10: 園行事予定についての会話	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
			復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
第 19 回	内容	幼児教育・保育英語検定③：幼保英語検定の問題に挑戦してみよう	予習	これまで教科書で学んだ語彙や会話を確認する
			復習	授業で解いた問題を復習する
第 20 回	内容	幼児向け DVD・音楽を鑑賞する③	予習	地域性とシーンの関係性を調べる
			復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
	内容		予習	発表用絵本の英語の発音や意味を確認しておく

	第 21 回		【発表】英語の絵本の読み聞かせをしよう③：「ももたろう」	復習	英語での読み聞かせがｽﾑｰｽﾞに出来るようにする
	第 22 回	内容	Unit 11: ネイティブとの打ち合わせ	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
				復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
	第 23 回	内容	Unit 12: 体調不良の園児との会話	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
				復習	授業で学んだ Unit の語・彙と表現を覚える
	第 24 回	内容	Unit 13: 保護者との電話、英語で「浦島太郎」を読む	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
				復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
	第 25 回	内容	幼児教育・保育英語検定④：幼保英語検定の問題に挑戦してみよう	予習	これまで教科書で学んだ語彙や会話を確認する
				復習	授業で解いた問題を復習する
	第 26 回	内容	幼児向け DVD・音楽を鑑賞する④	予習	地域性とシーンの関係性を調べる
				復習	保育現場で活用できるフレーズなどをまとめる
	第 27 回	内容	【発表】英語の絵本の読み聞かせをしよう④：「さるかにかっせん」	予習	発表用絵本の英語の発音や意味を確認しておく
				復習	英語での読み聞かせがｽﾑｰｽﾞに出来るようにする
	第 28 回	内容	Unit 14: 最後の日の会話、お礼の表現	予習	Unit の Your Vocabulary 問題を解いておくこと
				復習	授業で学んだ Unit の語彙と表現を覚える
	第 29 回	内容	クリスマスについいて学ぶ①「赤鼻のトナカイ～Rudolph, the red nosed reindeer～」を英語で歌ってみよう。	予習	クリスマスについて調べる
				復習	歌を英語で歌えるようにする
	第 30 回	内容	クリスマスについて学ぶ②サンタクロースについての社説’*The New York Sun*, written by Francis P. Church’を読む	予習	社説にでてくる単語を調べる
				復習	サンタクロースについて考える
	予習に要する学習時間：概ね　40　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。				
課題へのフィードバック	単元の終了ごとに行う小テスト実施後に、解答についての解説を行います。英語の歌や絵本の読み聞かせの発表に関しても、英語の発音等について講評します。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　授業内小テスト（　40　%)、発表または課題（ 30% ）、授業態度【　積極的参加　　】（　30　%）				
教科書	『Happy English for Childcare』（土屋麻衣子、金星堂）				
参考文献	なし（必要な資料は印刷して配布します。）				
注意事項	辞書（電子辞書・紙の辞書どちらでも可）を持参すること。スマートフォンの使用は不可。				

科　目　名	生活の科学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	きたの　なかむら 北野・中村
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ECE11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	１．水とは何か。水の果たしている役割、水の量的側面及び水の種々の性質について学ぶ。 ２．食と病気の関係、特に発がん性について学ぶ。 ３．農薬や食品添加物についてその役割及び安全性評価の現状について学ぶ。 ４．身近な作物の起源について学ぶ。
到達目標	１．健康な生活を送るための食生活の在り方について理解している。 ２．食の安全に関し、農薬や食品添加物の役割と賢い使い方を理解している。 ３．上記の理解に基づき、日常生活の中で環境に配慮した生活を送るよう意識している。 ４．身近な作物の起源とその来歴を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（2.3.4.5）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	オリエンテーション 地球の誕生と水の果たした役割 水の種々の性質 美味しい水の条件 水の価格	予習	講義の前にプリントを配布するので事前によく読み、理解しづらい部分をマークしておくこと。また、プリントに関連する内容を自らも調べておくこと。
				復習	講義中わかりづらかった点をマークし、次回の講義の時に質問をし、知識を確実なものとすること。
	第２回	内容	水の価値 資源としての水 各国の降水量 家庭における水の消費量	予習	講義の前にプリントを配布するので事前によく読み、理解しづらい部分をマークしておくこと。また、プリントに関連する内容を自らも調べておくこと
				復習	講義中わかりづらかった点をマークし、次回の講義の時に質問をし、知識を確実なものとすること。
	第３回	内容	食の安全 食品の不安要素 我が国の食の問題点、特に食料自給率	予習	講義の前にプリントを配布するので事前によく読み、理解しづらい部分をマークしておくこと。また、プリントに関連する内容を自らも調べておくこと
				復習	講義中わかりづらかった点をマークし、次回の講義の時に質問をし、知識を確実なものとすること。
	第４回	内容	食と栄養 食品の機能表示 食と発がん性との関係	予習	講義の前にプリントを配布するので事前によく読み、理解しづらい部分をマークしておくこと。また、プリントに関連する内容を自らも調べておくこと
				復習	講義中わかりづらかった点をマークし、次回の講義の時に質問をし、知識を確実なものとすること。
	第５回	内容	食品添加物について 　歴史 　必要性と原則 　役割 　分類 　摂取量	予習	講義の前にプリントを配布するので事前によく読み、理解しづらい部分をマークしておくこと。また、プリントに関連する内容を自らも調べておくこと。
				復習	講義中わかりづらかった点をマークし、次回の講義の時に質問をし、知識を確実なものとすること。
	第６回	内容	農薬について 　歴史 　分類 　必要性と役割 　残留基準 　摂取量	予習	講義の前にプリントを配布するので事前によく読み、理解しづらい部分をマークしておくこと。また、プリントに関連する内容を自らも調べておくこと
				復習	講義中わかりづらかった点をマークし、次回の講義の時に質問をし、知識を確実なものとすること。
	第７回	内容	毒性試験の方法と結果の表示法 動物実験結果から人への外挿法	予習	講義の前にプリントを配布するので事前によく読み、理解しづらい部分をマークしておくこと。また、プリントに関連する内容を自らも調べておくこと
				復習	講義中わかりづらかった点をマークし、次回の講義の時に質問をし、知識を確実なものとすること。
	第８回	内容	総復習	予習	これまでに配布されたプリントを読み直し、理解の程度を確実にしておく。
				復習	これまで学んだことがきちんと理解できているか、友人に説明することで自らの理解の程度を把握すること。
	第９回	内容	身近な野菜の起源と伝播①アブラナ科の作物 突然変異と人為選択について	予習	事前に配布する資料を読む。
				復習	授業で理解したことについてレポートを作成する。
	第10回	内容	身近な野菜の起源と伝播②ナス科の作物 作物の多様性について	予習	事前に配布する資料を読む。
				復習	授業で理解したことについてレポートを作成する。
	第11回	内容	身近な野菜の起源と伝播③ウリ科の作物 メンデルの遺伝の法則について	予習	事前に配布する資料を読む。
				復習	授業で理解したことについてレポートを作成する。
	第12回	内容	身近な野菜の起源と伝播④根菜類 農業の歴史について	予習	事前に配布する資料を読む。
				復習	授業で理解したことについてレポートを作成する。
	第13回	内容	身近な穀物の起源と伝播①イネ科の作物 稲作の起源と伝播について	予習	事前に配布する資料を読む。
				復習	授業で理解したことについてレポートを作成する。
	第14回	内容	身近な穀物の起源と伝播②マメ科の作物 農業と文明の起源について	予習	事前に配布する資料を読む。
				復習	授業で理解したことについてレポートを作成する。

<table>
<tr><td rowspan="3"></td><td>第 15 回</td><td>内容</td><td rowspan="2">茶やコーヒーなど嗜好作物の起源
嗜好作物の起源と歴史</td><td>予習</td><td>事前に配布する資料を読む。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>復習</td><td>授業で理解したことについてレポートを作成する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。</td></tr>
<tr><td>課題へのフィードバック</td><td colspan="5">アクティブラーニングとするために、授業中に質問を行う、また意見を求める。授業中に行う質問についてはその都度、正解を学生に与え、正解ごとにレポートの点数に 1 点加点する。意見は論理だったものであれば 1 点加点する。(北野)
授業終了 10 分前に、本日の講義について感想や質問のレポートを提出し、翌週にそれらについて回答する。(北野)
Google Classroom を用いてレポート課題に対するフィードバックを行う。(中村)
必要に応じて、レポートに対する個人指導を行う。(中村)</td></tr>
<tr><td>成績評価</td><td colspan="5">試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない
成績評価の方法：　筆記試験（　%)、レポート・課題（90%)、作品・発表（　%)、実技（　%)、授業態度【積極的参加】(10%)</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="5">特になし。次回授業で使用するプリントを講義終了時に配布する。</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="5">必要に応じその都度プリントを配布し、教科書の記述内容の補完をする。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="5">第 1 回から第 8 回の講義は北野が担当します。第 9 回から第 15 回は中村が担当します。
この授業で学んだことを、ぜひ日常生活の中で実践してほしい。</td></tr>
</table>

科目名	表現とアート	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	おぐち しおざき はせがわ 小口・塩崎・長谷川
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	ARE11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	領域「表現」に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや音環境、造形表現の効果的な使い方について学ぶ。また、総合的な表現をグループで検討・実践することで、保育者として必要な知識・技能やコミュニケーション力を高め、豊かな感性と表現力を身に付ける。さらに ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。
到達目標	1. 見る・聴く・動く・作るなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2. 生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3. それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができている。 4. 他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2・5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第1回	内容	オリエンテーション：総合的な表現について理解する。	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる
			復習	本時の内容についてノートにまとめる
第2回	内容	発表の方法を理解し、グループの意見を集約して共通テーマに沿った構成を考える。	予習	テーマに沿った構成を自分なりに考えてくる
			復習	テーマに沿った歌や動き、造形についてまとめる。
第3回	内容	テーマに合った表現を考えグループごとに発表内容を構成用紙に iPad へ入力する。	予習	テーマにあった表現方法を考える。
			復習	iPad で入力した授業内の話し合いを確認しながら、発表内容の概要をまとめる
第4回	内容	テーマにあった動きを考え、グループ創作する。創作した作品を動画で撮影し、振り返りに活用する。	予習	テーマに合わせた身体表現の題材について考えてくる
			復習	本時の活動を動画にまとめる
第5回	内容	音や音楽の表現の効果について理解し、グループごとに計画をする。	予習	第1回の授業を確認しておく
			復習	本時の内容についてノートにまとめ、音楽を扱うことを理解する
第6回	内容	大道具、小道具などについての視覚的表現効果について理解し、グループごとに計画をする。	予習	造形物制作の道具、材料について調べ理解しておく
			復習	発表内容に合わせた制作分担について共有しておく
第7回	内容	発表内容に合わせ、身体表現や音楽表現、造形表現を工夫し、全体の流れを動画や画像で記録する（ICT の活用）。	予習	発表内容の概要をふまえ、身体表現や音楽、造形表現の案を考えたり、関連する楽曲を調べたりする
			復習	動画を確認し、身体表現や音楽表現の方法をノートにまとめ、動画を活用しながら練習する（ICT の活用）
第8回	内容	リハーサル（第1回）	予習	発表の内容を確認し、練習する
			復習	各自で振り返り、修正箇所を考える
第9回	内容	リハーサル（第1回）をふまえ、表現内容の修正点などについて検討する。道具などの作成を進める。	予習	発表の修正箇所をまとめる
			復習	検討した内容をノートにまとめる
第10回	内容	表現の再検討をふまえ、発表内容をブラッシュアップして最終案を検討する。	予習	練習のスケジュールを考える
			復習	本時の動画等を活用しながら練習する（ICT の活用）
第11回	内容	リハーサル（第2回）	予習	前時までの内容を確認し、発表の進行について理解を深める
			復習	表現内容の修正点とその理由をノートにまとめる
第12回	内容	発表会の準備：発表会の運営について理解し、計画する。	予習	前時までの授業内容を確認し、表現内容の修正案を考える
			復習	本時の動画等を活用しながら練習する（ICT の活用）
第13回	内容	発表会	予習	最終案を確認し、自分の役割を覚える
			復習	発表の振り返りをふまえ、総合的な表現の要点をノートにまとめる
第14回	内容	振り返り：発表会を振り返り、グループディスカッションをする。	予習	前時までのノートを確認し、総合的な表現についてまとめておく
			復習	グループ討議をふまえ、総合的な表現の意義について、ノートにまとめる
第15回	内容	まとめ：発表作品を動画にまとめる（グループ活動）	予習	発表作品を動画にまとめる素材を考える
			復習	各グループの動画作品を見て感想を記入する

予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。

課題へのフィードバック	学生の振り返りにコメントをする。 作品について、指導、講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（ %）、レポート・課題（30%）、作品・発表（ 30%）、実技（ 20%）、授業態度【積極的参加】(20%)
教科書	『保育で使える！子どもと遊ぶ＜表現＞–感性と実践力を磨く』(塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎)

参考文献	
注意事項	活動しやすい服装で参加してください。 人数を 50 名定員とします。超えた場合は、抽選などで調整をする場合があります。 塩崎（15 回）、小口（15 回）、長谷川（15 回）

科　目　名	データサイエンス	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	ほしの　おさむ 星野　治
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	STS11101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面　・（遠隔）・　その他（　　）
授業の内容	本授業では、パソコンの表計算ソフトウェアを併用した統計処理の基本を学ぶ。また、実在の集計データ（学外事業体が公開提供しているものなど）を用いて、データ処理業務の一端を模擬的に体験する。さらに、統計処理の意義を念頭に置きつつ、情報リテラシー（情報倫理や情報セキュリティーなどを前提とする、業務上の判断能力）の在りかたを考察する。 この授業は各年度一年生（学科不問）向けの選択科目として開講されるが、在学生（二年生以上／学科不問）も履修することができる。
到達目標	１．　データ処理演習を通して、データが内包する様々な情報の意味を理解できる。 ２．　パソコンを積極的に活用する作業について、その利便性や問題点を理解できる。 ３．　今後の社会に必要とされる基本的な数理的思考や、データの分析・活用ができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　3,4,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	授業全体のガイダンス	予習	シラバスを読んで、授業の流れを把握する。
			復習	ガイダンス資料を精読して、疑問点を整理する。
第２回	内容	統計学を学ぶ意義	予習	教科書第１章を通読する。
			復習	教科書第１章の内容を精読し理解する。
第３回	内容	可視化を通して分かるデータの性質	予習	教科書第２章を通読する。
			復習	演習を通して教科書第２章の内容を理解する。
第４回	内容	様々な統計量①（平均値、中央値、最頻値、最大値、最小値、その他）	予習	教科書第３章の前半を通読する。
			復習	演習を通して教科書第３章前半の内容を理解する。
第５回	内容	様々な統計量②（歪度、尖度、標準偏差、分散、その他）	予習	教科書第３章の後半を通読する。
			復習	演習を通して教科書第３章全体の内容を理解する。
第６回	内容	様々な統計量③（順位、偏差値、ABC 分析、その他）	予習	教科書第４章を通読する。
			復習	演習を通して教科書第４章全体の内容を理解する。
第７回	内容	情報リテラシー入門（情報リテラシーとは何か）	予習	配布資料を通読する。
			復習	配布資料の内容を精読し理解する。
第８回	内容	統計処理の模擬業務①（実在のデータに対する各種統計処理の実践）	予習	配布資料を通読して、必要な準備作業を行う。
			復習	統計処理を通して各種統計量の意義を理解する。
第９回	内容	統計学演習①（相関関係、回帰分析、その他）	予習	教科書第５章の前半を通読する。
			復習	演習を通して教科書第５章前半の内容を理解する。
第 10 回	内容	統計学演習②（重回帰分析、その他）	予習	教科書第５章の後半を通読する。
			復習	演習を通して教科書第５章全体の内容を理解する。
第 11 回	内容	統計学演習③（時系列解析、その他）	予習	教科書第６章を通読する。
			復習	演習を通して教科書第６章全体の内容を理解する。
第 12 回	内容	統計学演習④（平均値の差の検定、分散の差の検定、その他）	予習	教科書第７章を通読する。
			復習	演習を通して教科書第７章全体の内容を理解する。
第 13 回	内容	統計学演習⑤（独立性の検定、相関の検定、重回帰分析の検定、その他）	予習	教科書第８章を通読する。
			復習	演習を通して教科書全章全体の内容を理解する。
第 14 回	内容	統計処理の模擬業務②（実在のデータに対する各種統計処理の実践、および得られた結果に対する解釈・考察）	予習	配布資料を通読して、必要な準備作業を行う。
			復習	処理結果に関する解釈・考察をレポート化する。
第 15 回	内容	全体の総括（統計処理の立場からみた情報リテラシー）	予習	教科書全体および全配布資料を通読する。
			復習	情報リテラシーの在りかたを再度考察する。

予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業開講期間中、実在の集計データに対する統計処理を行い、その処理結果から得られる解釈・考察の内容をレポート化する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（50%）、作品・発表（25%）、授業態度【積極的参加】(25%)
教科書	『やさしく学ぶ　データ分析に必要な統計の教科書』(羽山　博著、株式会社インプレス刊)
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	１．　本授業で取り上げる統計処理では、いずれも Microsoft Excel の標準搭載機能を利用する。そのため、本授業の履修を通して、“統計学の基本知識の習得”および“Microsoft Excel の操作全般に係る総復習”の機会を得ることができる。 ２．　上記「授業計画」の内容は、授業の実際の進行具合などに応じて、適宜変更されることがある。 ３．　担当教員の業務都合などの理由を通して授業の開講日時が変更される場合は、教務課掲示板等にて通知する。

科　目　名	ＳＤＧｓ入門	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	ほしの　おさむ 星野　治 他、全 10 名
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SES11101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	SDGs（Sustainable Development Goals の略称。日本語訳は「持続可能な開発目標」）の具体的な内容の学習を通して、日本および世界の現状を知るとともに、社会の一員としての自己啓発意識を育てる。 この授業は、所属学科を問わず、誰でも履修または聴講することができる。
到達目標	１．SDGs の提唱意義および内容を理解している。 ２．SDGs への理解を通して、日本および世界の現状を見抜く洞察力を習得している。 ３．SDGs の学習を通して、社会人としての自覚を持ち、社会への貢献に係る考察力を身に付けている。
学位授与方針	幼児教育学科（ 3,4,5 ）地域保育学科（ 2,3,5 ）文化表現学科（ 2,3,4 ）

授業計画

第１回	内容	総論（授業の進め方、MDGs から SDG へ、SDGs 制定の歴史的背景、MDGs と SDGs の相違、SDGs の内容など）［北野］	予習	シラバスに目を通しておく。
			復習	授業の目的を理解する。
第２回	内容	目標１：あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる［志濃原］	予習	SDGs の「目標１」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第３回	内容	目標２：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する［平山］	予習	SDGs の「目標２」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第４回	内容	目標３：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する［関］	予習	SDGs の「目標３」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第５回	内容	目標４：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する［伊澤］ 目標５：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る［松木］	予習	SDGs の「目標４」および「目標５」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第６回	内容	目標６：すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する［北野］	予習	SDGs の「目標６」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第７回	内容	目標７：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する［北野］	予習	SDGs の「目標７」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第８回	内容	目標８：すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する［野中］	予習	SDGs の「目標８」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第９回	内容	目標９：レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る［中村］ 目標 11：都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする［星野］	予習	SDGs の「目標９」および「目標 11」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 10 回	内容	目標 10：国内および国家間の不平などを是正する［渡辺］ 目標 16：平和と公正をすべての人に［渡辺］	予習	SDGs の「目標 10」および「目標 16」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 11 回	内容	目標 12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する［中村］	予習	SDGs の「目標 12」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 12 回	内容	目標 13：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る［北野］	予習	SDGs の「目標 13」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 13 回	内容	目標 14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する［中村］	予習	SDGs の「目標 14」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 14 回	内容	目標 15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物の多様性損失の阻止を図る［中村］	予習	SDGs の「目標 15」について概要を把握する。
			復習	配布資料などを通して授業内容を理解する。
第 15 回	内容	目標 17：持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する［北野］ 総括［北野］	予習	SDGs の「目標 17」について概要を把握する。
			復習	これまでの全配布資料などを通して授業全体を理解するとともに、今後の履修者自身の SDGs への貢献について考察する。

	予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね１２０分を目安とする。
課題へのフィードバック	毎回の授業におけるリアクションペーパー等の記述および提出（詳細は各回の担当教員が指示する）を通して、SDGs 全般への理解を深める。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（５０%）、授業態度【積極的参加】（５０%）
教科書	必要に応じて紹介する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
注意事項	この授業は、複数の教員が共同担当するオムニバス形式の講義授業であり、テーマ（授業計画欄の「目標１」～「目標 17」）ごとに担当教員が異なる。なお、授業回によっては対面方式ではなく遠隔方式（Google Classroom 等を利用）で開講されることがある（詳細は別途通知する）。 2022 年度開講分の担当教員[授業担当コマ数]は、次のとおりである（担当順。各教員の担当授業回は「授業計画」欄を参照）。 北野大[5]、志濃原亜美[1]、平山素子[1]、関維子[1]、伊澤永修[1]、松木久子[1]、野中博史[1]、中村陽一[4]、星野治[1]、渡辺演久[1] 教員によっては、リアクションペーパーのほかに別の課題を追加出題することがある（詳細は、各授業の担当教員の指示に従うこと）。

科　目　名	保育原理Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	こやま　れいこ 小山　玲子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	「保育とは何か」といった疑問から、保育の歴史・制度・保育内容などの知識を習得し、その中で保育の意義、原理、原則を理解していく。また、保育所の社会的役割、保育ニーズ、健やかな子どもの成長を育む保育について検討する。保育所実習につながるよう考える・話し合う・調べる・演じる・発表する等、受講生の能動的な取組みを取り入れた授業を行う。
到達目標	１．保育の意義及び目的、保育に関わる法令や制度を理解している。 ２．保育所保育指針における保育の基本を説明できる。 ３．他者と対話を重ねながら主体的に学ぶ方法を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（１．２．３．５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	保育の意味と意義	予習	シラバス及び教科書の目次を読む
			復習	配布プリントの課題を行う
第２回	内容	子どもを取り巻く環境の変化とは　グループ討議	予習	教科書第２章を通読する
			復習	子どもにとっての環境を考える
第３回	内容	保育における「子ども理解」	予習	保育指針における発達の捉え方を理解する
			復習	子どもの発達と関わり方を理解する
第４回	内容	子ども・子育て支援制度	予習	子ども・子育て支援制度について調べる
			復習	配布プリントに要点をまとめる
第５回	内容	西洋の保育の歴史と思想①	予習	フレーベルについて調べる
			復習	保育の思想と理論をまとめる
第６回	内容	西洋の保育の歴史と思想②	予習	レッジョ・エミリア市の保育について調べる
			復習	プロジェクト活動とは何かをまとめる
第７回	内容	日本の保育の歴史と思想	予習	倉橋惣三について調べる
			復習	日本の保育の歴史をまとめる
第８回	内容	保育の歴史ミニテスト・保育環境とは	予習	第５～７回の授業の復習を行う
			復習	ミニテストの振り返りを行う
第９回	内容	保育の内容、保育の方法・形態	予習	保育内容・方法・形態について調べる
			復習	配布プリントを読み直し復習をする
第 10 回	内容	保育の計画と評価	予習	教科書第８・９章を通読する
			復習	計画・実践・記録・評価の関連性を理解する
第 11 回	内容	子どもの安全・虐待・特別な配慮を要する子どもへの対応	予習	子どもの安全等について調べる
			復習	配布プリントの課題を行う
第 12 回	内容	保育者の専門性	予習	教科書第１３章保育者の専門性を通読する
			復習	保育者の専門性を理解する
第 13 回	内容	諸外国の保育の現状と課題　グループワーク	予習	興味のある国の保育について調べる
			復習	諸外国の保育の現状と課題をまとめる
第 14 回	内容	保育の現状と課題　グループワーク・発表	予習	保育の現状と課題について調べる
			復習	グループワークのまとめを行う
第 15 回	内容	保育原理での学びを振り返る	予習	全配布プリントをまとめ、読み込む
			復習	第 1～15 回の授業で学んだことを整理する

予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね１２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（　 ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度【積極的参加】(20%)
教科書	『最新　保育原理』(上中修編著、教育情報出版)　『マンガでわかる!保育所保育指針　２０１７年告示対応版』(浅井拓久也、中央法規出版)
参考文献	『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)　『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)
注意事項	保育園勤務保育士・園長によるゲスト講義を行う。(予定)

科目名	保育原理Ⅱ	単位数	2	授業時間数	３０	担当教員	こやま　れいこ 小山　玲子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	保育所保育指針や子ども子育て支援新制度等の成立過程や実際の運営状況を通じて、保育の原理や制度、現在の課題を深く理解する。 保育の質の向上、保育者の専門性を高める意義を学び、実践につながるようグループ討議・グループワークを行う等、受講生の能動的な取り組みを取り入れた授業を行う。保育学の論文を読むことで、保育の理論や研究方法を学ぶ。
到達目標	１．　保育所保育指針や子ども子育て支援制度の背景と課題を証明できる。 ２．　保育学の論文の読み方や作り方を理解している。 ３．　保育の現状と課題について説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４・５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション　　グループ討議 保育で大切なこととは何かを考える	予習	シラバス及び教科書の目次を読む
			復習	保育原理Ⅱを学ぶ理由を配布プリントに記入
第２回	内容	保育の社会的役割と責任　保育所保育指針の概要①	予習	保育所保育指針の第１章の通読
			復習	保育所保育の特徴をまとめる
第３回	内容	保育所保育指針の概要②	予習	保育所保育指針の第２章の通読
			復習	乳幼児期の発達の重要性をまとめる
第４回	内容	保育所保育指針の概要③	予習	保育所保育指針の第３～５章の通読
			復習	配布プリントの課題を行う
第５回	内容	ドキュメンテーションの概要・活用方法	予習	保育所で活用している事例を調べる
			復習	ドキュメンテーションのテーマを考える
第６回	内容	ドキュメンテーションの作成	予習	ドキュメンテーションの内容を考える
			復習	ドキュメンテーションを作成する
第７回	内容	ドキュメンテーションの発表　グループワーク	予習	ドキュメンテーションの作成・発表準備
			復習	ドキュメンテーションの完成(次回の授業提出)
第８回	内容	保育における子育て支援	予習	保育指針第６章、教科書第１０章の通読
			復習	配布プリントに要点をまとめる
第９回	内容	地域子育て支援	予習	地域子育て支援について調べる
			復習	自分の自治体の子育て支援事業の調査とまとめ
第 10 回	内容	保育学研究①量的調査	予習	興味のある研究論文を検索する
			復習	量的調査を行った論文を調べる
第 11 回	内容	保育学研究②質的調査	予習	質的調査を行った論文を調べる
			復習	自分なりの研究内容を設計する
第 12 回	内容	保育の専門性と質の向上	予習	保育指針第７章、配布プリントの通読
			復習	保育の質の向上に向けた取組についてまとめる
第 13 回	内容	保育の現状と課題①　グループワーク	予習	自分の発表テーマを考える
			復習	パワーポイント作成
第 14 回	内容	保育の現状と課題②　グループワーク	予習	パワーポイント作成
			復習	パワーポイント発表の準備を行う
第 15 回	内容	保育の現状と課題③　発表　レポート作成	予習	パワーポイント発表の準備を行う
			復習	保育原理Ⅱで学んだことをまとめる

予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね１２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題や発表に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（40%）、作品・発表（40%）、授業態度【積極的参加】(20%)
教科書	『マンガでわかる!保育所保育指針』(浅井拓久也、中央法規出版)
参考文献	『最新　保育原理』(上中修編著、教育情報出版)
注意事項	保育学をより深く学びたい学生を対象とする。　外部講師(おもちゃアドバイザー・保育者)のゲスト講演を行う。(予定)

科　目　名	教育原理	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12103	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	教育を受けることや学校に通えることを当たり前のことと考えずに、なぜそもそも人間にとって教育が必要なのかを中心に、改めて教育や学校について考えるための課題を提供します。また就学前教育が、成立してきた歴史を振り返りながら、今後の将来的な展望や自分なりの教育観や保育観を形成していくために必要と思われる事柄について学んでいただこうと思います。
到達目標	１．　なぜ、人間にとって教育が必要なのか、が理解でき説明できる。 ２．　教育や学校の可能性や限界について理解でき説明できる。 ３．　自分なりの教育観や保育観について、説明することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３・４　）

授業計画					
	第１回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項について	予習	教育や学校について自分の考えをまとめておく
				復習	単位取得のための必要事項について説明できる
	第２回	内容	教育原理を学ぶこととは	予習	教科書の指定個所を熟読しておく
				復習	理解したことについてまとめる
	第３回	内容	生涯教育と生涯学習について	予習	教科書の該当箇所を読んでまとめる
				復習	さらに自分で調べておく
	第４回	内容	教育の可能性と限界について	予習	教科書の指定個所を熟読しておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第５回	内容	教育の語義と意義	予習	教科書の該当箇所をよく読んでまとめておく
				復習	自分で興味をもったことをさらに調べる
	第６回	内容	学校の誕生とその歩み	予習	自分の学校体験についてまとめておく
				復習	理想の学校のあり方について考えまとめる
	第７回	内容	世界の子どもたちの環境を知る（1）	予習	該当する国々の特徴を調べまとめておく
				復習	理解したことを詳しくまとめる
	第８回	内容	世界の子どもたちの環境を知る（2）	予習	該当する国々の文化的背景について調べておく
				復習	さらに興味をもったことについて調べまとめる
	第９回	内容	近代学校の成立とその性格	予習	近代という時代について調べてまとめておく
				復習	義務教育の意義についてまとめる
	第10回	内容	戦争と教育について考える（1）	予習	第二次世界大戦について調べまとめておく
				復習	新たに理解したことについてまとめる
	第11回	内容	戦争と教育について考える（2）	予習	戦争に翻弄される人間についてまとめておく
				復習	理解したことについてさらに調べまとめる
	第12回	内容	世界や日本の教育思想を知る	予習	教育思想について調べてまとめておく
				復習	自分の興味のある教育思想家について調べる
	第13回	内容	世界や日本の教育制度について考える	予習	日本の教育制度について調べまとめておく
				復習	世界と日本の教育制度についてまとめる
	第14回	内容	幼児教育制度の成立と発展について学ぶ	予習	幼稚園は保育所の歴史について調べておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第15回	内容	まとめ	予習	教育や学校についてまとめておく
				復習	さらに興味あることについて調べまとめる
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	小テストや中間テストを実施し、学生の理解度を把握する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度【発言などの頻度】(20%)
教科書	『教育原理』(林邦雄・谷田貝公昭［監修］、大沢裕［編著］、一藝社)
参考文献	必要に応じて授業中に適宜、紹介していきます。
注意事項	自分で主体的に課題を発見し、いろいろなことを調べ、日頃から手書きで文字の読み書きに慣れていってほしいと思います。

科　目　名	子ども家庭福祉	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　二部は遠隔で実施　）
授業の内容	子ども家庭福祉の歴史的変遷と現代社会における子ども家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、子どもと家庭に関する福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。 また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障がいのある児童の対応などをはじめとする子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、特に子ども家庭福祉と保育の関連性や子どもの権利擁護などについて理解を深める。
到達目標	１．子どもや家庭に関する法や施設など基本的なことが理解できる。 ２．子どもをとりまく問題についての理解を深めたうえで、それらの早期発見の方法や解決への道筋を知ることができる。 3.　子どもの権利擁護について理解できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　２，５　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する
第２回	内容	子ども家庭福祉に関する法律①（児童福祉法の概要）	予習	児童福祉法のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉法についてのおおまかな理解をする。
第３回	内容	子ども家庭福祉に関する法律②（児童福祉法の具体的内容）	予習	児童福祉法のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉法の具体的な内容を理解する
第４回	内容	子どもに関する権利思想の流れ	予習	子どもの権利についてのプリントの穴埋めを完成させる
			復習	子どもの権利思想の流れを理解する
第５回	内容	子ども家庭福祉の歴史①（明治期）	予習	子ども家庭福祉の歴史のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	明治期における子ども家庭福祉の歴史を理解する
第６回	内容	子ども家庭福祉の歴史②（明治期から戦前）	予習	子ども家庭福祉の歴史のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	明治期から戦前にかけての子ども家庭福祉の歴史を理解する
第７回	内容	ＶＴＲ（澤田美喜物語・・・福祉施設創設者の物語）課題感想文	予習	今まで習った子ども家庭福祉に関する法や歴史を概観する
			復習	課題：感想文を書く
第８回	内容	福祉専門職としての保育士	予習	福祉専門職としての保育士のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉法等に明記されている保育士について理解する
第９回	内容	児童福祉施設及び里親の概要①（施設の種類）	予習	児童福祉施設のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉施設の種類を覚える
第 10 回	内容	児童福祉施設及び里親の概要②（施設の目的）	予習	児童福祉施設のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	児童福祉施設や里親の目的を理解する
第 11 回	内容	子ども家庭福祉の行政機関（児童相談所を中心に）	予習	児童相談所の業務や相談内容についての穴埋めプリントを完成させる
			復習	児童相談所の業務や相談内容について理解する
第 12 回	内容	児童虐待①（児童虐待の種類、法制度）	予習	児童虐待の種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる
			復習	児童虐待の種類や法制度を理解する
第 13 回	内容	児童虐待②（児童虐待の実際）	予習	児童虐待の実際についての穴埋めプリントを完成させる
			復習	児童虐待の実際についてまとめる
第 14 回	内容	小テスト、ＶＴＲ（子どもの貧困）	予習	小テストに向けての学習
			復習	小テストで出題された個所の確認
第 15 回	内容	小テスト返却、解説、まとめ	予習	ＶＴＲの感想文を書く
			復習	子ども家庭福祉とはなにかをまとめる

予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　55%）、レポート・課題（　35%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（　10%）
教科書	『新 保育ライブラリ 子ども家庭福祉』(植木信一編著、北大路書房)

参考文献	『最新保育資料集 2022』（ミネルヴァ書房）
注意事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して子ども家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。 教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと

科　目　名	社会福祉	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	この授業では、福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を習得することをねらいとする。子どもの福祉のみならず、現代社会のニーズに即したあらゆる人々のウェルビーイング（福祉）をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野で社会福祉について学ぶ。
到達目標	1. 保育と社会福祉の関係がわかる。 2. わが国の社会福祉の制度がわかる 3. 現代の社会問題がわかる
学位授与方針	幼児教育学科（　1，3　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	**オリエンテーション**（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する
第２回	内容	**保育と社会福祉**（私たちが暮らす社会と保育をめぐる社会問題）	予習	社会問題、社会構造のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会問題、社会構造について理解をする。
第３回	内容	**社会福祉の概念①**（社会福祉の意味、定義）	予習	社会福祉の意味、定義のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会福祉の意味や定義を理解する
第４回	内容	**社会福祉の概念②**（社会福祉の理念、社会福祉の構造等）	予習	社会福祉の理念、構造のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会福祉の理念等についての理解を深める
第５回	内容	**社会保障の概念と体系**（我が国における社会保障の概念）	予習	社会保障のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会保障の概念をしっかりと理解する
第６回	内容	**社会保険①**（社会保険制度の概要）	予習	社会保険制度のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会保障制度についての全体像を理解する
第７回	内容	**社会保険②**（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）	予習	社会保険のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	具体的な社会保険の種類や性格を理解する
第８回	内容	**公的扶助①**（公的扶助の概要、公的扶助と社会保険の違い）	予習	公的扶助のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	公的扶助の概要の理解及び前回の社会保険との違いを明確にする
第９回	内容	**公的扶助②**（生活保護の原理と原則、保護施設、その他の低所得者施策）	予習	公的扶助のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	公的扶助について具体的に理解する
第 10 回	内容	**高齢者福祉**	予習	高齢者福祉のプリントの穴埋めを完成させる 中間レポート提出準備
			復習	高齢者福祉施策を理解する
第 11 回	内容	**障がい者福祉**	予習	障がい者福祉のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	障がい者福祉施策を理解する
第 12 回	内容	**相談援助の意味と方法①**（保育士に求められるソーシャルワーク、ソーシャルワークの意味と原則、）	予習	相談の意味と方法についての穴埋めプリントを完成させる
			復習	相談援助を理解する
第 13 回	内容	**相談援助の意味と方法②**（ソーシャルワークの視点、ソーシャルワークに貢献した人）	予習	ソーシャルワークに関する穴埋めプリントを完成させる
			復習	ソーシャルワークについて理解する
第 14 回	内容	**小テスト、ＶＴＲ（諸外国の福祉）、感想文**	予習	小テストに向けての学習
			復習	小テストで出題された個所の確認
第 15 回	内容	**小テスト返却、まとめ**	予習	ＶＴＲの感想文を書く
			復習	社会福祉とはなにかをまとめる

予習に要する学習時間：概ね 90　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90　分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストの返却と解説、レポートの返却を行います
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　55%）、レポート・課題（　35%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（　10%）
教科書	『みらい×子ども福祉ブックス　社会福祉』(志濃原亜美編著、(株)みらい)
参考文献	『最新保育資料集 2020』(ミネルヴァ書房)
注意事項	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して福祉の問題や課題について関心をもつこと。 教員が作成したプリントを整理するためのファイルを用意しておくこと

科　目　名	子ども家庭支援論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	きたざわ　あきこ 北澤　明子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12201	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	本講義では、保育士による子ども家庭支援の基本について学ぶ。子育て家庭の状況やニーズを理解し、その状況やニーズに応じた支援の展開や保育士の行う相談や支援の意義、役割について学んでいく。
到達目標	１．子育て家庭の現状やニーズについて理解している。 ２．保育士による子ども家庭支援の基本や支援の意義について理解している。 ３．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開について理解し、支援の方法について考えることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション～子ども家庭支援論とは～	予習	シラバスを読む
			復習	配布資料を見返す
第２回	内容	家族・家庭の意義と機能	予習	自分にとっての家族・家庭についてまとめる
			復習	配布資料を読み返す
第３回	内容	家族・家庭の歴史と変化① ～家族形態・家庭モデルの変遷～	予習	教科書ｐ３～４を読む
			復習	授業内容の振り返りを行う
第４回	内容	家族・家庭の歴史と変化② ～家族昨日の変化・個人化～	予習	教科書ｐ５～７を読む
			復習	授業内容の振り返りを行う
第５回	内容	現代社会における家族・家庭	予習	教科書ｐ１～２を読む
			復習	教科書ｐ８～14 を読む
第６回	内容	子育て家庭をめぐる社会的状況① ～図の取見取り～	予習	教科書ｐ19 を読む
			復習	図の読み取りを行う
第７回	内容	子育て家庭をめぐる社会的状況② ～図の取見取りの答え合わせ～	予習	前回の読みよりの復習を行う
			復習	授業の振り返りとしてのレポートを書く
第８回	内容	子ども家庭支援の意義と必要性	予習	教科書ｐ20～23 を読む
			復習	授業内容の振り返りを行う
第９回	内容	子ども家庭支援の目的と機能～歴史・専門機関との連携～	予習	教科書ｐ24～25 を読む
			復習	専門機関の調べ学習を行う
第 10 回	内容	多様な連携機関について	予習	教科書ｐ27～31 を読む
			復習	配布資料を読み返す
第 11 回	内容	保育所における子ども家庭支援の意義と基本	予習	教科書ｐ41～44 を読む
			復習	教科書 45～58 を読む
第 12 回	内容	幼保連携型認定こども園・幼稚園における子ども家庭支援	予習	教科書 63～69 を読む
			復習	授業内容の振り返りを行う
第 13 回	内容	地域の子育て家庭への支援	予習	教科書 92～96 を読む
			復習	教科書ｐ103 を読む
第 14 回	内容	特別な配慮を要する過程への支援	予習	教科書ｐ107～114 を読む
			復習	課題として出た事例について考える
第 15 回	内容	多様な支援展開と関係機関との連携～事例討議～	予習	教科書ｐ119 を読む
			復習	授業の振り返りとしてのレポート書く

予習に要する学習時間：概ね９分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０　分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポートや課題、コメントの返却を行い、フィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（80　%）、授業態度【積極的参加　　】（20　%）
教科書	『子ども家庭支援論』（橋本祐子・西本望他、2019）
参考文献	『ちょっとした言葉かけで変わる　保護者支援の新ルール１０の原則』（大豆生田啓友他、メイト）
注意事項	配布資料はファイリングして持参すること。

科　目　名	子ども家庭支援論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	まんどう　あきお 萬燈　章雄
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12201	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	対面　・（遠隔）・　その他（　　）
授業の内容	かつては支援する側（社会資源）だった「家庭」だが、現在は脆弱化した家庭・家族を包括してこどもを支援していくという考え方に変化してきた。その家庭観の変遷や支援のあり方について学習する。特に子どもにとって最も身近な存在である保育士としては､養育される権利を有する子どもの目線で家庭を思考していく必要がある。そのようなスタンスで家庭へのアプローチを図っていきたい。
到達目標	1. これまでの社会状況と家庭支援のあり方の変遷について理解している。 2. 地域における関係機関の役割を含め、家庭を支援するプロセスや様々な手段、方法について理解している。 3. 家庭支援に関する「相談」について理解し対応することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（３・５　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 考えてみよう！家族のカタチ	予習	シラバスを読んでくること
			復習	家庭の定義についてまとめてみる
第２回	内容	地域社会の変容と家庭支援について 家庭機能の弱まりと家庭支援の必要性	予習	日本の高度成長期ついて調べる
			復習	「家庭機能」の変遷についてまとめてみる
第３回	内容	少子高齢化のもたらす影響について	予習	「失われた 20 年」について調べてみる
			復習	少子化のもたらす問題についてまとめる
第４回	内容	少子化対策を契機とした子育て支援施策・次世代育成支援施策の経緯	予習	地域が行う育児相談資源について調べる
			復習	子育て支援施策の変遷についてまとめる
第５回	内容	児童虐待問題と家庭支援 認識のない保護者とＳＯＳの出せない子ども	予習	最近の虐待事件について調べてみる
			復習	虐待相談の構造についてまとめる
第６回	内容	子どもと子育て支援策① 保育園と幼稚園・認定こども園など	予習	「待機児童」について調べてみる
			復習	保育の変遷についてまとめてみる
第７回	内容	子どもと子育て支援策② 地域子育て支援事業概要	予習	子育て支援センターについて調べてみる
			復習	子ども子育て支援メニューをまとめてみる
第８回	内容	これまでのまとめ 中間チェック	予習	これまでの授業内容について見直してみる
			復習	地域子育て支援事業についてまとめてみる
第９回	内容	子どもと子育て支援策③ 児童虐待対策事業・母子保健事業など	予習	母子保健サービスについて調べてみる
			復習	虐待対策の事業についてまとめてみる
第 10 回	内容	保育所と家庭支援① 保育所入所家庭への支援	予習	保育所運営指針を調べる
			復習	保育所の機能についてまとめる
第 11 回	内容	保育所と家庭支援② 保育所での地域の家庭支援	予習	相談の対処方法について考えてみる
			復習	相談のアプローチ方法についてまとめる
第 12 回	内容	地域での家庭支援① 不適切養育と地域サービス	予習	養育支援訪問事業について調べる
			復習	機関連携についてまとめる
第 13 回	内容	地域での家庭支援② マルトリートメントケース	予習	虐待について今一度復習する
			復習	今回の事例についてまとめる
第 14 回	内容	誰のための家庭支援か 保護者対応と虐待について	予習	今一度「相談」の特性について考えてみる
			復習	子ども目線での対応についてまとめる
第 15 回	内容	最終まとめチェック 今後の家庭支援のあり方について	予習	これまでの内容を今一度振り返る
			復習	今後の家庭支援のあり方についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね　６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね１２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポート提出と理解度チェックテストを実施します。それぞれ個々にコメントをつけて返却します。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（　　%)、レポート・課題（６０%)、作品・発表（　　%)、実技（　　%)、授業態度【積極性】（４０%）
教科書	『書名』(著者名、出版社名)
参考文献	『書名』(著者名、出版社名) 家庭支援論（伊藤嘉余子／野口啓示 編著　ミネルヴァ書房）　他適宜必要に応じて紹介します。
注意事項	受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。基本、プリント資料配布で授業をすすめます。

科　目　名	社会的養護Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12103	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　二部は遠隔で実施　）
授業の内容	社会福祉、児童家庭福祉の中の社会的養護の位置を理解し、特に施設における日常生活援助、施設における専門職について学びを深める。また、施設保育士の専門性と特別な配慮を要する子どもや家庭への援助について学び、さらに施設の中で行われるリービングケア、アフターケアなどの現状についても学習する。
到達目標	1.　施設養護の体系や援助過程について理解している 2.　レジデンシャル・ソーシャルワークの視点から施設保育士の専門性、特別な配慮を要する子どもへの援助や保護者への相談の在り方など理解している 3.　子どもの権利擁護について理解し、実践で役立てることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１，３　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション（授業の概要の説明、持ち物確認、履修上の注意、自己紹介、授業を受けるに当たっての心構えについての確認等）	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解し、持ち物を確認する
第２回	内容	社会的養護の理念と意義	予習	社会的養護の理念のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会的養護の理念や意義についてのおおまかな理解をする。
第３回	内容	子どもの権利と社会的養護	予習	子どもの権利のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	子どもの権利の具体的な内容を理解する
第４回	内容	保育士の倫理・責務	予習	倫理・責務についてのプリントの穴埋めを完成させる
			復習	保育士の職務上の意倫理や責務について理解する
第５回	内容	社会的養護の制度と実施体系①（施設養護の制度）	予習	社会的養護の制度のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	施設養護の制度を理解する
第６回	内容	社会的養護の制度と実施体系②（移設養護の実施体系）	予習	社会的養護の実施体系のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	社会的養護の実施体系を理解する
第７回	内容	ＶＴＲ（ぶどうの木・・・里親に関する内容）課題感想文	予習	今まで習った社会的養護の学びを概観する
			復習	課題：感想文を書く
第８回	内容	施設養護にかかわる専門職士	予習	施設養護の専門職のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	施設養護の専門職について理解する
第９回	内容	施設養護の実際①（アドミッションケアとインケア）	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	それぞれの用語について理解を深める
第 10 回	内容	施設養護の実際②（リーイングケアとアフターインケア）	予習	施設養護の実際のプリントの穴埋めを完成させる
			復習	それぞれの用語について理解を深める
第 11 回	内容	子育て困難家庭の実際と支援	予習	子育て困難家庭と支援についての穴埋めプリントを完成させる
			復習	子育て困難家庭について知り、その支援を理解する
第 12 回	内容	DV ケースと児童虐待へのソーシャルワークについて視点①（DV ケース）	予習	DV の種類。法制度の穴埋めプリントを完成させる
			復習	DV の種類や法制度を理解する
第 13 回	内容	DV ケースと児童虐待へのソーシャルワークについて視点②（児童虐待ケース）	予習	児童虐待ケースについての穴埋めプリントを完成させる
			復習	児童虐待のソーシャルワークについてまとめる
第 14 回	内容	小テスト、ＶＴＲ（施設に関するもの）	予習	小テストに向けての学習
			復習	小テストで出題された個所の確認
第 15 回	内容	小テスト返却、解説、まとめ	予習	ＶＴＲの感想文を書く
			復習	社会的養護の枠組みをまとめる

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストの解説と返却、レポートの返却を行います
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（55%）、レポート・課題（　35%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】(10　%)

教科書	『よりそい支える社会的養護』（監修中山正雄/編著浦雅夫、教育情報出版）
参考文献	適宜紹介する
注意事項	特別なケアを要する子どもについての書籍等を積極的に読むこと

科　目　名	社会的養護Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しのはら　あみ 志濃原　亜美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。 さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。
到達目標	1.今まで学んできた社会福祉関連の知識や施設実習で学んだ施設の実態などを話し合いや発表等の方法で表現できる。 2.自ら考え、発表し、問題意識を持つことで、社会的養護に関わる人や施設利用者について総合的に考える力を身につけている。 3.施設養護の体系や援助過程について説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 1，2，3，5　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	オリエンテーション	予習	シラバスの確認
			復習	講義概要を理解する
第2回	内容	施設実習を振り返って	予習	施設実習の振り返りをする
			復習	実習と授業を結びつける
第3回	内容	障がいを持つ人の生活実態（VTR）	予習	各種別の施設についての復習をする
			復習	感想文を書く
第4回	内容	障がいを持つ人の生活実態のビデオの内容についてグループ討議	予習	感想文を振り返る
			復習	グループ討議を振り返る
第5回	内容	グループ決め、およびディスカッション	予習	施設の種別を振り返る
			復習	ディスカッションの内容をまとめる
第6回	内容	テーマ設定	予習	テーマ設定の材料の準備をする
			復習	テーマの吟味をする
第7回	内容	グループレポート作成	予習	レポートの下書きをする
			復習	レポートの清書をする
第8回	内容	グループ活動①（調査）	予習	テーマに応じた調査を開始する
			復習	テーマに応じた調査を継続する
第9回	内容	グループ活動②（調査・制作）	予習	テーマに応じた調査の継続と制作の準備をする
			復習	制作の準備をする
第10回	内容	中間報告	予習	中間報告の準備をする
			復習	中間報告を踏まえた最終制作に取り掛かる
第11回	内容	グループ発表③（制作）	予習	制作の準備を進める
			復習	最終確認
第12回	内容	発表レジメ提出	予習	発表レジメの下書きをする
			復習	発表レジメの清書をする
第13回	内容	発表準備、確認、動画作成	予習	発表準備、及び動画の作成準備をする
			復習	最終確認をする
第14回	内容	グループ発表①	予習	発表準備をする
			復習	まとめをする
第15回	内容	グループ発表②、まとめ	予習	発表準備をする
			復習	まとめをする

予習に要する学習時間：概ね30分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30分を目安とする。

課題へのフィードバック	提出物の返却、発表の講評などによるフィードバックを行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（30%）、作品・発表（50%）、授業態度（積極的参加）（20%）
教科書	『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』（谷口純世他編、光生館）
参考文献	『保育福祉小六法2022年版』（保育福祉小六法編集委員会著、みらい）
注意事項	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。

科　目　名	社会的養護Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まんどう　あきお 萬燈　章雄
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちの現状と支援について学ぶ。実践力を学習できるよう事例研究を通して支援の方法を考えていきたい。また、支援するスタッフとしてどのような姿勢で望むことが必要なのか、倫理や責務についても学ぶ。処遇の結論よりもそれを導き出していくプロセスに重点を置いて学習する。
到達目標	１．アセスメントから支援方法まで事例を通してそのプロセスを理解している。 ２．様々なケースに応じてどのように対応していくのかを理解している。 ３．より困難な場面でも、社会的養護に携わる保育士の職務と倫理に従い行動できることを身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　４・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション～ 演習１　ある施設に就職した友人の愚痴	予習	シラバスに目を通しておくこと
			復習	事例検討の方法についてまとめる
第２回	内容	演習２　障害児入所施設の事例 「障害受容」と母親の気持ちを理解する	予習	障害児者施設体系について調べる
			復習	障害受容についてまとめる
第３回	内容	演習３　障害児の失敗をする権利について（学校・施設） 本人のこだわりと周囲のストレス。折り合いの付け方など	予習	障害者の権利条約について調べる
			復習	障害児の自立支援についてまとめる
第４回	内容	講義　「アタッチメント」について考える	予習	ジョン・ボウルビィについて調べる
			復習	愛着の形成についてまとめる
第５回	内容	演習４　発達障害児への対応事例（学童保育所） 集団での対応と個別処遇	予習	ソーシャルワークについて調べる
			復習	専門技術体系についてまとめる
第６回	内容	演習５　ジェノグラムとエコマップについて	予習	家族図について調べる
			復習	ジェノグラムとエコマップについてまとめる
第７回	内容	演習６　被虐待児への支援について（保育所・幼稚園） 愛着に問題がある子への処遇について	予習	虐待のサインについて調べる
			復習	愛着障害についてまとめる
第８回	内容	演習７　乳児院から養護施設へ 「愛着の移行」について	予習	社会的養護に必要な施設について調べる
			復習	「措置変更」についてまとめる
第９回	内容	演習８　日常生活支援（児童養護施設） 入所支援。アドミッションケアについて	予習	「親子分離」について調べる
			復習	施設入所時の子ども支援についてまとめる
第10回	内容	演習９　日常生活支援（児童養護施設） インケアについて（ルールと日課）	予習	様々な施設の日課について調べてみる
			復習	ルールと日課のあり方についてまとめてみる
第11回	内容	演習10　日常生活支援（児童養護施設） インケアについて（愛着に課題のある子の処遇）	予習	養護施設の入所事由について調べてみる
			復習	処遇困難に子への対処方法についてまとめる
第12回	内容	演習11　乳児院から里親へ　委託のプロセスや、施設の スタッフとしての支援のあり方など	予習	里親委託時の子の年齢構成について調べてみる
			復習	里親委託の留意点についてまとめる
第13回	内容	ビデオ学習　施設からの自立支援について	予習	リービングケアについて調べる
			復習	スタッフの支援内容について振り返る
第14回	内容	演習12　児童の権利擁護　被措置児童虐待 援助者としての倫理と責務について	予習	施設内虐待について調べる
			復習	援助者としての倫理と責務についてまとめる
第15回	内容	演習13　自立支援計画について（児童養護施設） 自立支援計画案を作成する	予習	自立支援計画について調べる
			復習	事例についてアセスメントしてみる

予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	原則、事例ごとに全員課題についての意見など記載してレポートとして提出。簡単ですがコメントと評価をつけてできるだけ返却していくつもりでいます。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（５０%）、作品・発表（２０%）、実技（　　%）、授業態度【積極性　】（３０%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名）　なし
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 「社会的養護Ⅱ」　相澤　仁・村井美紀・大竹　智編　中央法規　その他授業中に紹介します。
注意事項	基本事例も含めプリント資料配布で授業を進めます。この授業は考える課程に授業の目的がありますので、授業マナーを守り意見発表や質問など積極的な参加を評価します。なお、回答の正誤についてあまり問いません。

科　目　名	保育者論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12104	授業形態	講義	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	保育者を目指すことで最も大切なことであり、大変なことと思われる実習に向けて、実践的な事柄から学び、自分なりの保育観や実習に対する心構えや目標をもつことができるように指導していきます。また、実習日誌への記載に慣れる意味で、手書きで文章を書けるように練習できる内容を提供していきます。
到 達 目 標	１．　実習のあり方について理解ができる ２．　保育者としての基本的な態度を身に付ける必要性について説明できる ３．実習について、何を学ぶべきかが理解できる
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３・４　）

授 業 計 画

第１回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項の説明	予習	保育者になるという意味を考えまとめておく
			復習	必要事項についてまとめる
第２回	内容	幼稚園教育実習について	予習	幼稚園についてまとめておく
			復習	教育実習についての意義についてまとめる
第３回	内容	幼稚園と保育所の違いについて考える	予習	就学前教育について調べまとめておく
			復習	違いや同じことについて詳しくまとめる
第４回	内容	幼稚園教諭の仕事と役割について考える	予習	教育するということについて調べまとめておく
			復習	理解したことを詳しくまとめる
第５回	内容	保育士の仕事と役割について考える	予習	保育するという意味についてまとめておく
			復習	理解したことを詳しくまとめる
第６回	内容	3 歳児の特徴について知る	予習	３歳児について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第７回	内容	4 歳児の特徴について知る	予習	4 歳児について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第８回	内容	5 歳児の特徴について知る	予習	5 歳児について調べまとめておく
			復習	理解したことをさらに調べまとめる
第９回	内容	保育の安全と事故防止について学ぶ	予習	安全や事故防止について調べまとめておく
			復習	理解したことをまとめる
第 10 回	内容	実習について必要となるマナー等を学ぶ	予習	教科書の該当箇所を熟読しておく
			復習	自分が考える実習について具体的にまとめる
第 11 回	内容	「教師」という言葉について学ぶ	予習	先生や教師等の言葉について調べまとめておく
			復習	理解したことをまとめる
第 12 回	内容	日本の教職の特徴について考える	予習	日本の教師について調べまとめておく
			復習	理解したことをまとめる
第 13 回	内容	しつけをめぐる問題について考える	予習	「しつけ」について調べまとめておく
			復習	理解したことをまとめる
第 14 回	内容	自分の実習について考える	予習	実習園について調べまとめておく
			復習	実習について振り返りまとめる
第 15 回	内容	まとめ	予習	自分なりの保育観についてまとめておく
			復習	興味をもったことについてさらに調べまとめる

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストや中間テストを実施し、学生の理解度を把握していく
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50）、レポート・課題（30%）、授業態度【発言の意欲等】(20%)
教科書	『これだけは身につけたい　小学校教員の常識 67』(村越晃［編］、一藝社)
参考文献	必要に応じて適宜、授業中に紹介していきます。
注意事項	実習に対する意識をしっかりともち、園の協力の下で実習が実現できることをしっかりと理解してほしいと思います。

科　目　名	保育の心理学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	おおくま　みかこ 大 熊　美佳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12101	授業形態	講義	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	子どもの心身の発達について，代表的な理論を踏まえ，発達の概念を理解し，具体的な発達や学習の過程に関する基礎知識を習得し，教育や保育，子育て支援に生かしていけるように，学びを深めていくことを目的とします。
到 達 目 標	１．保育に関わる心理学の基本用語を正確に理解している ２．子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につけている ３．子どもの主体的な活動を支えるための基礎となる考え方を理解している
学位授与方針	幼児教育学科（　1,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	子どもの発達の理解	予習	シラバスを読んでおく
				復習	子どもの発達の理解についてまとめる
	第２回	内容	子どもの発達と環境	予習	遺伝と環境の影響について考えてくる
				復習	発達に関わる遺伝と環境の考え方をまとめる
	第３回	内容	発達観・子ども観と保育観	予習	自分自身の子ども観，保育観をまとめてくる
				復習	発達に関する考え方の変遷をまとめる
	第４回	内容	身体的機能と運動機能の発達	予習	乳幼児の身体・運動機能の発達について調べてくる
				復習	乳幼児の身体・運動機能の発達について学んだことをまとめる
	第５回	内容	社会情動的発達① （感情・情動の発達）	予習	感情・情動の発達について調べる
				復習	感情・情動の発達を年齢ごとに整理する
	第６回	内容	社会情動的発達② （アタッチメント理論）	予習	アタッチメント理論について調べる
				復習	アタッチメント理論について整理する
	第７回	内容	社会情動的発達② （他者理解の発達）	予習	乳幼児の他者理解について調べる
				復習	人間関係の発達を年齢ごとに整理する
	第８回	内容	パーソナリティの発達	予習	フロイト・エリクソンについて調べる
				復習	両者の理論を年齢ごとに整理する
	第９回	内容	認知発達① （ピアジェの認知発達理論）	予習	ピアジェについて調べる
				復習	ピアジェの認知発達理論を整理する
	第 10 回	内容	認知発達② （ヴィゴツキーの認知発達理論）	予習	ヴィゴツキーについて調べる
				復習	ヴィゴツキーの認知発達理論を整理する
	第 11 回	内容	学習理論① （学習とは何か）	予習	心理学における学習の意味について調べる
				復習	学習・条件づけについてまとめる
	第 12 回	内容	学習理論② （社会的学習理論について）	予習	社会的学習理論とは何かについて調べる
				復習	現場への応用の仕方について考える
	第 13 回	内容	子どものやる気① （動機づけ理論について）	予習	子どものやる気について考える
				復習	動機づけ理論についてまとめる
	第 14 回	内容	子どものやる気② （褒めること・叱ること）	予習	子どもの褒め方・叱り方について考える
				復習	よりよい褒め方・叱り方をまとめる
	第 15 回	内容	子どもの個性を理解する	予習	個性とは何かを考える
				復習	保育現場で必要な心理学的視点をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	授業内で小テストを実施し、テスト後、解説を行います。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（60%）、レポート・課題（20%）、授業態度【積極的参加】（20%）
教科書	特になし
参考文献	講義の中で適宜紹介します
注意事項	

科　目　名	子ども家庭支援の心理学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	三好（みよし）　力（ちから）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12102	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　二部の授業はオンライン専修科目となる　）
授業の内容	生涯発達心理学をベースにして、保育士が必要とする人間の各成長段階における発達課題や発達障害、社会状況に基づく家庭支援の在り方などを学んでいく。
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し初期経験の重要性、発達課題について理解している。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得している。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解している。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
第１回	内容	発達心理学の概要をつかむ	予習	教科書の相当箇所を事前に読むこと
			復習	授業の内容を整理する
第２回	内容	生涯発達とは何か	予習	教科書の生涯発達の箇所を事前に読むこと
			復習	ライフサイクルとライフコースを整理する
第３回	内容	主要な発達理論の紹介	予習	教科書の発達理論の箇所を事前に読むこと
			復習	発達理論について整理してまとめる
第４回	内容	乳幼児期の発達	予習	教科書の幼児期の箇所を事前に読むこと
			復習	未就学児の特徴をまとめる
第５回	内容	学童期前期にかけての発達	予習	教科書の学童期の箇所を事前に読むこと
			復習	学童期の子どもの特徴をまとめる
第６回	内容	学童期後期から青年期にかけての発達	予習	教科書の青年期の箇所を事前に読むこと
			復習	青年期の特徴をまとめる
第７回	内容	小テスト（１～６） 青年期の精神世界を見る	予習	1～6 回目の復習。
			復習	テストの間違ったところを再学習する
第８回	内容	成人期における発達	予習	教科書の成人期の箇所を事前に読むこと
			復習	成人期の特徴をまとめる
第９回	内容	老年期における発達	予習	教科書の老年期の箇所を事前に読むこと
			復習	老年期の特徴をまとめる
第 10 回	内容	子育てを取り巻く社会的状況	予習	教科書の子育て環境の箇所を事前に読むこと
			復習	現代の子育て環境について考える
第 11 回	内容	家族・家庭の意義、機能と親子関係・家族関係の理解	予習	教科書の家族の箇所を事前に読むこと
			復習	家族機能について考える
第 12 回	内容	子育ての経験と親としての育ち、ライフコースと仕事・子育て	予習	教科書の子育ての箇所を事前に読むこと
			復習	親の成長を考える
第 13 回	内容	多様な家庭形態とその理解 特別な配慮を要する家庭	予習	教科書の多様な家庭の箇所を事前に読むこと
			復習	多様性について考える
第 14 回	内容	子どもの精神保健	予習	教科書の精神保健の箇所を事前に読むこと
			復習	子どもの精神保健について整理する
第 15 回	内容	小テスト（７～１４） 振り返り	予習	７～11 回目の復習。テスト勉強をする
			復習	テストの間違ったところを再学習する

予習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	小テストの後に、答え合わせと解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（100%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	『子ども家庭支援の心理学』（青木喜久代編、みらい）
参考文献	
注意事項	

科　目　名	子どもの理解と援助	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	みよし　ちから 三好　力
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	幼児期の子どもの発達、遊び、生活の特徴と幼稚園教諭、保育者としての対応方法、保護者に対する支援・指導について事例を通しながら既習の知識や実習を通して得た経験を元に考える。
到達目標	1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深め、現場で応用することができる。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解し、その過程で生じるつまずきなどに対応することができる。 3. 保育における観察力や評価方法を身につけて発達支援について自ら考えることができる。 4. 保護者や他の保育者とコミュニケーションをとりながら発達援助を行うことができる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2, 3, 5 ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	イントロダクション：幼児理解の意義	予習	既習の保育学・発達心理学の内容について確認
			復習	振り返りの記録をつける
第２回	内容	子ども理解における発達の把握　集団討論	予習	事例１のプリントを読んで考えておく。
			復習	振り返りの記録をつける。
第３回	内容	環境としての保育者と子どもの発達 子供に対するかかわりと共感的理解　集団討論	予習	事例２のプリントを読んで考えておく。
			復習	共感的理解について整理する。
第４回	内容	子ども相互の関わりと関係作り　集団討論	予習	事例３のプリントを読んで考えておく。
			復習	子どもの人間関係について整理しておく。
第５回	内容	アクティビティⅠ （様々なコミュニケーションと保育者の態度）	予習	コミュニケーションとは何かを考えておく。
			復習	非言語コミュニケーションについて整理しておく
第６回	内容	自己主張と自己統制　葛藤やつまずき　集団討論	予習	事例４のプリントを読んで考えておく。
			復習	子どもの葛藤場面をあげて対応を整理する。
第７回	内容	集団における経験と育ち：社会性の情緒発達　集団討論	予習	事例５のプリントを読んで考えておく。
			復習	情緒発達と社会性との関係を整理しておく。
第８回	内容	子どもの生活や遊び　そこからの学び　集団討論	予習	事例６のプリントを読んで考えておく。
			復習	遊びと学びの関係を整理しておく。
第９回	内容	アクティビティⅡ　（性格を把握する手法：実習）	予習	配付する資料を事前に確認しておく。
			復習	振り返りの記録をつける
第 10 回	内容	子ども理解のための観察・記録と省察・評価	予習	アセスメントについて調べる。
			復習	実習での事例をふまえて省察しておく。
第 11 回	内容	子ども理解のための職員間の対話　集団討論	予習	事例７のプリントを読んで考えておく。
			復習	職員間のコミュニケーションについて考えておく。
第 12 回	内容	発達の課題に応じた援助や関わり：子どもの個人差に配慮した保育　集団討論	予習	事例８のプリントを読んで考えておく。
			復習	個人差の配慮について整理しておく。
第 13 回	内容	アクティビティⅢ（知能を把握する手法：実習）	予習	配付する資料を事前に確認しておく。
			復習	協働することについて振り返りの記録をつける。
第 14 回	内容	現代社会における子どもの発達と保育の課題：家族支援 保護者との情報共有	予習	事例９のプリントを読んで考えておく。
			復習	家族支援について整理しておく。
第 15 回	内容	特別な配慮を要する子供の理解と援助　集団討論	予習	事例 10 のプリントを読んで考えておく。
			復習	特別な配慮をする場面を整理しておく。

予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業のなかで、その都度講評を行っていく。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（80%）、作品・発表（20%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	『なぜ？から探る　子どもの理解と援助』（青木喜久代編、みらい）
参考文献	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
注意事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。

科　目　名	子どもの理解と援助	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	いとう　あきよし 伊藤　明芳
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	本講義では、子ども(乳幼児期)の理解のために必要な既習の理論を含めてより深める。さらに、方法として子ども観察、記録、カンファレンスについて学び、子どもと保護者への支援方法について考える。将来の保育・教育現場での子どもの理解と援助の実践に役立つようにする。
到達目標	１．　子どもの理解について基本的な知見を持ち、それらを保育現場で活かすことができる。 ２．　保育における観察や記録方法を身につけて子ども支援を自ら策定することができる。 ３．　保護者や他の関係者とコミュニケーションを取り、連携することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（2,3,5）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	イントロダクション	予習	**シラバスを読み、授業計画を把握する。**
				復習	**授業内容と評価方法について理解する。**
	第２回	内容	保育者に必要な能力とは	予習	必要な能力について考える。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第３回	内容	子どもの理解とは	予習	子ども理解の意義や方法について調べる。
				復習	学んだことを理解し整理する。
	第４回	内容	子どもを取り巻く環境①(ボウルビー等発達の視点)	予習	愛着理論について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第５回	内容	子どもを取り巻く環境②(エリクソン等発達の視点)	予習	心の発達理論について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第６回	内容	子どもを取り巻く環境③(ピアジェ等発達の視点)	予習	子どもの認知発達について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第７回	内容	子どもを取り巻く環境④(その他)	予習	その他について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第８回	内容	子どもを取り巻く環境⑤(学習の視点)	予習	学習の形態について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第９回	内容	保育における観察	予習	観察について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第 10 回	内容	保育における記録	予習	記録について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第 11 回	内容	記録にもとづく保育カンファレンス	予習	カンファレンスの意義と方法について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第 12 回	内容	子どもの特別なニーズの理解と援助① (さまざまな子どものニーズ)	予習	子どもの特別なニーズについて調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第 13 回	内容	子どもの特別なニーズの理解と援助②(援助の方法)	予習	援助法について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第 14 回	内容	保護者理解と援助の基本①(保護者理解とは)	予習	保護者の理解について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	第 15 回	内容	保護者理解と援助の基本②(保護者支援とは)	予習	保護者支援について調べる。
				復習	学んだことを整理して理解する。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	受講学生に対して、発表・発言内容や試験やレポートの成績のフィードバックをおこなう。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する 成績評価の方法：　筆記試験（70%）、レポート・課題（30%）
教科書	特に指定しない。
参考文献	講義内で随時紹介する。
注意事項	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他ディスカッション等では受講生と教員の双方向でのやり取りを活発におこないたい。受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加し発言する態度が求められる。

科　目　名	子どもの保健	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	みた　のりこ 味田　徳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	AHS12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	子どもの健康と保健の意義について理解する。 身体や心の基本的知識について習得するとともに、子どものかかりやすい病気とその予防・対応法について学び、援助できる力をみにつけることを目的とする。
到達目標	１．子どもの発育・発達についての基礎知識を習得し、一人ひとりに応じた評価ができる。 ２．子どもの病気とその予防、適切な対応について理解できる。 ３．子どもの心身の健康状態を把握し、その対応方法が理解できている。 ４．保健活動において、保護者および多職種間の連携・協働の重要性がわかる。
学位授与方針	幼児教育学科（1,3,4　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション Ⅰ、子どもの心身の健康と保健の意義	予習	P２～５まで読んでおく
			復習	自分や周りの人の「健康」について考える
第２回	内容	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	予習	現代の子どもの健康の課題は何か調べる
			復習	第２回プリント見直し・まとめ
第３回	内容	Ⅱ、子どもの身体的発育・発達と保健 ①身体発達	予習	家族から自分の「妊娠～出生までの経過」を聞く
			復習	第３回プリントの見直し・まとめ
第４回	内容	②原理原則 運動機能の発達と保健	予習	P26～31 までを読んでおく
			復習	反射・発達について、月齢をおってまとめる
第５回	内容	③生理機能の発達と保健 呼吸・体温・循環	予習	P32～33 まで読み、理解しておく
			復習	乳幼児の特徴についてまとめる
第６回	内容	消化・排泄・睡眠	予習	P33～34 まで読み、子どもの特徴を知る
			復習	乳幼児の特徴についてまとめる
第７回	内容	Ⅲ、子どもの心身の健康状態とその把握 観察・早期発見	予習	子どもの健康状態のポイントを考える
			復習	子どもの観察ポイントを部位別にまとめる
第８回	内容	身体計測とその評価	予習	P45～52 まで読んでおく　自分の身体計測を行う
			復習	第８回までの要点について見直す
第９回	内容	健康診断　　母子健康手帳	予習	自分の母子健康手帳の内容を確認しておく
			復習	乳幼児健診の内容についてまとめる
第 10 回	内容	Ⅳ、子どもの疾病予防と適切な対応 症状のある子どもへの対応	予習	一般的にみられる症状はどのようなものがあるか考える
			復習	症状の対応についてまとめる
第 11 回	内容	感染症	予習	P63～74 まで読んでおく
			復習	感染経路をまとめる
第 12 回	内容	予防接種	予習	抗原抗体反応について調べる
			復習	自分が行ったことのある予防接種を確認する
第 13 回	内容	アレルギー疾患	予習	アレルギーの事例について調べる
			復習	アレルギー疾患の対応について調べる
第 14 回	内容	その他の疾患	予習	先天性疾患にはどのようなものがあるか調べる
			復習	慢性疾患についてまとめる
第 15 回	内容	精神疾患	予習	最近の虐待事例について調べる
			復習	発達障害の種類・特徴についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内で質問できる時間を設ける。課題（各授業終了時、確認ポイントチェック５問）・提出物においては、採点後または必要に応じてコメントを添えて返却する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　課題（　75　%）、レポート・課題（　10　%）、授業態度【　積極的参加　】（　15　%）
教科書	「子どもの保健　健康と安全」岩田力・細井香　光生館
参考文献	授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト　小林美由紀・森脇浩一　　診断と治療社
注意事項	講義終了後、次回ワークプリントを配布します。前回欠席者は授業前に申し出て、ワークプリントをもらってから受講してください。

科　目　名	子どもの保健	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	くまさか　たかゆき 熊坂　隆行
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	AHS12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、子どもの発育や身体的特徴を理解し、子どものとの接し方について総合的に学ぶ。保育者として必要な保健の知識を習得し、子どもの事故や安全対策について基本的な対応、実践力を身につける。小児保健の意義、小児の生理的機能、運動機能の発達と保健、先天異常の理解と保健のほか、子どもの事故や安全対策について基本的な対応についても学習する。
到達目標	１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 ２．子どもの身体発育や生理機能及び運動機能の発達と保健について理解できる。 ３．子どもの心身の疾病等と適切な対応について理解できる。 ４．保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解できる。 ５．救急時の対応や事故防止、安全管理について理解できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	保育における子どもの保健	予習	子どもの保健についてイメージを膨らませる
				復習	保育におけるこどもの保健を整理する
	第２回	内容	子どもの健康と保健の意義	予習	健康と保健の意義を考えておく
				復習	健康と保健の意義を整理する
	第３回	内容	子どもの発育と保健	予習	発育と保健の事前配布のプリントを見ておく
				復習	発育と保健を整理する
	第４回	内容	子どもの生理機能の発達と保健	予習	生理機能の発達と保健のプリントを見ておく
				復習	生理機能の発達と保健をまとめる
	第５回	内容	子どもの運動機能の発達と保健	予習	運動機能の発達と保健のプリントを見ておく
				復習	運動機能の発達と保健をまとめる
	第６回	内容	子どもの感染病の予防と対策	予習	感染病の予防と対策のプリントを見ておく
				復習	感染病の予防と対策をまとめる
	第７回	内容	アレルギー疾病	予習	アレルギー疾病のプリントを見ておく
				復習	アレルギー疾病をまとめる
	第８回	内容	子どもの健康状態の把握について	予習	健康状態の把握のプリントを見ておく
				復習	健康状態の把握についてまとめる
	第９回	内容	先天異常の理解と保健	予習	先天異常の理解と保健のプリントを見ておく
				復習	先天異常の理解と保健をまとめる
	第 10 回	内容	家庭看護と保健	予習	家庭看護と保健のプリントを見ておく
				復習	家庭看護と保健をまとめる
	第 11 回	内容	予防接種の種類と効果	予習	予防接種の種類と効果のプリントを見ておく
				復習	予防接種の種類と効果をまとめる
	第 12 回	内容	保育現場における事故防止と安全対策・救急処置	予習	事故防止と安全対策・救急処置を理解する
				復習	事故防止と安全対策・救急処置をまとめる
	第 13 回	内容	保育現場における安全対策並びに危機管理	予習	安全対策並びに危機管理を理解する
				復習	安全対策並びに危機管理をまとめる
	第 14 回	内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領における小児の保健	予習	指針・要領における小児の保健を理解する
				復習	指針・要領における小児の保健をまとめる
	第 15 回	内容	授業の振り返り、まとめ	予習	子どもの保健を理解する
				復習	子どもの保健をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	講義前後は、教科書、参考文献を用いて予習・復習をしてください。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（５０％）、レポート・課題（３０％）、授業態度【主体的参加】（２０％）
教科書	『保育者・養護教諭を目指す人のための子どもの保健Ⅰ・Ⅱ』（大澤眞木子、日本小児医事出版社）
参考文献	適宜、紹介いたします。
注意事項	自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義に参加してください。

科　目　名	子どもの食と栄養	単 位 数	2	授業時間数	６０	担当教員	ひらやま　もとこ 平山　素子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EAH12101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から学齢期の発育発達と栄養・食事との関係を理解する。子ども一人ひとりの心理状態や食事の摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。
到達目標	1. 子どもの発育・発達と食生活・栄養について理解している 2. 月年齢に見合った適切な食事提供と介助を行う力を身につけている 3. 自分自身の望ましい食生活の構築に取り組んでいる
学位授与方針	幼児教育学科（　１、２、３　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション、調理室の使い方	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	子どもの発育・発達と栄養	予習	発育と発達の違いを調べる
			復習	発育発達と栄養の関わりについてまとめる
第３回	内容	授乳期の栄養① 母乳栄養	予習	母乳栄養について調べる
			復習	母乳栄養の利点と注意点をまとめる
第４回	内容	授乳期の栄養② 人工栄養	予習	人工栄養について調べる
			復習	人工栄養の利点と注意点についてまとめる
第５回	内容	調理実習 1・・・授乳期(デモンストレーション)	予習	レシピ(プリント)を読んでおく
			復習	調理手順を理解する
第６回	内容	調理実習 1・・・授乳期(調理実習)	予習	調理手順を整理しておく
			復習	人工栄養と母乳についてレポートを作成する
第７回	内容	離乳の必要性について	予習	どうして離乳が必要なのかを考える
			復習	離乳食導入方法とサポート方法をまとめる
第８回	内容	離乳期の栄養①(5～6 か月頃)	予習	教科書の「5～6 か月頃の離乳食」部分を読む
			復習	「5～6 か月頃の離乳食」の特徴をまとめる
第９回	内容	離乳期の栄養②(7～8 か月頃)	予習	教科書の「7～8 か月頃の離乳食」部分を読む
			復習	「7～8 か月頃の離乳食」の特徴をまとめる
第 10 回	内容	食物アレルギーについて	予習	食物アレルギーの原因となる食物を調べる
			復習	事故防止、サポート方法をまとめる
第 11 回	内容	調理実習 2・・・離乳期(デモンストレーション)	予習	レシピ(プリント)を読んでおく
			復習	調理手順を理解する
第 12 回	内容	調理実習 2・・・離乳期(調理実習)	予習	調理手順を整理しておく
			復習	離乳食(5～6, 7～8 か月)についてレポート作成
第 13 回	内容	離乳期の栄養③(9～11 か月頃)	予習	教科書の「9～11 か月頃の離乳食」を読む
			復習	「9～11 か月頃の離乳食」の特徴をまとめる
第 14 回	内容	離乳期の栄養④(12～18 か月頃)	予習	教科書の「12～18 か月頃の離乳食」を読む
			復習	「12～18 か月頃の離乳食」の特徴をまとめる
第 15 回	内容	調理実習 3・・・離乳期(デモンストレーション)	予習	レシピ(プリント)を読んでおく
			復習	調理手順を理解する
第 16 回	内容	調理実習 3・・・離乳期(調理実習)	予習	調理手順を整理しておく
			復習	離乳食(9～11, 12～18 か月)のレポート作成
第 17 回	内容	保育現場における食事を考える	予習	保育現場で食事等を提供する機会を考える
			復習	事等の提供時の課題と解決法をまとめる
第 18 回	内容	幼児期の栄養①成長と食事・栄養について	予習	幼児期の食事について具体的に考えてみる
			復習	幼児期の食事の特徴をまとめる
第 19 回	内容	幼児期の栄養②保育士・保護者の悩みを通して考える	予習	幼児期の食の問題について調べる
			復習	幼児期の食の課題と解決方法をまとめる
第 20 回	内容	児童福祉施設の食事と栄養	予習	教科書の「児童福祉施設での食事」を読む
			復習	児童福祉施設毎の食の特徴をまとめる

	第 21 回	内容	調理実習 4・・・幼児食(弁当)(デモンストレーション)	予習	レシピ(プリント)を読んでおく
				復習	調理手順を理解する
	第 22 回	内容	調理実習 4・・・幼児食(弁当)(調理実習)	予習	調理手順を整理しておく
				復習	幼児食、お弁当についてレポートを作成する
	第 23 回	内容	障がい児の食事と栄養	予習	教科書の「障害のある子どもの食事」を読む
				復習	障がいのある子どもの食の課題をまとめる
	第 24 回	内容	体調不良時の食事と栄養	予習	子どもの体調不良について調べる
				復習	体調に合わせた食事の摂り方をまとめる
	第 25 回	内容	調理実習 5・・・幼児食(行事食)(デモンストレーション)	予習	レシピ(プリント)を読んでおく
				復習	調理手順を理解する
	第 26 回	内容	調理実習 5・・・幼児食(行事食)(調理実習)	予習	調理手順を整理しておく
				復習	行事と調理保育についてレポートを作成する
	第 27 回	内容	学童期の食事と栄養	予習	幼保卒園後の食の問題について考える
				復習	学童期の食とサポート方法をまとめる
	第 28 回	内容	妊娠・授乳期の食事と栄養	予習	妊娠・授乳期に生じる食の問題を考える
				復習	妊娠・授乳期の食とサポート方法をまとめる
	第 29 回	内容	食事のマナー・箸の使い方等について	予習	幼児期に習得すべきマナーについて調べる
				復習	箸使いの習得方法とサポート方法をまとめる
	第 30 回	内容	食べることの意義と栄養・食品の知識	予習	子どもの食で大切なことは何かを考える
				復習	自分の食生活を振返り、改善方法をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね　15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（O）しない 成績評価の方法：レポート・課題（60%）、授業態度（40%）				
教科書	『新・子どもの食と栄養』(岩田, 寺嶋編、みらい)				
参考文献	『子どもの食と栄養』(大江敏江編、光生館)				
注意事項	調理実習ができない場合には、授業内容を変更することがあります				

科目名	子どもの食と栄養	単位数	2	授業時間数	６０	担当教員	ほり　みち 堀　美稚
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EAH12101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもの発育・発達と栄養・食品の基本知識を理解し、子ども一人ひとりの心身の発育状態や子どもを取り巻く食の現状を把握し、適切な食事の提供と介助、さらには保育者への支援する力を身につけ、自分自身の食生活の見直しにも取り組むことを目的とする。
到達目標	１．子どもの発育・発達の特徴と食生活の関係や栄養・食品の基本知識を理解し、実践に役立てることができる ２．月年齢に見合った適切な食事の提供と介助を行うことができる ３．自分自身の望ましい食生活の見直しに取り組むことができる
学位授与方針	幼児教育学科（２・３　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション、調理室の使い方 食べることの意義と栄養・食品の基本知識①	予習	シラバスを読みこの教科の学ぶ意義を考える
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	子どもの発育・発達と栄養	予習	発育と発達の違いを調べる
			復習	発育発達と栄養の関わりについてまとめる
第３回	内容	授乳期の栄養①　母乳・人工栄養	予習	母乳・人工栄養について調べる
			復習	乳汁栄養の利点についてまとめる
第４回	内容	授乳期の栄養②調乳調理実習の説明	予習	調乳実習の手順について調べる
			復習	プリントを読んで実習の確認と準備をする
第５回	内容	調理実習・・・授乳期（調乳調理実習）	予習	調理の目標と手順を整理する
			復習	調理実習のレポートを作成する
第６回	内容	離乳の必要性について	予習	離乳の必要性について考える
			復習	離乳の必要性についてまとめる
第７回	内容	離乳期の栄養①（5,6、7,8 か月頃）	予習	5,6、7,8 か月頃の離乳食について調べる
			復習	5,6、7,8 か月頃離乳食の特徴をまとめる
第８回	内容	離乳期の栄養②（9,11、12,18 か月頃）	予習	9,11、12~18 か月頃の離乳食について調べる
			復習	9,11、12~18 か月頃離乳食の特徴をまとめる
第９回	内容	乳児期の咀嚼機能の発達と嚥下訓練の実習	予習	歯の萌出と咀嚼の関係について調べる
			復習	実習で感じ学んだ事をまとめる
第 10 回	内容	離乳食づくりの留意点と衛生管理について	予習	月齢にあった離乳食づくりについて調べる
			復習	衛生的な調理作業についてまとめる
第 11 回	内容	献立作成と調理の基本	予習	昨日の夕食の献立について記入する
			復習	献立を作成する
第 12 回	内容	幼児期の発育・発達・栄養の特徴①	予習	幼児期の食事について具体的に考えてみる
			復習	幼児期の食事の特徴をまとめる
第 13 回	内容	幼児期の食の問題点と気になる食行動	予習	食の問題点について調べる
			復習	問題点の改善をまとめる
第 14 回	内容	食物アレルギーについて	予習	食物アレルギーの原因について調べる
			復習	代替食・事故防止、提供方法をまとめる
第 15 回	内容	保育現場における食について考える	予習	保育所における食事の提供ガイドラインを読む
			復習	食事提供の意義についてまとめる
第 16 回	内容	栄養・食品の基本的知識②	予習	栄養と食品の基礎の復習する
			復習	自身の１日の食事の摂取状況を調査する
第 17 回	内容	幼児期の栄養②保育士・保護者の悩みを通して考える	予習	食の悩みの問題点について調べる
			復習	食の問題等の改善について考察する
第 18 回	内容	間食の意義、調理実習の説明	予習	幼児期の間食の意義ついてまとめる
			復習	調理の手順・レポート作成方法を理解する
第 19 回	内容	間食の実習	予習	調理手順を確認する
			復習	調理実習のレポートを作成する
第 20 回	内容	児童福祉施設の食事と栄養	予習	児童福祉施設の種類について調べる
			復習	児童福祉施設毎の食の特徴をまとめる
第 21 回	内容	障がい児の食事と栄養	予習	「障がい」とは何かを調べる
			復習	障がいのある子どもの食の課題をまとめる

	第 22 回	内容	体調不良時の食事と栄養	予習	子どもの体調不良について調べる
				復習	体調不良に合わせた食事の提供をまとめる
	第 23 回	内容	食育と行事食	予習	年中行事食について調べる
				復習	食育基本法についてまとめる
	第 24 回	内容	地域や家庭と連携した食育の実践	予習	食育と地域のつながりについて考える
				復習	食育の実践について考察する
	第 25 回	内容	学童期の食事と栄養	予習	学童期の食の問題点について調べる
				復習	学校給食の目的についてまとめる
	第 26 回	内容	思春期の食事と栄養	予習	思春期の食の問題点について調べる
				復習	思春期の食生活の改善についてまとめる
	第 27 回	内容	妊娠・授乳期の食事と栄養	予習	妊娠・授乳期に生じる食の問題を考える
				復習	妊娠・授乳期の食生活支援についてまとめる
	第 28 回	内容	食事のマナー・箸の使い方等について	予習	幼児期に習得すべきマナーについて調べる
				復習	食事のマナーの指導・支援についてまとめる
	第 29 回	内容	日本人の食生活の問題について	予習	日本人の食生活問題について調べる
				復習	食生活指針の理解と自身の食生活改善について
	第 30 回	内容	食べることの意義とバランスの良い食事についてロールプレイ	予習	食事バランスガイドについて調べる
				復習	保育者として健康的な食生活の発信方法を考察
	予習に要する学習時間：概ね 60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 120 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○　）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（６０　%)、授業態度【積極的参加　】（４０%）				
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 子どもの食と栄養　大江敏江　編著　光生館　2.640 円				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『新版 子どもの食生活-栄養・食育・保育-』（上田玲子 編、ななみ書房）				
注意事項	授業を通して、自分自身の望ましい食生活の見直しにも取り組んで欲しい。				

科　目　名	臨床心理学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	みよし　ちから 三好　力
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CLP12201	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	臨床心理学は応用心理学の一つである。心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。 現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようと試みたり、心の問題に向き合おうとするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で活きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。
到達目標	1. 臨床心理学の基礎的知識を習得できる。 2. 学んだ知識を活用して、心の問題について、自分なりに考えられる力を身につける。 3. 学んだ知識を使って、子どもや保護者の心の問題理解と支援に役立てられる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	臨床心理学についての概要 現代社会のこころの問題を考えてみる	予習	現代社会のこころの問題を考えてみる
			復習	現代社会のこころの問題を振り返る
第２回	内容	精神障害① 抑うつ障害	予習	抑うつ障害について調べる
			復習	抑うつ障害について確認する
第３回	内容	精神障害② 不安障害	予習	不安障害について調べる
			復習	不安障害について確認する
第４回	内容	精神障害③ 統合失調症	予習	統合失調症について調べる
			復習	統合失調症について確認する
第５回	内容	精神障害④ 心的外傷後ストレス障害	予習	PTSD について調べる
			復習	PTSD について確認する
第６回	内容	発達臨床心理学について 発達初期のこころの問題について考えてみる	予習	既習の発達心理学の内容を確認する
			復習	既習の発達心理学の内容について確認する
第７回	内容	発達障害① 知的障害・自閉症スペクトラム	予習	知的障害について調べる
			復習	知的障害について確認する
第８回	内容	発達障害② ADHD・LD	予習	ADHD, LD について調べる
			復習	ADHD, LD について確認する
第９回	内容	確認小テスト フィードバック	予習	ここまでの内容について試験勉強する
			復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する
第 10 回	内容	臨床心理学の理論と方法① 精神分析	予習	精神分析について調べる
			復習	精神分析について確認する
第 11 回	内容	臨床心理学の理論と方法② 人間性心理学	予習	ロジャースについて調べる
			復習	ロジャースの理論について確認する
第 12 回	内容	心理アセスメント 知能テスト、パーソナリティテスト、質問紙法と投影法について	予習	心理テストについて調べる
			復習	心理アセスメントについて確認する
第 13 回	内容	身近なこころの問題	予習	身近な心の問題について考える
			復習	授業で学んだことと照らし合わせ確認する
第 14 回	内容	確認小テスト フィードバック	予習	ここまでの内容について試験勉強する
			復習	テストで出た内容を照らし合わせ確認する
第 15 回	内容	現代社会と臨床心理学：サブカルチャーの中にみられる臨床心理学的問題から考えてみる	予習	サブカルチャーと精神性について調べる
			復習	自分の考えをまとめてみる

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	２回の小テストを実施し、その後に行う。 レポートについては意見レポートなのでずれていない限りは合格とし、不合格のものには個別に対応する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（100%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	
参考文献	
注意事項	授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で授業態度を減点し、場合によっては退出、授業出席を停止させることもありますので注意してください。

科　目　名	心理学特講	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	おおくま　みかこ 大熊　美佳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12202	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	心理学は，人間の心のメカニズムや行動を科学的に研究していく学問です。本講義では，テーマについて自ら調べ発表する，グループワークを行い他者の考えを知るなどの学びを通して，自分自身の心の仕組みを探り，自己理解を深めるとともに，人間理解の観点から，人間の心と行動について理解を深めるために必要な心理学の基礎知識を学び，日常生活にその知見を生かすことを目的とします。
到達目標	１．心理学の基礎知識を身につけている ２．人の心のメカニズムと行動について理解している ３．自分自身の望ましいライフコース構築に取り組んでいる
学位授与方針	幼児教育学科（　3，5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	ガイダンス：心理学を学ぶということ	予習	シラバスを読んでおく
				復習	心理学を学ぶ意義をまとめる
	第２回	内容	自分自身を知る	予習	自分自身の性格について考える
				復習	自分自身について理解を深める
	第３回	内容	女性のライフコースの心理学	予習	女性のライフコースをテーマにした映画・小説などについて調べる
				復習	自分自身のライフコースを考える
	第４回	内容	親子関係の心理学	予習	親子関係をテーマにした映画・小説などについて調べる
				復習	親子関係について自分の考えをまとめる
	第５回	内容	子育ての心理学	予習	子育てに関連する情報を調べる
				復習	子育てについて自分の考えをまとめる
	第６回	内容	自己決定理論から考える動機づけ	予習	動機づけについて調べる
				復習	自己決定理論について学んだことをまとめる
	第７回	内容	実行機能の発達	予習	実行機能について調べる
				復習	実行機能の発達についてまとめる
	第８回	内容	対人関係の心理学	予習	対人関係をテーマにした映画・小説などについて調べる
				復習	対人関係についてまとめる
	第９回	内容	社会的ジレンマ	予習	社会的ジレンマの事例を調べる
				復習	社会的ジレンマについて学んだことをまとめる
	第 10 回	内容	記憶の発達	予習	記憶について調べる
				復習	記憶の発達について学んだことをまとめる
	第 11 回	内容	感情・情動の発達	予習	感情・情動の発達について調べる
				復習	感情・情動の発達について学んだことをまとめる
	第 12 回	内容	道徳性の発達	予習	道徳性をテーマにした映画・小説などについて調べる
				復習	道徳性の発達について学んだことをまとめる
	第 13 回	内容	色彩と心理学	予習	自分に似合う色について考える
				復習	色彩が及ぼす影響についてまとめる
	第 14 回	内容	レジリエンスとマインドフルネス	予習	自分自身がストレスを感じる状況について考える
				復習	心の健康を保つ方法についてまとめる
	第 15 回	内容	課題の発表とまとめ　日常に生かす心理学	予習	授業を通して学んだことを整理する
				復習	学んだ知見の活用についてまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（60%）、授業態度【積極的参加】（40%）
教科書	特になし
参考文献	講義の中で適宜紹介します
注意事項	

科　目　名	保育・教育課程論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	こやま　れいこ 小山　玲子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12201	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	園の包括的な基本方針(幼稚園、保育所、幼保連携型こども園共通)である「教育課程」「全体的な計画」の構成と関連する指導計画並びに指導計画作成上の留意事項を保育現場での具体的な事例を通して学ぶ。幼稚園や保育所の保育内容などの保育の基本を理解した上で、保育実践における部分実習案等の立案の仕方を身につける。ポートフォリオ・ドキュメンテーションなど保育活動を可視化することで見えてくる子ども理解や保育者としての成長について考えながら、保育の内容と評価に基づく記録方法や改善に対する理解を深める。
到達目標	１．教育課程、保育の全体的な計画、指導計画の意義について学び、作成について目的を理解している。 ２．子どもの発達の過程・特徴を理解し、指導計画の作成を通して作成のポイント、方法について理解している。 ３．実際の保育方法や保育の形態と内容、保育記録・評価反省・改善の意義・目的について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（１．３．４）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

樹豪計が	第１回	内容	オリエンテーション・保育の基本について	予習	シラバス、教科書①、②の目次を確認する
				復習	保育の基本について整理する
	第２回	内容	教育課程・全体的な計画と指導計画	予習	教科書①第２章Ｐ２７～３１の通読
				復習	教育課程・全体的な計画をまとめる
	第３回	内容	幼稚園の理解　グループワーク	予習	教育要領の通読、教育課程について調べる
				復習	教育課程作成のポイントを復習する
	第４回	内容	保育所の理解　グループワーク	予習	保育所の全体的な計画について調べる
				復習	全体的な計画作成のポイントを復習する
	第５回	内容	指導計画の作成の基本とその方法	予習	教科書②指導案編Ｐ７０～７９の通読
				復習	配布プリントのまとめを行う
	第６回	内容	幼稚園部分実習指導案の立案・作成①	予習	部分実習で使用する絵本を選ぶ
				復習	部分実習指導案の原案を箇条書きで書く
	第７回	内容	幼稚園部分実習指導案の立案・作成②	予習	教科書②Ｐ１０２～１１８の通読
				復習	部分実習指導案の完成(次回の授業提出)
	第８回	内容	乳児、１・２歳児の特徴と指導計画　グループワーク	予習	教科書①第６章Ｐ１３５～１４２の通読
				復習	０・１・２歳児の特徴を理解し整理する
	第９回	内容	幼児の特徴と指導計画　グループワーク	予習	教科書①第７章Ｐ１４３～１５０の通読
				復習	配布プリントの課題を行う
	第 10 回	内容	保育園部分実習指導案の立案・作成①	予習	部分実習の内容を考える
				復習	部分実習指導案を完成させる
	第 11 回	内容	保育の実践と評価	予習	ＰＤＣＡサイクルについて調べる
				復習	保育の評価・省察を理解する
	第 12 回	内容	保育園部分実習指導案の立案・作成②	予習	返却された部分実習指導案の見直し・訂正
				復習	部分実習指導案の完成(次回の授業提出)
	第 13 回	内容	子ども理解や保育者としての成長につながる保育の記録	予習	ドキュメンテーションについて調べる
				復習	配布プリントの課題を行う
	第 14 回	内容	教育・保育施設と小学校との連携　グループワーク	予習	自分の自治体の幼保小連携について調べる
				復習	接続期カリキュラム等を理解する
	第 15 回	内容	授業のまとめ　(授業内レポート)	予習	第１～１４回配布プリントを見直す
				復習	保育・教育課程論で学んだことをまとめる
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	提出課題に関しては確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　授業内レポート・課題（７０％)、授業態度【積極的参加】(３０％)
教科書	①『教育課程・保育の計画と評価　書いて学べる指導計画』(岩﨑淳子・及川留美・粕谷亘正、萌文書林) ②『パターンと練習問題でだれでもかけるようになる実習日誌・指導案』(浅井拓久也、明治図書出版)
参考文献	『保育所保育指針』(厚生労働省、フレーベル館)　『幼稚園教育要領』(文部科学省、フレーベル館)
注意事項	配布資料はファイリングし、レポート・課題など提出期限は必ず守ること。グループ討議等に積極的に参加すること。

科　目　名	保育・教育課程論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	きたの　さだと 喜多濃　定人
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12201	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	各園において展開される保育は、様々な専門知識・技術、さらに豊かな感性と誠実な人間性を備えた専門家によって行われる専門的な営みである。その専門性の１つである保育の計画について学び、自ら保育の計画を立て実践できるようになる事を目指し、将来保育者になった時に身に着けておいて欲しい基本的な事柄を学びます。
到達目標	１．教育課程、保育の全体的な計画、指導計画の意義について学び、作成について目的を理解している。 ２．保育の基本及び計画に必要な子ども理解について学び、指導計画の作成を通して作成のポイント、方法について理解している。 ３．実際の保育方法や保育の形態と内容、保育記録・評価反省・改善の意義・目的について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　３　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	オリエンテーション・光輪会の紹介	予習	シラバスを読んでおく
			復習	紹介された園の取り組みを理解する
第2回	内容	幼児期の子どもが育つ社会背景の現状理解	予習	社旗背景がどの様に変化していったか考える
			復習	プリントを読み直し現状を理解する
第3回	内容	教育課程・保育課程、指導計画とは	予習	実習等で作成した計画・指導案を見なおす
			復習	教育・保育課程、指導案の仕組みを理解する
第4回	内容	計画に必要な子ども理解	予習	自身の子ども間について考えをまとめる
			復習	プリントを見直し子ども観に関して理解を深める
第5回	内容	幼稚園における教育課程と指導計画	予習	教育課程、指導計画について調べる
			復習	プリントを見直し理解を深める
第6回	内容	保育所の全体的な計画と指導計画	予習	保育所の全体的な計画について調べる
			復習	プリントを見直し理解を深める
第7回	内容	認定こども園における教育・保育課程と指導計画	予習	教育・保育課程と指導計画について調べる
			復習	プリントを見直し理解を深める
第8回	内容	愛着形成（アタッチメント）	予習	自分なりにアタッチメントについて考える
			復習	愛着形成についてのレポートを作成し提出する
第9回	内容	０歳 児の指導計画	予習	０歳児の指導計画について調べる
			復習	プリントを見直し理解を深める
第10回	内容	１～２歳児の指導計画	予習	１～２歳児の指導計画について調べる
			復習	プリントを見直し理解を深める
第11回	内容	３～５歳児の指導計画	予習	３～５歳児の指導計画について調べる
			復習	この時期の３～５歳児の指導案を作成する
第12回	内容	小学校へのつながり	予習	接続期について調べる
			復習	プリントを見直し理解を深める
第13回	内容	行事・様々な保育方針と教育・保育課程	予習	様々な保育とはどの様な保育があるのか調べる
			復習	プリントを見直し理解を深める
第14回	内容	保育の質を高める計画と評価	予習	評価とは何なのか調べる
			復習	自己・関係者・第三者評価の違いを理解する
第15回	内容	まとめ	予習	今までのプリントを見直す
			復習	自分なりの保育観を持ち指導案を立てる

予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね１２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	作成したレポートにコメントを行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（４０％）、リアクションペーパー（３０％）、授業への取り組み（３０％）
教科書	『新版 教育・保育課程論』（谷田貝・石橋　監　高橋・大沢 編、　一藝社）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『保育課程・教育課程総論』（柴崎・戸田・増田　編　ミネルバ書房）　　その他授業内で紹介していきます。
注意事項	授業を通して、望ましい保育内容を考える機会として行ってください。

科　目　名	保育内容総論	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	いざわ　えいしゅう 伊澤　永 修
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12202	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	幼児教育は総合的な指導をするという考え方から、５領域、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期までに育ってほしい姿それぞれを理解し、またそれらの関係性を理解した上で保育を構築できるようにする。そのために具体的な子どもの姿を考えながら保育内容と指導法についてグループディスカッションし、理解を深める。
到 達 目 標	１.「育みたい資質・能力」「幼児期に育ってほしい」と保育内容の関係性を理解している ２.　子どもを取り巻く社会や環境の実態に即した具体的な保育課程を構築できる ３.　保育の多様な展開について具体的に理解している
学位授与方針	幼児教育学科（２、３、５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	乳幼児期の保育の基本について	予習	これまでの学びを通して保育の基本についてまとめておく
			復習	授業の内容を受けて改めて保育の基本及び保育内容についての振り返りを行う
第２回	内容	要領及び指針における教育と保育の考え方及び遊びを通した総合的な学びについて	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	授業内容を踏まえ改めて要領や指針の該当部分を読み理解を深める
第３回	内容	幼児教育と小学校教育の違いと接続について	予習	これまでの学びを通して幼児教育と小学校教育の違いについてまとめておく
			復習	授業内容を踏まえて事前にまとめた内容の修正を行い理解を深める
第４回	内容	社会的背景から変化してきた保育内容の変遷について	予習	過去の要領や指針を調べ保育内容の違いを確認しておく
			復習	時代のニーズと保育内容の変遷から今後の変化について自分なりの考えをまとめる
第５回	内容	幼児期に育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	幼児期に育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のまとめを行い理解を深める
第６回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と保育内容（１） 10 の姿を念頭に入れた保育内容を考えるグループディスカッション及び発表	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	授業内で考えた保育内容につい指導案を作成する
第７回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と保育内容（２） 10 の姿を念頭に入れた保育内容を考えるグループディスカッション及び発表	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	授業内で考えた保育内容につい指導案を作成する
第８回	内容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と保育内容（３） 10 の姿を念頭に入れた保育内容を考えるグループディスカッション及び発表	予習	要領や指針の該当部分を読み返しておく
			復習	授業内で考えた保育内容につい指導案を作成する
第９回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（１） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方についてまとめる
第 10 回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（２） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方についてまとめる
第 11 回	内容	視聴覚教材を活用して映像から子どもの育ちと気持ちを読み取る（３） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	映像視聴及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方についてまとめる
第 12 回	内容	ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）（１） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	ケーススタディ及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方についてまとめる
第 13 回	内容	ケーススタディ（子どもの気持ちを読み取り保育者としての関わり方を考える）（２） グループディスカッション及び発表	予習	子どもの発達過程について確認しておく
			復習	ケーススタディ及びグループディスカッションをもとに子どもの育ちと気持ちの読み取り方についてまとめる
第 14 回	内容	園外保育（遠足）について及び計画の立て方	予習	園外保育（遠足）の行先の候補を考えておく
			復習	園外保育（遠足）の安全で効果的な実施方法を改めて確認する
第 15 回	内容	子どもを取り巻く環境と現代の保育ニーズの多様化について及び総まとめ	予習	現代社会においてどのような保育ニーズがあるかまとめておく
			復習	授業内容を受けて様々な保育ニーズに応えるための保育についてまとめる

	予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。
課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、返却時に解説する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%)、レポート・課題（７０%)、作品・発表（　　%)、実技（　　%)、授業態度【参加度合】（３０%）
教科書	必要に応じて授業内で指示する
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
注意事項	

科　目　名	保育内容総論	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	いがらし　じゅんこ 五十嵐　淳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	保育内容総論は、各論としてとらえられる保育内容を総合的に把握して理解するものである。子どもの育ちを支える保育者として求められる知識と保育技術、その他保育内容にかかわることを総合的に学び身につけることを目的とする。
到達目標	１．乳幼児の発達の特性を踏まえた、子ども一人ひとりに寄り添う保育者の役割と援助について習得する。 ２．保育内容５領域について構造的にとらえた上で、保育内容をいかに構成・展開していくか理解し、保育実践力を身に付ける。
学位授与方針	幼児教育学科（1,2,3,4,5,7　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーションとガイダンス：保育内容総論について	予習	保育内容についてのイメージを膨らませる
			復習	保育内容の５領域について整理する
第２回	内容	保育の基本と保育内容	予習	保育の基本についてテキストで確認する
			復習	保育基本と保育内容について整理する
第３回	内容	保育の特質:保育教材から考える、教材制作	予習	保育教材について下調べしておく
			復習	保育教材についての理解を整理する
第４回	内容	遊びによる総合的な保育	予習	子どもの遊びに繋がる保育教材を確認
			復習	遊びと保育について理解し整理する
第５回	内容	幼児の発達と生活	予習	子どもの発達段階について調べておく
			復習	子どもの発達段階を整理しておく
第６回	内容	環境と保育内容	予習	子どもを取り巻く環境について下調べしておく
			復習	保育内容のテキストを読み返し整理しておく
第７回	内容	幼児理解と保育内容	予習	幼児理解の箇所のテキストを読む
			復習	幼児理解についての自分の考えをまとめる
第８回	内容	保育内容と保育・教育課程	予習	保育課程・教育課程について下調べしておく
			復習	保育課程・教育課程について整理する
第９回	内容	保育内容と保育の展開	予習	保育内容と保育の展開の箇所のテキストを読む
			復習	保育内容と保育の展開について整理する
第 10 回	内容	保育の評価と記録	予習	評価と記録の箇所のテキストを読み込んでおく
			復習	評価や記録について整理する
第 11 回	内容	保育者の役割	予習	保育者の役割について考えておく
			復習	保育者の役割について整理しておく
第 12 回	内容	保育者の支援と配慮	予習	保育者の支援と配慮について考えておく
			復習	保育者の支援と配慮についてまとめる
第 13 回	内容	保育の実践的理解①:保育教材を通した保育実践の発表	予習	保育実践の発表に向けて準備する
			復習	実践発表の振り返りをする
第 14 回	内容	保育の実践的理解②:保育教材を使用した実技発表	予習	振り返りを踏まえて保育実践をまとめておく
			復習	各自が発表した内容をまとめておく
第 15 回	内容	まとめ 保育内容における現状と課題	予習	今までの授業の学びを整理する
			復習	保育内容での学びをまとめておく

予習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。

課題へのフィードバック	実技や発表については、個々にコメントを通してフィードバックするようにする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（40%）、実技（40%）、授業態度【リアクションペーパー】(20%)
教科書	『書名』（著者名、出版社名）五十嵐淳子・木戸直美編著『子どもと保育－保育内容の学びを通して－』大学図書出版
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館
注意事項	保育教材の作成の際は必要な物を各自準備すること

科　目　名	乳児保育Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	はぎわら　やすこ 萩原　康子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	3歳未満児の発育・発達の特徴、生活・遊びの実際と援助、配慮について学ぶ。 講義、ビデオ視聴、保育現場での事例等を通して理解を深め、乳児保育に必要な知識を身につける。 乳児の短期的計画、長期的計画、個別計画について、グループワーク等を通して具体的に学ぶ。
到達目標	１．３歳未満児の保育における養護と教育の一体性について理解している。 ２．３歳未満児の発達支援と家庭支援について説明できる。 ３．３歳未満児の生活の連続性、発達の連続性、遊びの連続性について説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2,4,5 ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
第１回	内容	ガイダンス 乳児保育の意義・目的と歴史的返還	予習	シラバスを読み本科目で修得する内容を知る
			復習	養護と教育を一体的に行う理由を整理する
第２回	内容	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	予習	家庭や地域の子育て機能の低下について調べる
			復習	乳児保育の重要性、子育て支援のあり方を整理する
第３回	内容	保育所における乳児保育	予習	長時間保育における課題について調べる
			復習	保育所の機能と役割を整理する
第４回	内容	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	予習	保育所以外の児童福祉施設について調べる
			復習	乳児院の役割と生活を整理する
第５回	内容	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	予習	家庭的保育、小規模保育について整理する
			復習	家庭的保育、小規模保育、地域型保育の特徴を整理する
第６回	内容	3歳未満児の家庭を取り巻く環境と子育ての支援	予習	子どもの最善の利益について調べる
			復習	事例から学んだ内容をレポートにまとめる
第７回	内容	3歳未満児の生活と環境	予習	保育の人的環境、物的環境について調べる
			復習	乳児保育室の環境構成のあり方を整理する
第８回	内容	3歳未満児の遊びと環境	予習	視覚、四肢、手指、言葉の発達について調べる
			復習	発達に応じた遊びの環境と配慮事項を整理する
第９回	内容	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	予習	0歳から1歳、1歳から2歳、2歳から3歳に移行する際の留意点について調べる
			復習	乳児保育における総合的な育ちについてレポートにまとめる
第10回	内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助やかかわり	予習	運動発達、微細発達、認知発達、関係性の発達について調べる
			復習	乳児の発達の特徴と援助のあり方を整理する
第11回	内容	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	予習	健康、安全、情緒に関する配慮事項を調べる
			復習	保育中の健康把握、安全管理についてレポートにまとめる
第12回	内容	乳児保育の計画・記録・評価とその意味 グループワーク	予習	保育の長期的計画、短期的計画について調べる
			復習	計画、実践、記録、評価の関連性を整理する
第13回	内容	職員間の連携と協働	予習	保育士の役割と業務について調べる
			復習	保育士に求められる専門性、人間性を整理する
第14回	内容	保護者との連携と協働	予習	子育て支援の必要性について調べる
			復習	保護者と連携して子どもの育ちを支える視点を整理する
第15回	内容	自治体や地域の関係機関との連携と協働	予習	児童虐待について事例等を下調べする
			復習	保育所と地域との連携の意味を整理する

予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。

課題へのフィードバック	作成したレポートについては全体に説明を行う。 授業内にて質問を受ける時間を設け、フィードバックできる環境を整える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　授業内の確認テスト（６０%）、レポート・課題（２０%）、授業態度【リアクションペーパーの記載内容含む】（２０%）
教科書	『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』（寺田清美・大方美香・塩谷香編集、中央法規出版株式会社）
参考文献	『保育所保育指針解説　平成30年3月　厚生労働省編』（フレーベル館）
注意事項	リアクションペーパーには、毎回学んだことや感想等を記入して提出すること。配布資料はファイリングし、毎回の授業に持参すること。

科　目　名	乳児保育Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	はぎわら　やすこ 萩原　康子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	乳児保育Ⅰの学習をもとに愛着関係の必要性を理解し、３歳未満児の発育・発達の特徴や生活・遊びの実際と援助、配慮について学ぶ。 ビデオ視聴や保育現場での事例、演習を通して理解を深め、乳児保育に必要な知識と技術を身につける。 指導計画の作成について、グループワーク等で具体的に学ぶ。
到達目標	１．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりについて、基本的な考え方を理解している。 ２．３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境構成について、具体的方法を身につけている。 ３．乳児保育における配慮について、具体的に説明できる。 ４．乳児保育における計画の作成について、具体的に理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　2,4,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	ガイダンス　乳児保育の基本① 子どもと保育士等との関係の重要性	予習	シラバスを読み本科目で習得する内容を確認する
			復習	心の土台としての愛着形成の重要性を整理する
第２回	内容	乳児保育の基本② 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり	予習	対人関係の発達について調べる
			復習	個別対応の大切さについて整理する
第３回	内容	乳児保育の基本③ 子どもの主体性の尊重と自己の育ち	予習	身体機能の発達について調べる
			復習	主体性を尊重することの意味について整理する
第４回	内容	乳児保育の基本④ 子どもの体験と学びの芽生え	予習	乳児保育の現状と課題について調べる
			復習	乳児保育の基本についてレポートにまとめる
第５回	内容	乳児期における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①【演習】 子どもの一日の生活の流れと保育の環境	予習	保育所、乳児院、家庭的保育の違いを調べる
			復習	子どもの 24 時間と集団保育おける一日の流れとの関連性を整理する
第６回	内容	乳児期における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②【演習】 子どもの生活や遊びを支える環境の構成	予習	３歳未満児の発育発達の特徴について調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第７回	内容	乳児期における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③【演習】 ３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊び	予習	落ち着いて過ごせる環境について調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第８回	内容	乳児期における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④【演習】 ３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活	予習	基本的生活習慣とはどのような場合か調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第９回	内容	乳児期における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際⑤【演習】 子ども同士の関りと援助	予習	３歳未満児の子ども同士の関りについて調べる
			復習	乳児期における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びについて援助の方法を整理する
第 10 回	内容	乳児保育における配慮の実際①【演習】 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	予習	安全・安心のために必要な配慮について調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第 11 回	内容	乳児保育における配慮の実際②【演習】 集団での生活における配慮	予習	発達を踏まえた援助とはどのようなものか調べる
			復習	演習を通して体験したことを振り返り整理する
第 12 回	内容	乳児保育における配慮の実際③【演習】 環境の変化や移行に関する配慮	予習	３歳以上児の保育に移行する時期の配慮を調べる
			復習	乳児保育における配慮についてレポートにまとめる
第 13 回	内容	乳児保育における計画の実際①【演習】 長期的な指導計画と短期的な指導計画	予習	全体的な計画と指導計画の関連性について調べる
			復習	指導計画作成の意味・必要性を整理する
第 14 回	内容	乳児保育における計画の実際②【演習】 個別的な指導計画と短期的な指導計画	予習	指導計画の評価・反省の方法について調べる
			復習	乳児保育における計画についてレポートにまとめる
第 15 回	内容	まとめ 乳児保育の総合理解	予習	年間に配布した資料を読み込み要点を再確認する
			復習	乳児保育の意義と重要性を整理する

予習に要する学習時間：概ね４０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４０分を目安とする。

課題へのフィードバック	作成したレポートについては全体に説明を行う。 演習後の実技を通して修得状況を確認する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（３０％）、実技（４０％）、授業態度【向上心、意欲的な参加】（３０％）
教科書	『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』（寺田清美・大方美香・塩谷香編集、中央法規出版株式会社）
参考文献	『保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月　厚生労働省編』（フレーベル館）
注意事項	演習シートは課題に沿って記入し、毎回の授業終了後に提出すること。 配布資料はファイリングし、毎回の授業に持参すること。

科　目　名	子どもの健康と安全	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	みた　のりこ 味田　徳子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	AHS12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について「子どもの保健」で得た知識を実践できるように演習を行い、習得することを目的とする。 保育のための養護技術、体調不良時の対応やケガの応急手当等の保健的な内容及び保健管理の方法について演習を通して理解を深める。感染を含めた事故防止の知識を深める。
到達目標	１．子どもの健康状態の評価ができる。 ２．病気や事故発生時など、緊急時の対応ができる。また予防のための対策を理解している。 ３．集団保育における環境と安全対策を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3,4,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 子どもの健康と保育環境	予習	教科書 P104～113 を読む
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	保育における健康および安全の管理① 衛生管理	予習	教科書 P114～122 を読む
			復習	保育所における保育環境・衛生管理をまとめる
第３回	内容	保育における健康および安全の管理② 事故防止及び安全対策	予習	教科書 P123～133 を読む
			復習	安全教育・安全管理についてまとめる
第４回	内容	保育における健康および安全の管理③ 危機管理と災害の備え　＝危機管理ポスター＝	予習	教科書 P133～138 を読む
			復習	災害時、避難誘導のポイントをまとめる
第５回	内容	体調不良や障害が発生した場合の対応 演習　バイタルサイン測定、包帯法	予習	教科書 P139～146 を読む
			復習	症状についての対応方法をまとめる
第６回	内容	応急処置：誤飲・誤嚥 演習　ハイムリック法　＝誤飲チェッカー作製＝	予習	教科書 P146～149 を読む
			復習	症状についての対応方法をまとめる
第７回	内容	救急処置と蘇生法 演習　心肺蘇生法、AED	予習	教科書 P150～154 を読む
			復習	演習でのポイントをまとめる
第８回	内容	感染症の集団発生予防	予習	教科書 P155～157 を読む
			復習	集団感染予防のポイントについてまとめる
第９回	内容	感染対策の具体的方法	予習	教科書 P157～166 を読む
			復習	感染症対策ガイドラインを再確認する
第 10 回	内容	病児保育 保育における保健的対応の基本的考え方	予習	教科書 P166～172 を読む
			復習	病児保育のポイントについてまとめる
第 11 回	内容	３歳未満児への対応 演習　オムツ交換・抱っこ・おんぶ・身体計測	予習	教科書 P173～175 を読む
			復習	3歳未満児の発育･発達についてまとめる
第 12 回	内容	個別的な配慮を要する子どもへの対応	予習	教科書 P175～185 を読む
			復習	発達障害の支援方法についてまとめる
第 13 回	内容	保育者間の連携・協同、協同と組織の取り組み ＝事故防止・ヒヤリハット記録＝	予習	教科書 P186～191 を読む
			復習	保育者間の連携のポイントについてまとめる
第 14 回	内容	保育における保健活動の計画と評価 ＝保健だより作成＝	予習	教科書 P191～195 を読む
			復習	自分の誕生月の保健だよりを作成する
第 15 回	内容	母子保健・地域保健の計画と評価 家庭、専門機関、地域の関係機関などとの連携	予習	教科書 P195～202 を読む
			復習	居住区の保健関係専門機関を調べる

予習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　90　分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポート･課題は採点後、返却する。 実技試験前に試験チェックポイントについて確認し、実施後振り返る。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　実技または筆記試験（　50　%）、レポート・課題（　40　%）、授業態度【演習：積極性、身だしなみ】（　10　%）
教科書	『子どもの保健　　健康と安全』　（岩田力・細井香、光生館）
参考文献	『これならわかる！子どもの保健演習ノート』(小林美由紀、診断と治療社)
注意事項	●演習時は、動きやすい服装、エプロンを着用し、爪･髪などの身だしなみを整えて下さい。●演習、準備、後片付けなど主体的に取り組むことで、授業態度における積極性と評価します●演習用ワークブックを配布しますので、演習時は必携してください。●進行の都合上、授業変更がある場合があります。

科　目　名	子どもの健康と安全	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	くまさか　たかゆき 熊坂　隆行
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	AHS12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	乳幼児期の特徴と観察、身体計測技術、生理機能計測技術の学習や演習を行う。また、日常に必要な看護技術、日常に多い疾病と予防及び対処法、救急時の対応と事故防止、安全管理立案の方法なども学習する。
到達目標	1. 子どもの健康及び安全に関する保健活動の計画及び評価を理解している。 2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境調整を理解している。 3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応を身につけている。 4. 救急時の対応や事故防止、安全管理の具体策が立案できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　2,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	身体の計測と評価　講義	予習	シラバスを読んでおく
			復習	計測方法と評価を理解する
第２回	内容	身体の計測と評価　演習	予習	計測方法と評価を整理しておく
			復習	計測方法と評価をまとめる
第３回	内容	観察項目「バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識）の測定の仕方と評価	予習	観察項目を理解する
			復習	観察項目をまとめる
第４回	内容	観察項目「バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸、意識）の測定の仕方と評価	予習	観察項目を理解する
			復習	観察項目をまとめる
第５回	内容	日常の保育に必要な技術（抱っこ、おんぶ、食事、口腔内の清拭）	予習	日常の保育に必要な技術を理解する
			復習	日常の保育に必要な技術をまとめる
第６回	内容	日常の保育に必要な技術（排泄の援助とトレーニング）	予習	日常の保育に必要な技術を理解する
			復習	日常の保育に必要な技術をまとめる
第７回	内容	日常の保育に必要な技術（沐浴、おむつの当て方、衣服の着脱）	予習	日常の保育に必要な技術を理解する
			復習	日常の保育に必要な技術をまとめる
第８回	内容	日常の保育に必要な技術（沐浴、おむつの当て方、衣服の着脱）	予習	日常の保育に必要な技術を理解する
			復習	日常の保育に必要な技術をまとめる
第９回	内容	あらゆる症状に対する看護（発熱、泣き方、咳等）	予習	あらゆる症状に対する看護を理解する
			復習	あらゆる症状に対する看護をまとめる
第 10 回	内容	あらゆる症状に対する看護（頭痛、腹痛等）	予習	あらゆる症状に対する看護を理解する
			復習	あらゆる症状に対する看護をまとめる
第 11 回	内容	あらゆる症状に対する看護（嘔吐、便秘、下痢等）	予習	あらゆる症状に対する看護を理解する
			復習	あらゆる症状に対する看護をまとめる
第 12 回	内容	疾病の対応と予防（感染症、食中毒）	予習	疾病の対応と予防を理解する
			復習	疾病の対応と予防をまとめる
第 13 回	内容	疾病の対応と予防（手洗い）	予習	疾病の対応と予防を理解する
			復習	疾病の対応と予防をまとめる
第 14 回	内容	応急処置（心肺蘇生法等）	予習	応急処置を理解する
			復習	応急処置をまとめる
第 15 回	内容	子どもの保育環境と衛生管理	予習	子どもの保育環境と衛生管理を理解する
			復習	子どもの保育環境と衛生管理をまとめる

予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。

課題へのフィードバック	講義・演習後は、講義・演習で配布される資料、参考文献を用いて復習をしてください。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（10%）、実技（50%）、授業態度【主体的参加】（40%）
教科書	プリントを配布いたします。
参考文献	適宜、紹介いたします。
注意事項	自ら学ぶ姿勢をもち、主体的に講義に参加してください。

科　目　名	特別支援教育論	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	せき　ゆいこ 関　維子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SNE12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	障害者の権利条約と国内法の整備、教育制度の転換を踏まえて、インクルーシブ教育の理念と特別支援教育について体系的に学ぶ。また、障害のある子どもや特別な支援を要する子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援の実際について学び、自立と社会参加に向けた教育的支援と合理的配慮について理解する。
到達目標	1. インクルーシブ教育システムの理念と取り組みについて説明できる。 2. 障害や特別なニーズのある子どもの評価の視点と、障害や困難さに応じた指導内容や指導方法について理解している。 3. 「個別の教育指導計画」「個別の支援計画」作成の意義と目的について説明できる。 4. 学校間や保護者、関係機関における連携について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　３・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
第１回	内容	オリエンテーション 特別支援教育の理念とインクルーシブ教育システム	予習	シラバスを読む。
			復習	特別支援教育のキーワードについてまとめる。
第２回	内容	特殊教育から特別支援教育への転換 特別支援教育の現状と教育制度	予習	特殊教育の特徴について調べる。
			復習	就学制度の改正についてまとめる。
第３回	内容	障害とは：ICF の理解 障害のある子どもの教育を保障する法律・制度	予習	障害とは何かについて自分の考えをまとめる。
			復習	ICIDH から ICF への改訂についてまとめる。
第４回	内容	保育や教育における合理的配慮と基礎的環境整備	予習	障害者差別解消法について調べる。
			復習	合理的配慮の具体例についてまとめる。
第５回	内容	障害の理解と教育① 視覚障害児・聴覚障害児の理解	予習	身の回りにある合理的配慮について調べる。
			復習	視覚障害、聴覚障害への配慮事項をまとめる。
第６回	内容	障害の理解と教育② 知的障害児・肢体不自由児・病弱児・医療的ケア児の理解	予習	身の回りにある合理的配慮について調べる。
			復習	安全な保育のための配慮についてまとめる。
第７回	内容	障害の理解と教育③ 発達障害児の理解	予習	身の回りにある視覚的支援について調べる。
			復習	障害特性に合わせた環境構成をまとめる。
第８回	内容	多文化の子どもの理解 養育環境による配慮の必要な子どもの理解	予習	興味のある国の文化や挨拶について調べる。
			復習	模擬事例に関するチェックリストを作成する。
第９回	内容	保育における遊びと活動、園内環境の工夫 障害特性に合わせた遊びについてグループで発表し合う。	予習	障害特性に配慮した遊びを考える。
			復習	行事における工夫と配慮についてまとめる。
第 10 回	内容	障害のある子どものアセスメント：意義と目的、方法	予習	発達検査と知能検査について調べる。
			復習	模擬事例のアセスメントシートを作成する。
第 11 回	内容	クラスの指導日案の作成、個別と集団への配慮 日案についてグループディスカッションをする。	予習	指導日案を作成するための事例を決める。
			復習	指導日案の振り返りとまとめをする。
第 12 回	内容	「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」 目標についてグループディスカッションをする。	予習	特別支援教育における計画の種類を調べる。
			復習	目標設定のポイントについてまとめる。
第 13 回	内容	特別支援学校・特別支援学級の特徴 就学相談と就学に向けた移行支援	予習	居住地の特別支援学級の設置状況を調べる。
			復習	就学相談の流れについてまとめる。
第 14 回	内容	障害のある子どもの保護者に対する理解と支援 保護者の思いについてグループディスカッションをする。	予習	障害児の親に関する記事を読む。
			復習	ディスカッションの内容をまとめる。
第 15 回	内容	障害児・者の意思決定支援	予習	障害者の権利条約　第 12 条を読む。
			復習	15 回の授業を振り返り、レポートにまとめる。
予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。				

課題へのフィードバック	レポートや製作物については、コメントを付して返却する。 発表やディスカッションについては、発表後に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：レポート・課題（　４０　%)、作品・発表（　３０　%)、授業態度【　積極的参加　】（　３０　%)
教科書	『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』前田泰弘編著　萌文書林
参考文献	授業内で随時紹介する。
注意事項	授業における協働的な学びを通じて、障がいのある子どもの保育・教育・福祉に関する知識と技術を身につけましょう。

科　目　名	子育て支援	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	せき　ゆいこ 関　維子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	地域における「子育て支援」の基幹施設としての保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）の機能と役割について理解し、保育者が行う子育て支援のあり方について検討する。併せて、ロールプレイや事例検討を通じて、相談支援における保護者との相互理解や職員間の連携・機関連携の方法について、具体的に理解することを目的とする。
到達目標	１．子育て支援に関する子ども及び保護者のニーズと社会資源について理解している。 ２．保育相談支援における保護者との相互理解に向けた基本姿勢を身につけている。 ３．実践事例を通して、保育士が行う子育て支援の内容と方法を具体的に理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　２・３・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 保育士が行う子育て支援とは	予習	シラバスを読む。
			復習	保育所保育指針の「子育て支援」を読む。
第２回	内容	子どもと保護者、家庭が抱える子育て支援のニーズ 保育士が行う子育て支援の展開	予習	居住地の子育て支援策について調べる。
			復習	保育士が行う子育て支援の特徴をまとめる。
第３回	内容	保育における相談支援の位置づけと基本理念	予習	居住地の子育て支援拠点について調べる。
			復習	保育士が行う相談支援の特徴をまとめる。
第４回	内容	保育士による相談支援の実際 保護者との相互理解と信頼関係の形成	予習	「ラポール」について調べる。
			復習	相談の環境構成を考え、図を作成する。
第５回	内容	相談支援における記録・評価・計画	予習	保育に関する計画の種類について調べる。
			復習	模擬事例に関する支援計画の作成
第６回	内容	保育における相談支援の事例①発達が気になる子ども	予習	模擬事例に関するジェノグラムを作成する。
			復習	模擬事例に関するエコマップを作成する。
第７回	内容	保育における相談支援の事例②養育環境が気になる子ども	予習	模擬事例に関するジェノグラムを作成する。
			復習	模擬事例に関するエコマップを作成する。
第８回	内容	保育における相談支援の事例③養育態度が気になる保護者	予習	模擬事例に関するジェノグラムを作成する。
			復習	模擬事例に関するエコマップを作成する。
第９回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防① 親プログラムのエッセンスを学ぶ。	予習	どのような親プログラムがあるか調べる。
			復習	親プログラムの目的についてまとめる。
第 10 回	内容	子育て支援を通じた児童虐待の予防② 親プログラムのエッセンスをロールプレイで体験する。	予習	親子それぞれの困難さについてまとめる。
			復習	ロールプレイの内容をまとめる。
第 11 回	内容	子育て支援における保育参加の模擬授業（部分実習）① グループ活動（指導案の作成、製作の準備）	予習	指導案を作成する。
			復習	指導案を作成する。
第 12 回	内容	子育て支援における保育参加の模擬授業（部分実習）② グループ発表①	予習	発表準備をする。
			復習	発表内容の見直しをする。
第 13 回	内容	子育て支援における保育参加の模擬授業（部分実習）③ グループ発表②	予習	発表準備をする。
			復習	グループ発表の振り返りをする。
第 14 回	内容	要保護・要支援児童等の家庭への支援と機関連携	予習	要保護と要支援の違いについてまとめる。
			復習	保育施設の「見守り」についてまとめる。
第 15 回	内容	保育専門職の価値と倫理	予習	保育に関係する倫理綱領を調べる。
			復習	倫理綱領と保育の理念についてまとめる。

予習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　　分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業の中で提出課題の解説及び講評をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：レポート・課題（４０％）、作品・発表（３０％）、授業態度【　積極的参加　】（３０％）
教科書	なし
参考文献	『子どもへのまなざし』（佐々木正美，福音館書店）
注意事項	どもと家庭の問題は、すぐには解決しないものや正解が分からないものもあります。粘り強く取り組む姿勢を期待しています。

科　目　名	子育て支援	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	今井（いまい）　康晴（やすはる）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面　・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	子育てを取り巻く社会的背景をふまえ、子育て支援を担う保育者として、その歴史や行政などについて理解する。また具体的事例を通して、保育相談支援における保育者の専門性を活かした子育て支援について認識を深める。保育における相談支援、援助技術などをロールプレイ等の演習を通して獲得することを目的とする。
到達目標	１．　子育てを取り巻く社会的背景、現状と課題について理解している ２．　子育て支援の歴史、行政について理解している ３．　保育相談支援における専門的知識・技術を獲得している
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3,5）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	子育て支援とは何か	予習	シラバスを読んでおく
			復習	子育て支援の基本的基盤についてまとめる
第２回	内容	子育て支援の歴史①－明治、大正期を中心に－	予習	明治、大正期について調べておく
			復習	時代背景をまとめる
第３回	内容	子育て支援の歴史②－戦後を中心に－	予習	戦後日本の状況について調べておく
			復習	戦後日本における子育ての在り方をまとめる
第４回	内容	子育て支援の歴史③－平成、令和を中心に－	予習	昨今の社会情勢について調べておく
			復習	現代の子育て状況についてまとめる
第５回	内容	子育て支援の基本姿勢	予習	保育所保育指針を読んでくる
			復習	子育て支援の基本姿勢についてまとめる
第６回	内容	子育て支援の基本的技術	予習	子育て支援の基本について調べておく
			復習	子育て支援の基本的なプロセスについてまとめる
第７回	内容	対話を用いた子育て支援	予習	対話したかについて調べておく
			復習	コミュニケーション方法についてまとめる
第８回	内容	文書を用いた子育て支援	予習	文語体について調べておく
			復習	手紙の書き方についてまとめる
第９回	内容	子育て支援とソーシャルワーク	予習	社会資源について調べておく
			復習	近隣にある子育て支援事業についてまとめておく
第 10 回	内容	保育機能を生かした子育て支援	予習	保育行事について調べておく
			復習	保育行事の在り方についてまとめておく
第 11 回	内容	保育相談事例①－発達相談―	予習	幼児の発達について調べておく
			復習	発達支援についてまとめておく
第 12 回	内容	保育相談事例②－不適切な養育・虐待―	予習	不適切な養育について調べておく
			復習	不適切な保育の抑止抑制についてまとめておく
第 13 回	内容	保育相談事例③－生活支援－	予習	生活保護などについて調べておく
			復習	生活支援への対応をまとめておく
第 14 回	内容	苦情・クレーム対応について	予習	昨今の保育・育児にかかるニュースを調べておく
			復習	苦情対応の基本姿勢についてまとめる
第 15 回	内容	子育て支援の今後の展望	予習	これまでの授業内容について復習する
			復習	今後の子育て支援について展望する

予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	講義の始めに予習内容について意見交換する。講義毎の復習レポート（レスポンスシート）を添削する
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（80%）、レポート・課題（20%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名）なし
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 保育所保育指針（2017 年改訂）
注意事項	出欠席については大学の規定に則りますので、欠席の無いようにしてください

科　目　名	保育指導方法Ⅰ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、身につけていく。
到達目標	１．保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 ２．子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 ３．遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている
学位授与方針	幼児教育学科（ 1.2 ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	保育指導方法とは	予習	保育のねらいを調べる
			復習	保育指導方法についてまとめる
第３回	内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針	予習	幼稚園教育要領・保育所保育指針を確認する
			復習	幼稚園教育要領･保育所保育指針のポイントをまとめる
第４回	内容	生活する力を育む保育方法	予習	保育所での子どもの生活を調べる
			復習	生活する力とは何かを考える
第５回	内容	保育の環境構成について（事例検討・発表）	予習	保育の環境を調べる
			復習	子どもに即した保育の環境をまとめる
第６回	内容	子どもと集団指導（グループワーク・発表）	予習	集団について調べる
			復習	個と集団指導の関連性をまとめる
第７回	内容	子どもの発達と遊び	予習	子どもの遊びを調べる
			復習	幼稚園や保育園での子どもの遊びをまとめる
第８回	内容	5 歳児の保育の実践①教材研究（グループワーク）	予習	教材研究の留意点を調べる
			復習	教材研究を行う
第９回	内容	5 歳児の保育の実践②作業（グループワーク）	予習	グループ活動の意義を考える
			復習	グループワークでの意見をまとめる
第 10 回	内容	5 歳児の保育の実践③模擬保育（発表）	予習	模擬保育を行うための準備をする
			復習	実践の振り返りをまとめる
第 11 回	内容	5 歳児の保育の実践④まとめ	予習	今まで学んできたことを振り返る
			復習	まとめ課題を仕上げる
第 12 回	内容	4 歳児の保育の実践①保育活動（グループワーク）	予習	4 歳児の発達と遊びを調べる
			復習	保育活動の進行（計画）を仕上げる
第 13 回	内容	4 歳児の保育の実践②模擬保育・まとめ	予習	模擬保育を行うための準備をする
			復習	実践の振り返りをまとめる
第 14 回	内容	3 歳児の保育の実践①保育活動（グループワーク）	予習	3 歳児の発達と遊びを調べる
			復習	保育活動の進行（計画）を仕上げる
第 15 回	内容	3 歳児の保育の実践②模擬保育・まとめ	予習	模擬保育を行うための準備をする
			復習	実践の振り返りをまとめる

予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	発表後、講評を行う。課題返却後、説明をする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的な取り組み】(30%)
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
参考文献	『子どもの育ちを支え安全を守る幼稚園・保育所・施設実習』茗井編著他　大学図書出版
注意事項	「保育指導方法Ⅰ」「保育指導方法Ⅱ」の授業は、実習での実践に向け継続した内容であることに留意し、履修すること

科　目　名	保育指導方法Ⅰ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	こやま　れいこ 小山　玲子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12202	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	園生活において子どもが自発的・意欲的に関われるような環境の構成、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすることの意義を考える。授業を通して保育の場で適切な保育実践を展開していくための指導方法、関わり方を身につけていく。３～５歳児クラスの保育に役立つ実践を計画し、授業内で模擬保育を実施し振り返りを行う。
到 達 目 標	１．　保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 ２．　子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 ３．　遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（２・４・５）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	オリエンテーション	予習	シラバス・教科書Ｐ２～５の通読
				復習	保育のねらい・保育者の役割をまとめる
	第２回	内容	保育指導方法とは 保育の環境構成について(事例検討・発表)	予習	保育の環境について調べる
				復習	配布プリントの課題を行う
	第３回	内容	子どもの発達と遊び	予習	年齢にあった子どもの遊びを調べる
				復習	幼稚園や保育所での子どもの遊びをまとめる
	第４回	内容	保育計画の立案① （３～５歳児クラスの部分実習指導案の原案を考える）	予習	幼稚園・保育所の部分実習案の原案を考える
				復習	部分実習指導案(原案)を作成する
	第５回	内容	保育計画の立案② （３～５歳児クラスの部分実習指導案の原案を作成する）	予習	部分実習指導案(原案)を作成する
				復習	部分実習指導案を完成する(次回の授業提出)
	第６回	内容	子育て支援(親子を対象としたプログラムの検討))について学ぶ　５歳児の保育の実践①教材研究(グループワーク)	予習	子育て支援・５歳児の発達と遊びを調べる
				復習	グループワークでの意見をまとめる
	第７回	内容	５歳児の保育の実践②保育活動準備(グループワーク)	予習	５歳児の発達と遊びを調べる
				復習	保育活動の進行(計画)を仕上げる
	第８回	内容	５歳児の保育の実践③模擬保育(発表)・まとめ	予習	模擬授業の準備を行う
				復習	実践の振り返りをまとめる
	第９回	内容	４歳児の保育の実践①保育活動準備(グループワーク)	予習	４歳児の発達と遊びを調べる
				復習	保育活動の進行(計画)を仕上げる
	第 10 回	内容	４歳児の保育の実践②模擬保育(発表)	予習	模擬授業の準備を行う
				復習	実践の振り返りをまとめる
	第 11 回	内容	４歳児の保育の実践③模擬保育(発表)・まとめ	予習	模擬授業の準備を行う
				復習	実践の振り返りをまとめる
	第 12 回	内容	子どもの主体的な遊びを考える(木製遊具に触れる)	予習	積木等、木製遊具の種類と遊びを調べる
				復習	子どもの主体的な遊びについて考察する
	第 13 回	内容	３歳児の保育の実践①保育活動準備(グループワーク)	予習	３歳児の発達と遊びを調べる
				復習	保育活動の進行(計画)を仕上げる
	第 14 回	内容	３歳児の保育の実践②模擬保育(発表)	予習	模擬授業の準備を行う
				復習	実践の振り返りをまとめる
	第 15 回	内容	３歳児の保育の実践③模擬保育(発表)・まとめ	予習	模擬授業の準備を行う
				復習	実践の振り返りをまとめる　総括
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	課題は確認後、授業内で補足説明や解説講義を行う。発表に関しては講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　課題（30%）、実技・発表（40%）、授業態度【積極的参加】(30%)
教科書	『教育・保育実習実技ガイド』(東山明・名賀三希子、ひかりのくに)
参考文献	教育実習指導・保育実習指導の授業で使用した教科書
注意事項	幼稚園実習・保育園実習・就職後の実践に向けた授業内容のため、積極的に参加すること。 外部講師(おもちゃアドバイザー・子育て支援…親子を対象としたプログラム)のゲスト演習を行う。(予定)

科　目　名	保育指導方法Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	園生活のなかで、子どもの個と集団が共に育ちあうような保育を行っていくことが大切である。育つことが期待される心情、意欲、態度などが保育のねらいであり、それを達成するための保育の方法を学ぶ。授業を通して乳幼児の生活を支え、子どもの発達を保障する保育を展開できる保育者をめざすための指導方法について考え、身につけていく。
到達目標	1．子どもを捉える視点を身につけ、個と集団が活かされる保育方法を理解している。 2. 遊びを通して子どもの発達が保障されるような実践力・保育指導力を身につけている 3. 保育者としての基本的な姿勢や技能を身につけている。 4.子どもへの援助の仕方を身につけ、それを表現できる。
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	講義内容を読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	子どもを捉える視点	予習	子どもを捉える視点を考える
			復習	子どもを捉える視点をまとめる
第３回	内容	幼稚園の一日から子どもを捉える視点	予習	幼稚園で使われる保育用語を調べる①
			復習	課題に沿って保育用語を説明できるようにする
第４回	内容	子どもを捉える視点と表現方法(幼稚園)(グループワーク)	予習	幼稚園で使われる保育用語を調べる②
			復習	課題に沿って保育用語を説明できるようにする
第５回	内容	保育園の一日から子どもを捉える視点	予習	保育所で使われる保育用語を調べる①
			復習	課題に沿って保育用語を説明できるようにする
第６回	内容	子どもを捉える視点と表現方法(保育園)(グループワーク)	予習	保育所で使われる保育用語を調べる②
			復習	課題に沿って保育用語が説明できるようにする
第７回	内容	子どもと保育者との関わりから捉える保育方法（グループワーク）	予習	子どもを取り巻く人間関係を調べる
			復習	課題を仕上げる
第８回	内容	保育の計画について	予習	プリントを行う
			復習	保育の計画と PDCA サイクルをまとめる
第９回	内容	保育の計画と実践①指導案の書き方	予習	課題プリントを読む
			復習	指導案の書き方を理解する
第 10 回	内容	保育の計画と実践②部分実習指導計画案	予習	教材研究をする
			復習	指導案作成し、仕上げる
第 11 回	内容	保育の計画と実践③模擬保育（グループワーク・発表）	予習	模擬保育の準備・イメージをする
			復習	模擬保育の評価をする
第 12 回	内容	乳児の保育の実践①教材研究	予習	教材研究をする
			復習	教材研究をする
第 13 回	内容	乳児の保育の実践②指導案作成	予習	指導案の書き方について確認する
			復習	指導案を作成し、仕上げる
第 14 回	内容	乳児の保育の実践③模擬保育（グループワーク・発表）	予習	模擬保育の準備・イメージをする
			復習	模擬保育の評価をする
第 15 回	内容	保育の計画と実践、評価（グループワーク）	予習	PDCA サイクルを確認する
			復習	保育方法を総括する

予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	発表後、講評を行う。課題作成後、解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　課題（30%）、作品・発表（20%）、実技（20%）、授業態度【積極的な課題への取り組み】(30%)
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
参考文献	『子どもの育ちを支え安全を守る幼稚園・保育所・施設実習』茗井編著他　大学図書出版『書名』(著者名、出版社名)
注意事項	「保育指導方法Ⅰ」「保育指導方法Ⅱ」の授業は、実習での実践に向けた継続した内容であることに留意し、履修すること

科目名	保育指導方法Ⅱ	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	きたざわ　あきこ 北澤　明子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	保育指導方法Ⅰを踏まえ、保育の場での適切な保育実践を展開していくための指導方法について学んでいく。保育環境がさまざまに異なる保育実践を視野に入れ、具体的な実践方法について学ぶ。実践の場で実際に行い、自らの実践を振り返るプロセスを体験することを目指していく。
到達目標	１．　保育の原則と保育方法について理解し実践にいかすことができる。 ２．　児童文化財について理解を深めている。 ３．　ＰＤＣＡサイクルを理解し、模擬保育などの実践において自己の省察をすることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・２・３・４・５　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション―授業の計画と内容、準備について―	予習	シラバスを読んでおく
			復習	今後の授業に必要なものを用意する
第２回	内容	保育の原則と保育方法について	予習	現在どのような保育方法があるのかを調べてくる
			復習	配布資料を読み返す
第３回	内容	環境を通した保育、環境を生かした保育とは	予習	保育の多様な環境について調べてくる
			復習	環境を通した保育、生かした保育についてまとめる
第４回	内容	環境を生かした保育の実際－実際の保育の場の見学―	予習	見学の際に見たい視点をまとめてくる
			復習	見学して感じたことをまとめる
第５回	内容	発達に即した保育について学ぶ―事例・エピソード検討―	予習	子どもの発達について復習してくる
			復習	配布資料を読み返す
第６回	内容	多様な保育思想、保育方法について学ぶ① ―フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー―	予習	授業内で出した課題について調べてくる
			復習	配布資料を読み返し、授業の振り返りをまとめる
第７回	内容	多様な保育思想、保育方法について学ぶ② ―レッジョエミリア―	予習	授業内で出した課題について調べてくる
			復習	多様な保育思想、保育方法を学び自分の感じたことをまとめる
第８回	内容	児童文化財についての理解を深める① ―おすすめ絵本を読み合う―	予習	自分のおすすめの絵本を選んでくる
			復習	自分の選んだ絵本の概要についてまとめる
第９回	内容	児童文化財についての理解を深める② ―ブックトークをしよう―	予習	自分の選んだ絵本が保育の場でどのように活用できるかを考えてくる
			復習	他の受講者が選んだ絵本の概要を１冊まとめる
第 10 回	内容	児童文化財についての理解を深める③ ―全員でおすすめブックリストを作ろう―	予習	絵本についての本を１冊読んでくる
			復習	ブックリストを読み感想を書く
第 11 回	内容	児童文化財についての理解を深める④ ―手作り児童文化財を作ろう―	予習	作りたい手作り児童文化財を選び材料を用意する
			復習	児童文化財について歴史などを調べてくる
第 12 回	内容	児童文化財についての理解を深める⑤ ―手作り児童文化財を作ろう―	予習	児童文化財について歴史などを調べてくる
			復習	作ったもので実践する練習を行う
第 13 回	内容	季節と園行事 ―園での季節ごとの行事について―	予習	保育の場での季節ごとの行事について調べる
			復習	配布資料等を読み返し行事についてまとめる
第 14 回	内容	手作り児童文化財を利用した保育の実際 ―模擬保育または実際の保育の場での実践―	予習	手作り児童文化財での実践の練習を行う
			復習	実践の振り返りを行う
第 15 回	内容	発表と授業のまとめ	予習	14 回の授業の資料を読み返し振り返る
			復習	他の受講者の発表もふくめ振り返りまとめる

予習に要する学習時間：概ね　１５　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30　　分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポートを返却し、評価についてのフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（40　%）、作品・発表（30　　%）、授業態度【積極的参加】(30%)
教科書	なし　適宜資料配布
参考文献	『保育方法の基礎』(柴崎正行他、わかば社)『保育実技　児童文化財の魅力とその活用・展開』(久富陽子編著、萌文書林)
注意事項	必要な資料は適宜配布する。配布した資料はファイリングして授業の際に持参すること。 見学や実践は園の都合や感染症の状況によるため、内容が前後する場合や中止の場合がある

科　目　名	健康（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	きたほら　せいいち 北洞　誠一
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12204	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	健康の授業で勉強した幼稚園教育要領と保育所保育指針の理解を基礎として、教科書やいろいろな資料、ビデオを参照しながら、健康の具体的な内容を考察し、現場での指導計画を作成し、現場での対処法を勉強する。
到達目標	１．　現場で求められる健康のねらいと内容を理解し、実践の考え方と方法を身につける ２．　子どもの健康だけではなく、自分の健康について関心を持ち、自身を健康に保つ方法を理解する ３．　健康のメカニズムを理解する
学位授与方針	幼児教育学科（　4,5,6　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション。保育ビデオ（アリサ）鑑賞Ⅰ。	予習	シラバスを見て全体の流れを把握する。
			復習	さくらんぼ保育について調べる
第２回	内容	保育ビデオ（アリサ）鑑賞Ⅱ。	予習	さくらんぼ保育の保育環境について調べる
			復習	ビデオを見たレポートを提出する
第３回	内容	運動遊び動画鑑賞・運動遊びの指導計画解説	予習	教科書の指導計画のところを読んでくる
			復習	授業で扱った指導計画の構造をまとめる
第４回	内容	食育について	予習	教科書の食育のところを読む
			復習	授業内容をまとめる
第５回	内容	子どものからだと心実感調査資料の解説	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む
			復習	授業を受けてレポートを提出する
第６回	内容	子どものからだと心を考えるⅠ：すぐ疲れたと言うの中身	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む
			復習	授業を受けてレポートを提出する
第７回	内容	子どものからだと心を考えるⅡ：前頭葉の４つのタイプ	予習	Google クラスルームにアップされた資料を読む
			復習	授業を受けてレポートを提出する
第８回	内容	保育ビデオ（さくらんぼ坊や）鑑賞	予習	前半７回の授業を復習する
			復習	動画の感想のレポートを提出する
第９回	内容	食育について	予習	教科書の食育の部分を読む
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 10 回	内容	アレルギーについて	予習	教科書のアレルギーの部分を読む
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 11 回	内容	安全指導について	予習	教科書の安全指導に関する部分を読む
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 12 回	内容	生活習慣と免疫について	予習	免疫について調べる
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 13 回	内容	食と免疫について	予習	食と免疫力について調べる
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 14 回	内容	コロナ禍の保育について考える	予習	コロナ禍の保育について調べる
			復習	授業内容をノートにまとめる
第 15 回	内容	映画（ベイビーズ）鑑賞	予習	世界の子育てについて調べる
			復習	映画の感想レポートを提出する

予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google クラスルームの課題レポート提出に対してコメントをフィードバックする
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　30　%）、レポート・課題（　60　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極性】(10%)
教科書	「乳幼児の健康」(茗井香保里・宮下恭子・平山素子編、大学図書出版)
参考文献	「限界を超える子どもたち――脳・身体・障害への新たなアプローチ」 2018、太郎次郎社エディタス
注意事項	自主的にインターネット等を活用して調べること。レポートは Google クラスルームのドキュメントで提出すること。

科　目　名	人間関係（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12205	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践とを関連づけて理解を深める。具体的な保育の構想と実践方法を身につける。
到達目標	1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解している。 2. 保育所保育指針に示された領域「人間関係」の１歳以上３歳未満児に関わるねらい及び内容を理解している。 3. 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.2.3.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
第１回	内容	領域「人間関係」①ねらい、内容について	予習	講義内容を読んでおく
			復習	領域「人間関係」のねらい・内容を確認しておく
第２回	内容	領域「人間関係」②全体像を理解する（ICT 活用）	予習	１歳以上３歳未満児の領域「人間関係」を読む
			復習	小テストの内容（範囲）を理解する
第３回	内容	自立心を育む援助（ICT 活用）	予習	子どもの人間関係の発達を確認する
			復習	事例を通して援助方法を考える
第４回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）①仲間関係の形成（ICT 活用）	予習	子どもの発達を調べておく
			復習	事例を理解し、まとめる
第５回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）②自己抑制	予習	３・４歳児の発達を調べておく
			復習	事例①を理解し、まとめる
第６回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）③自己主張、思いやり	予習	５・６歳児の発達を調べておく
			復習	事例②③を理解し、まとめる
第７回	内容	遊びのなかで育つ人間関係（事例検討）④いざこざ場面における援助（幼児）（ICT 活用）	予習	事例プリントを読む
			復習	保育者の子どもへの関わりを確認する
第８回	内容	ルールのある遊びと援助（グループワーク）	予習	子どもの遊びを調べておく
			復習	ルールの形成と遊びについてまとめる
第９回	内容	個と集団の相即的発展①活動内容・指導案作成	予習	PDCA サイクルを理解する
			復習	教材研究をする①
第 10 回	内容	個と集団の相即的発展②指導案作成	予習	教材研究をする②
			復習	指導案を作成する
第 11 回	内容	個と集団の相即的発展③模擬保育（グループワーク・発表）	予習	指導案を仕上げる
			復習	模擬保育の反省、振り返りをする
第 12 回	内容	個と集団の相即的発展④振り返り（ディスカッション）	予習	PDCA サイクルを再確認する
			復習	グループの意見をまとめる
第 13 回	内容	個と集団の相即的発展⑤改善・まとめ	予習	他の視点より考える
			復習	個と集団の相即的発展を理解し、まとめる
第 14 回	内容	幼保・小の連携活動と小学校以降の生活や学習で活かされる力	予習	小学校学習指導要領を読む
			復習	幼保小の連携をまとめる
第 15 回	内容	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ（ICT 活用）	予習	「人間関係」の課題を考える
			復習	「人間関係」をめぐる問題をまとめる

予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題に対して、添削し解説を行う。また、発表に対しては、講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート（30%）、課題（30%）、発表（20%）、授業態度【積極的な取り組み】（20%）
教科書	『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省） 授業中に適宜資料を配布する
注意事項	

科目名	人間関係（指導法）	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	今井　由美（いまい　ゆみ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12205	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容を学び、乳幼児期における人間関係を育てていくなかでの指導や援助のあり方を考えていく。事例検討やグループワークを通して、具体的な保育の構想や方法を身につけることにより保育実践力の向上を目指す。
到達目標	１．　領域「人間関係」を理解している ２．　乳幼児期の人間関係の育ちのための役割や援助方法を身につけている ３．　領域「人間関係」に関わる指導場面を想定した保育を構想する力を身につけている
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション　/　人間関係を指導するとは	予習	人間関係を指導することのイメージをしておく
			復習	人間関係を指導することについて理解する
第２回	内容	乳児保育に関わるねらい及び内容	予習	ねらい及び内容（乳児）を読んでおく
			復習	乳児期の人間関係を理解する
第３回	内容	領域「人間関係」のねらい及び内容（1,2 歳児）	予習	領域「人間関係」(1,2 歳児）を読んでおく
			復習	2 歳児までの人間関係を整理する
第４回	内容	領域「人間関係」のねらい及び（3 歳児以上）	予習	領域「人間関係」(3 歳児以上）を読んでおく
			復習	領域「人間関係」を理解する
第５回	内容	遊びの中で育つ人間関係① 仲間関係	予習	乳幼児の仲間関係をイメージしておく
			復習	人間関係の広がり方を整理する
第６回	内容	遊びの中で育つ人間関係② 自己主張・思いやり（グループワーク）	予習	乳幼児の自己主張場面をイメージする
			復習	ディスカッション内容を整理する
第７回	内容	遊びの中で育つ人間関係③ 自己抑制・葛藤	予習	自己抑制場面での援助方法を調べておく
			復習	指導や援助のあり方を整理する
第８回	内容	遊びの中で育つ人間関係④ ルール・平等	予習	保育における平等を考えておく
			復習	遊びの中でのルールや平等を整理する
第９回	内容	遊びの中で育つ人間関係⑤ いざこざ	予習	いざこざが起きた時の援助方法を調べる
			復習	人間関係を育むための援助方法を理解する
第 10 回	内容	指導計画の意義・検討・実践	予習	事前に配布する指導計画例を読んでおく
			復習	指導計画の意義及び作成方法を整理する
第 11 回	内容	保育者としての役割① 保護者との関わり（グループワーク）	予習	保護者対応をイメージしておく
			復習	ディスカッション内容を整理する
第 12 回	内容	保育者としての役割② 保育者同士の関わり	予習	保育者同士の関わりをイメージしておく
			復習	保育者同士で構築される関係性を理解する
第 13 回	内容	保育者としての役割③ 気になる子との関わり	予習	どんな子が気になる子なのか考えておく
			復習	気になる子への考え方や対応を理解する
第 14 回	内容	領域「人間関係」からみた小学校・地域との連携	予習	小学校や地域との関わり方を調べておく
			復習	連携の必要性や重要性を理解する
第 15 回	内容	領域「人間関係」における今日的課題	予習	これまでを振返り自身の学びを確認しておく
			復習	領域「人間関係」の理解を深める

予習に要する学習時間：概ね　20　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題・小テストは、添削して返却し、解説を行う。 グループワークは、発表後に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　60　%)、レポート・課題（　　%)、作品・発表（　　%)、実技（　　%)、授業態度【積極的参加】(　40　%)
教科書	なし
参考文献	『保育所保育指針』(厚生労働省)　　『幼稚園教育要領』(文部科学省) 『人間関係』(高杉自子・岸井慶子、東京書籍)　　『事例で学ぶ保育内容　領域人間関係』(無藤隆・岩立京子、萌文書林)
注意事項	

科　目　名	環境（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	なかむら　よういち 中村　陽一
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12206	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	「環境」で学んだ、幼児と環境とかかわりに関する学びと、幼稚園教育実習（前期）の体験の上に、実例に基づき、領域「環境」の「目的」「ねらい」「内容」の理解を深める。さらに、領域「環境」にかかわる具体的な指導場面を想定した指導方法を身につける。課題に応じて、グループを作り討論や発表を行う。
到達目標	1.「幼稚園教育要領」に示された「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助について、具体的指導法を示すことができる。 2.「環境を通した保育」の意義と、保育者の援助について、具体例を挙げて自分の考えを述べることができる。 3. 領域「環境」に関わる幼児の自然体験や社会体験と、小学校教育の生活科への連続性について理解している。 4.子どもの自然体験を深めるための、子どもの発達を見据えた長期的計画の重要性を理解しており、大まかな計画を示すことが出来る。
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4.5）地域保育学科（　）文化表現学科（　）

授業計画

第１回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり。「環境」の復習。	予習	幼稚園教育要領 保育内容「環境」を読む。
			復習	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認。
第２回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室）。グループ討論と発表。	予習	教科書 9ｐの演習課題 1
			復習	グループ討論のまとめ。
第３回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（園舎）。グループ討論と発表。	予習	教科書 25ｐの演習課題 2
			復習	グループ討論のまとめ。
第４回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。グループ討論と発表。	予習	教科書 41ｐの演習課題 1
			復習	グループ討論のまとめ。
第５回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境グループ討論と発表。	予習	教科書 59ｐの演習課題 1
			復習	グルーオプ討論のまとめ。
第６回	内容	子どもの生活と自然環境②－季節感と取り入れた保育グループ討論と発表。	予習	教科書 59ｐの演習課題 3
			復習	グループ討論のまとめ。
第７回	内容	子どもの生活と自然環境③－飼育動物の特徴と配慮グループ討論と発表。	予習	実習で体験した動物飼育についてまとめる。
			復習	グループ討論のまとめ。
第８回	内容	子どもの生活と自然環境④－栽培植物の特徴と配慮グループ討論と発表。	予習	教科書 41ｐの演習課題 2
			復習	グループ討論のまとめ。
第９回	内容	子どもの生活と社会①－施設との関わりグループ討論と発表。	予習	教科書 75ｐの演習課題 3
			復習	グループ討論のまとめ。
第 10 回	内容	子どもの生活と社会環境②－伝統的な行事との関わりグループ討論と発表。	予習	教科書 75ｐの演習課題 2
			復習	グループ討論のまとめ。
第 11 回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数グループ討論と発表。	予習	実習で体験した子どもの数体験について。
			復習	グループ討論のまとめ。
第 12 回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と文字グループ討論と発表。	予習	教科書 91ｐの演習課題 1
			復習	グループ討論のまとめ。
第 13 回	内容	数量や文字に関する取り扱い②－小学校教育とのつながりグループ討論と発表。	予習	教科書 75ｐの演習課題 3
			復習	グループ討論のまとめ。
第 14 回	内容	小学校教育への連続性－「環境」と「生活科」「総合学習」グループ討論と発表。	予習	教科書 109ｐの演習課題 1
			復習	グループ討論のまとめ。
第 15 回	内容	授業の振り返りとまとめ。グループ討論と発表	予習	教科書 109ｐの演習課題 2
			復習	グループ討論のまとめ。

予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題に対するフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（80%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度（20%）
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社） 『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・目良秋子編、建帛社）
参考文献	なし
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。

科　目　名	環境（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	きたざわ　あきこ 北澤　明子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12206	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	本授業では、現代の子どもを取り巻く環境や子どもと環境とのかかわりなどの専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めていく。また、領域「環境」のねらい、内容について具体的な保育場面での事例等をみながら、実際の展開について学ぶとともに、グループワークや討議などを行いながら、実際の保育の環境とかかわりその意義について理解を深めていく。
到達目標	１．領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 ２．領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と小学校以降の教科等とのつながりを理解している。 ３．幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力が身についている。
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・３・４　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	保育における「環境」の捉え方について	予習	幼稚園教育要領の該当箇所を読んでくる
			復習	保育における環境の捉え方についてまとめる
第２回	内容	環境を通した保育について	予習	第１回目の資料と自分でまとめたものを読み返してくる
			復習	環境通した保育についてまとめる
第３回	内容	子どもの発達と「環境」 －乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際－	予習	子どもの発達についてのおおまかにまとめてくる
			復習	発達と環境の関係について読み返す
第４回	内容	領域「環境」のねらいと内容	予習	領域「環境」のねらいと内容について読んでくる
			復習	ねらいと内容及び評価について配布資料を読み返す
第５回	内容	資質・能力及び１０の姿／評価について	予習	幼稚園教育要領で該当ページを読んでくる
			復習	配布資料を読み返す
第６回	内容	領域「環境」のねらい、内容の実際の展開① ―自然とのかかわり―	予習	子どもと自然とのかかわりについて事例を集めてくる
			復習	配布資料を読み返し、子どもと自然とのかかわりについて大切な点をまとめる
第７回	内容	領域「環境」のねらい、内容の実際の展開② ―身近なものとのかかわり―	予習	保育の場にある物的環境を箇条書きにしてくる
			復習	配布資料を読み返し、身近なものとのかかわり
第８回	内容	領域「環境」のねらい、内容の実際の展開③ ―標識・文字等とのかかわり―	予習	幼稚園教育要領の該当箇所を読んでくる
			復習	配布資料を読み返し、振り返りを記入する
第９回	内容	領域「環境」のねらい、内容の実際の展開④ ―数量・図形等とのかかわり―	予習	幼稚園教育要領の該当箇所を読んでくる
			復習	配布資料を読み返し、振り返りを記入する
第 10 回	内容	領域「環境」のねらい、内容の実際の展開⑤ ―様々な文化や伝統とのかかわり―	予習	幼稚園教育要領の該当箇所を読んでくる
			復習	配布資料を読み返し、振り返りを記入する
第 11 回	内容	身近な素材を用いた保育の実際 ―製作を通してものの仕組みについて知る―	予習	身近な自然物として葉っぱを収集し、収集した葉っぱの特徴を観察してくる
			復習	実践した遊びの一つを選び指導案を立てる
第 12 回	内容	身近なもの（玩具）を用いた保育の実際（グループワーク）―おもちゃが引き出す子どもの遊び―	予習	自分のおすすめのおもちゃについてまとめてくる
			復習	模擬保育のなかで遊んだおもちゃについて特徴をまとめる
第 13 回	内容	身近な素材や自然物、ものを用いた保育の振り返り ―実践の省察、改善―	予習	自然物や玩具での実践の省察を記入する
			復習	評価についての配布資料を読み返す
第 14 回	内容	環境に関わる現代的課題①　問題提起	予習	環境に関わる現代的課題にはどのようなものがあるか考え箇条書きにしてくる
			復習	授業で見たＤＶＤ等の教材の振り返りを記入する
第 15 回	内容	環境に関わる現代的課題②　討論、グループワーク	予習	第 14 回の内容から、討論に向け現代的課題についてまとめてくる
			復習	まとめの勉強を行う

予習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。

課題へのフィードバック	レポートを返却し、採点内容についてフィードバックする
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（　６０　%)、作品・発表（１５　%)、授業態度【　積極的参加　】（　２０　%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 『実践例から学びを深める　保育内容・領域　環境指導法』（小櫃智子　編著　北澤明子他、わかば社）

参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『基礎からまなべる保育内容（環境）ワークブック』（田中卓也他編著、あいり出版）
注意事項	・必要な資料は、適宜配布する。いつでも見返せるようにファイリングして毎回持参すること。

科　目　名	言葉（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	伊澤（いざわ）　永修（えいしゅう）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12207	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	領域「言葉」のねらいと内容についての理解を深め、言葉の発達と特徴を事例や映像を通して理解する。その上で、乳幼児の発達過程に合わせた保育を構築できるように児童文化財などの保育教材などへの理解を深め保育への取り入れ方などを理解するために、演じ合いやグループディスカッションを行う。
到達目標	１．　領域「言葉」のねらい及び内容を理解している ２．　児童文化財などの保育教材を理解し、保育内容に活用することができる ３．　子どものことばの育ちを支える指導計画が作成できる
学位授与方針	幼児教育学科（　１、２、５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	領域「言葉」と他領域との関係について	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第２回	内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「言葉」との関連について	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	配付資料をもとに解説された内容を振り返り子どものことばの発達に対する理解を深める
第３回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（1）	予習	これまでの学びを通して保育の基本についてまとめておく
			復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめをおこない整理をする
第４回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（2）	予習	前回の授業内容を確認する
			復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめをおこない整理をする
第５回	内容	言葉とコミュニケーションの発達（3）	予習	前回までの授業内容を確認する
			復習	言葉とコミュニケーションの発達のまとめをおこない整理をする
第６回	内容	カリキュラムマネジメントと教材研究について	予習	要領や指針の該当部分を読み込んでおく
			復習	カリキュラムマネジメントと教材研究の方法についてまとめる
第７回	内容	事例研究（子どもの気持ちを読み取る） 発表及グループディスカッション	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	グループディスカッションを通して得られた子どもの気持ちの読み取り方についてまとめる
第８回	内容	児童文化財・絵本についての理解を深める グループ内発表とグループディスカッショ	予習	絵本について調べておく
			復習	絵本の特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
第９回	内容	映像を視聴して保育現場での子どもの言葉の成長・発達を学ぶ	予習	子どもの言葉の発達過程について確認しておく
			復習	子どもの言葉の発達過程に合わせた保育内容についてまとめる
第 10 回	内容	お話とお話の魅力	予習	お話やお話の魅力について考えておく
			復習	お話の子どもたちへの影響についてまとめる
第 11 回	内容	言葉遊びと言葉遊びの魅力	予習	子どもと楽しめる言葉遊びを考えておく
			復習	言葉遊びの特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
第 12 回	内容	素話と素話の演じ方	予習	素話について調べておく
			復習	素話を保育にどのように取り入れるかについて自分なりにまとめる
第 13 回	内容	児童文化財・パネルシアターの理解と絵人形の作り方	予習	パネルシアターについて調べておく
			復習	パネルシアターの特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
第 14 回	内容	児童文化財・紙芝居の理解と手作り紙芝居の作り方	予習	紙芝居について調べておく
			復習	紙芝居の特徴や保育への活かし方を自分なりにまとめる
第 15 回	内容	子どものことばの育ち（話し言葉の世界からから書き言葉の世界へ）の理解と総まとめ	予習	当該授業の振り返りをしておく
			復習	当該授業で学んだ事をどのように保育に活かしていくかについての総まとめを行う

予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	提出物を評価し、返却時に解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（７０%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【参加度合】（３０%）
教科書	『事例で学ぶ保育内容』　無藤隆監修　萌文書林　※１年次に購入済
参考文献	『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
注意事項	

科　目　名	言葉（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	はしもと　ちづる 橋本　千鶴
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12207	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	乳幼児の言葉の発達過程や、「幼稚園教育要領」などに記されている領域「言葉」のねらいや内容、言葉の育ちにかかわる問題等について理解し、将来の保育者として、適切なかかわり、援助、環境構成ができるようにする。また、言葉を豊かに育てる児童文化財について実践的に学び、保育者として必要な知識や技能の習得を図る。
到達目標	１．乳幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行われる言葉の指導の内容的、方法的特質を理解している。 ２．「幼稚園教育要領」などに記されている領域「言葉」のねらいや内容、保育実践での展開方法を理解している。 ３．乳幼児期の言葉の発達や、言葉の育ちにかかわる諸問題について説明できる。 ４．言葉を育てる児童文化財について積極的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（ 2，3，5 ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション「言葉（指導法）」について・素話	予習	シラバスを読んで、授業内容を把握しておく。
			復習	自分が発表する素話を決めて、発表に向けて練習を進める。
第２回	内容	子どもの言葉の発達①（新生児）（グループディスカッション）	予習	身近にいる乳幼児の言葉に耳を傾け、記録する習慣をつける。
			復習	新生児のコミュニケーション能力について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。
第３回	内容	子どもの言葉の発達①（0～1 歳期）（グループディスカッション）	予習	身近にいる乳幼児の言葉に耳を傾け、記録する習慣をつける。
			復習	0～1 歳期の言葉の発達について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。
第４回	内容	子どもの言葉の発達②（2～5 歳期）（グループディスカッション）	予習	「幼稚園教育要領解説」等の領域「言葉」を読んで、重要な箇所に線を引いておく。
			復習	2～5 歳期の言葉の発達について、参考文献、プリント等を読み返し、理解を深める。
第５回	内容	「幼稚園教育要領」等の領域「言葉」のねらいや内容について・文字との出会い（ペアワーク、ロールプレイ）	予習	「幼稚園教育要領解説」等の領域「言葉」を読mい進める。
			復習	「幼稚園教育要領解説」等の領域「言葉」を読み深め、分かりやすくノートにまとめておく。
第６回	内容	模擬保育①　素話の発表（グループワーク、発表、相互評価）	予習	素話を覚えて、3 分以内で発表できるように準備しておく。
			復習	素話の発表を参考によりよい語り方を取り入れ、さらに素話の練習を継続しておく。
第７回	内容	絵本の歴史・昔話（グループワーク）	予習	絵本を数冊読んでおく。
			復習	自分が知らなかった昔話を読み進める。
第８回	内容	模擬保育②　絵本の読み聞かせ（グループワーク、発表、相互評価）	予習	絵本の読み聞かせの練習をしておく。
			復習	絵本の読み聞かせについて振り返り、課題や改善点を確かめておく。
第９回	内容	紙芝居の歴史・演じ方（グループワーク）	予習	紙芝居について調べ、演じ方のイメージをもって臨む。
			復習	授業で学んだことを参考に、紙芝居の演じ方の留意事項をまとめておく。
第 10 回	内容	模擬保育③　紙芝居の演じ方（グループワーク、発表、相互評価）	予習	紙芝居の演じ方の練習をしておく。
			復習	紙芝居の演じ方の模擬保育について振り返り、課題や改善点をノートにまとめておく。
第 11 回	内容	子どもと楽しむ言葉遊びの実践（指導案作成）	予習	子どもと楽しむ言葉遊びについて、どのような活動ができるか考えてノートにまとめておく。
			復習	子どもと楽しむ言葉遊びの指導案を作成する。
第 12 回	内容	模擬保育④　子どもと楽しむ言葉遊びの実践（グループワーク）	予習	指導案をもとに、言葉遊びの実践の練習をしておく。
			復習	子どもと楽しむ言葉遊びの模擬保育について振り返り、課題を確かめ、よりよい指導案に練り上げておく。
第 13 回	内容	模擬保育⑤　人形劇の演じ方（グループワーク、発表、相互評価）	予習	さまざまな人形劇について調べ、それぞれの特色をノートにまとめておく。
			復習	人形劇の演じ方について振り返り、その特色や留意点をノートにまとめておく。
第 14 回	内容	言葉の育ちにかかわる問題（グループディスカッション）	予習	言葉の育ちにかかわる問題にはどのようなものがあるか調べ、ノートにまとめておく。
			復習	本時で学んだことをもとに、さらに乳幼児の言葉に関心をもって聞くように心がけ、必要に応じて記録する習慣をつける。
第 15 回	内容	オノマトペ・授業全体のまとめ	予習	「幼稚園教育要領解説」等の領域「言葉」、配布資料などを読み返し、これまでの授業内容を復習しておく。
			復習	「幼稚園教育要領解説」等の領域「言葉」を読み深め、今後の実習で学びたい目標、ねらいの形でまとめる。

	予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。
課題へのフィードバック	各授業回で提出されたリアクションペーパー（実技の振り返りを含む）や指導案については、コメントをつけて評価し、次の授業回で講評、解説を行って返却する。実技については、授業内に講評したり、学生同士による相互評価をしたりし、自ら課題が確認できるようにする。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：　まとめのレポート（４０％）、毎授業回のレポート・課題（４０％）、授業態度【積極的参加・実技】（２０％）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） なし（授業時にプリントを配布する）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館）『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）
注意事項	保育者になる自覚をもちながら、積極的に講義、実技に取り組んでほしい。

科　目　名	造形表現（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	おぐち　すぐる 小口　偉
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12208	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	乳幼児期の造形的表現方法は、発達段階を踏まえ、適切な素材提供をすることが、活動に広がりと奥行きをもたらす。子どもの活動をもとにした活動体験をすることから、「素材、道具について」の造形的側面と、「乳幼児の表現活動について」の心身の発達における側面から、造形を通した表現について理解、関心を深める。
到達目標	1. 子どもたちの表現活動の意義を理解している。 2. 年齢やクラス編成ごとに変化する活動内容に応じた環境づくりができる。 3. 子どもたちと活動が楽しめる技術、視点、方法を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　2,3,7　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	素材体験１ 紙について 質感で遊ぶ	予習	参考書等の紙の活動に関することを読み込む
			復習	身近な紙の触り心地を確かめておく
第２回	内容	素材体験２ グループワーク 紙について２ 空間を使って遊ぶ	予習	遊ぶこととは何かノートに書き出し持参する。
			復習	体験を通して空間を使って遊ぶこととは何か自分なりに考え、まとめる。
第３回	内容	素材体験３ クレヨン、パスについて理解する	予習	参考書等のクレヨン、パスに関する項目を読み込む。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第４回	内容	素材体験４ グループワーク　粘土に触る	予習	参考書等の粘土に関する記述について読む。
			復習	体験内容をノートにまとめる。
第５回	内容	素材体験５ グループワーク　シート系素材を理解する	予習	参考書等のハサミに関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第６回	内容	道具体験１ 道具を理解する　ハサミについて	予習	参考書等のステープラーに関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第７回	内容	道具体験２ 道具を理解する　ステープラーについて	予習	参考書等の接着に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第８回	内容	応用１ 構成遊びについて１ 色画用紙を使った構成遊び制作を体験する	予習	構成遊びについて調べる。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第９回	内容	応用２ 構成遊びについて２ 与えられたきっかけから画面構成をする１	予習	構成遊びについて調べる。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 10 回	内容	応用３ 構成遊びについて３ 与えられたきっかけから画面構成をする２発表	予習	構成遊びについて調べ、まとめたノートを持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 11 回	内容	応用４ 様々な技法遊び デカルコマニー/スクラッチの制作体験をする	予習	技法遊びについて５つの種類とその方法を調べ、まとめたものを持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 12 回	内容	立体の扱いについて「紙立体」 合同制作と共同制作を体験する	予習	参考書の紙立体に関する記述について、ノートにまとめ持参する。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 13 回	内容	生活素材を使った制作体験をする	予習	造形素材として使用できる可能性のあるものを集めておく。
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 14 回	内容	工作体験をする「動きを遊ぶ紙工作」	予習	参考書の紙工作に関する記述について読み込み、ノートにまとめ持参する
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。
第 15 回	内容	振り返り　ドキュメンテーション作成をする	予習	ドキュメンテーションについて調べ、まとめたノートを持参する。(60 分)
			復習	体験内容を記録ノートにまとめる。

予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね４５分を目安とする。

課題へのフィードバック	各提出課題に対し採点をする。返却の際に保育現場においての実践方法や、注意点を伝える。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%)、レポート・課題（２０%)、作品・発表（４０%)、実技（　　%)、授業態度【積極的な取り組み】(４０%)
教科書	『遊んで育て！表現の力-保育で使える活動例と指導法-』(塩崎みづほ 長谷川恭子 小口偉、推敲舎)
注意事項	出来映えは重視しません。誠実に、積極的に取り組むこと。 ※ 作品制作に関わる道具、材料費は個人負担です。(1,200 円を徴収します)。

科　目　名	音楽・身体表現（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき　にとう 塩崎・二藤
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12209	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	保育内容の各領域を総合的にとらえ表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。体の動き、音・リズムを工夫し、豊かな感性を育み、自らのイメージを広げて表現する楽しさについて理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。また、ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。
到達目標	1.幼児の心情、認識、思考、動きなどを視野にいれた保育の構想の重要性を理解している。 2.指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができている。 3.模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 4.音楽・身体表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができている。 5. 領域「表現」及び音楽・身体表現の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができている。
学位授与方針	幼児教育学科（１・２・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	本授業の概要（合同） 音楽・身体表現のねらい、および内容について乳幼児期の発達を踏まえて理解する	予習	領域「表現」について教育要領等を読んでくる。テキストの指導篇ついて読む
			復習	模擬保育で行いたい内容について決めてくる 音楽表現の意義について自分の考えをまとめる
第２回	内容	【二藤①】幼児期の音楽表現におけるねらいについて考え、題材の概観・理解・実践を通して指導の姿をイメージする。	予習	教科書を読んで活動のねらいを理解しておく
			復習	扱った音楽遊びの内容を覚える
第３回	内容	【二藤②】３歳児の音楽表現の題材を選定し指導案を作成し、模擬保育の実践・振り返り・討論を行う。	予習	３歳児の音楽面の発達上の特徴をおさえ、題材の候補を挙げる
			復習	振り返りと改善点についてノートにまとめる
第４回	内容	【二藤③】４歳児の音楽表現の題材を選定し指導案を作成し、模擬保育の実践・振り返り・討論を行う。	予習	４歳児の音楽面の発達上の特徴をおさえ、題材の候補を挙げる
			復習	振り返りと改善点についてノートにまとめる
第５回	内容	【二藤④】５歳児の音楽表現の題材を選定し指導案を作成し、模擬保育の実践・振り返り・討論を行う。	予習	５歳児の音楽面の発達上の特徴をおさえ、題材の候補を挙げる
			復習	振り返りと改善点についてノートにまとめる
第６回	内容	【二藤⑤】３～５歳児の合奏表現の指導構造と手順を理解し、模擬保育を通して保育の改善について考える。	予習	３～５歳児の合奏資料をよみ内容を覚える
			復習	幼児の合奏表現のポイントをノートにまとめる
第７回	内容	【二藤⑥】（グループワーク）テーマに沿って、声、音、楽器を使った観賞用パフォーマンスを創作し、発表の準備を行う。	予習	担当するテーマについて展開を考えてくる
			復習	発表内容とねらいをまとめて練習しておく
第８回	内容	【二藤⑦】作品を発表し講評し合う。音楽表現とその指導の今日的な意義についてディスカッションする。	予習	発表内容のリハーサルを行う
			復習	討論を踏まえて自分の考えをまとめる
第９回	内容	指導案作成の構造を理解し、身体表現活動におけるねらいについて考え、具体的な題材について検討し、指導実践法について研究する。	予習	行いたい活動内容についての指導の流れを考えてくる
			復習	指導案を完成させる。
第 10 回	内容	豊かな感性を育み、イメージが広がり、工夫した動きを引き出す言葉がけ・問いかけについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用について考える。	予習	指導案を見ながら言葉かけについて考える
			復習	指導の言葉かけシートを書き上げてくる
第 11 回	内容	保育活動における保育者の動き、言葉かけ、太鼓の叩き方などについて実践的に学ぶ。	予習	模擬保育で使用する準備物などを用意する
			復習	実際の保育活動をイメージしてリハーサルを行う
第 12 回	内容	３歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	指導のリハーサルを行う
			復習	指導実践後の振り返りを Google フォームへ記入する。
第 13 回	内容	４歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	身体表現遊びのウォーミングアップについて考えてくる
			復習	本時の指導実践の振り返りをフォームに記入する。
第 14 回	内容	５歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	５歳児の題材について考えノートにまとめる
			復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる
第 15 回	内容	身体表現遊びの意義についてグループディスカッション	予習	身体表現遊びの意義について自分なりの考えをノートにまとめる

			し、指導法において重要な点についてまとめる	復習	指導法についてフォームへまとめ、提出する
	予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	発表において、発表後に講評を行う。 レポート、ノートについては集めた際にコメントを書き返却する				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的な参加、出席状況】(20%)				
教科書	『体を楽器にした音楽表現リズム＆ゲームにどっぷり！リトミック 77 選』(神原雅之著、明治図書出版) 『保育で使える！子どもと遊ぶ＜表現＞−感性と実践力を磨く』(塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎) 『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび　―からだとこころを育む指導法−』　(宮下恭子編著、大学図書出版)				
参考文献	『リトミックで遊ぼう　器楽合奏編』(定成淡紅子、全音楽譜出版社)				
注意事項	身体表現の授業では、原則学校指定のジャージを着用して出席すること。 クラスを２つに分けて実施。塩崎：8 回、二藤：8 回				

科　目　名	音楽・身体表現（指導法）	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき　はせがわ 塩崎・長谷川
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12209	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	保育内容の各領域を総合的にとらえ表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。体の動き、音・リズムを工夫し、豊かな感性を育み、自らのイメージを広げて表現する楽しさについて理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
到達目標	１．幼児の心情、認識、思考、動きなどを視野にいれた保育の構想の重要性を理解している。 ２．領域「表現」及び音楽・身体表現の特性と幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができている。 ３．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができている。 ４．模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ５．音楽・身体表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができている
学位授与方針	幼児教育学科（３・４　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	本授業の概要 音楽・身体表現のねらい、および内容について乳幼児期の発達を踏まえて理解する	予習	テキストの指導篇を読んでくる。
			復習	模擬保育で行いたい内容について決めてくる
第２回	内容	指導案作成の構造を理解し、身体表現活動におけるねらいについて考え、具体的な題材について検討し、指導実践法について研究する。	予習	行いたい活動内容についての指導の流れを考えてくる
			復習	指導案を完成させる。
第３回	内容	豊かな感性を育み、イメージが広がり、工夫した動きを引き出す言葉がけ・問いかけについて理解し、具体的な保育を想定した指導場面での活用について考える。	予習	指導案を見ながら言葉かけについて考える
			復習	指導の言葉かけシートを書き上げてくる
第４回	内容	保育活動における保育者の動き、言葉かけ、太鼓の叩き方などについて実践的に学ぶ。	予習	模擬保育で使用する準備物などを用意する
			復習	実際の保育活動をイメージしてリハーサルを行う
第５回	内容	３歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	指導のリハーサルを行う
			復習	指導実践後の振り返りを Google フォームへ記入する。
第６回	内容	4 歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	身体表現遊びのウォーミングアップについて考えてくる
			復習	本時の指導実践の振り返りをフォームに記入する。
第７回	内容	5 歳児の身体表現の指導案を作成し、模擬保育の実践を行い、振り返りのグループディスカッションを通して保育の改善点について考える。	予習	５歳児の題材について考えノートにまとめる
			復習	本時の指導実践の振り返りをノートにまとめる
第８回	内容	身体表現遊びの意義についてグループディスカッションし、指導法において重要な点についてまとめる	予習	身体表現遊びの意義について自分なりの考えをノートにまとめる
			復習	指導法についてフォームへまとめ、提出する
第９回	内容	音楽教育の理論および保育における音楽指導の基礎を学び、その意義について理解を深める。	予習	1 年後期の授業のプリントを読んでくる
			復習	本時の内容をノートにまとめ、保育における音楽表現の重要性について記述する
第 10 回	内容	音楽指導におけるねらいの観点を理解し、達成するための指導方法を学ぶ。	予習	音楽指導の意義をふまえ、どのようなねらいが設定できるか調べる
			復習	本時の内容をノートにまとめ、音楽活動を想定してねらいを立ててみる
第 11 回	内容	音楽教育の意義と音楽指導のねらいをふまえ、幼児期の発達段階をふまえた指導を計画し、指導案を作成する。	予習	幼児期の発達段階について理解し、各年齢に即した題材を考える
			復習	指導案を完成させ、シミュレーションをする
第 12 回	内容	指導案をもとに 3 歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	3 歳児の音楽表現について理解しておく
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、3 歳児の音楽指導案をノートにまとめる
第 13 回	内容	指導案をもとに 4 歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	4 歳児の音楽表現について理解しておく
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、4 歳児の音楽指導案をノートにまとめる
第 14 回	内容	指導案をもとに 5 歳児の音楽指導に関する模擬保育を行い、振り返りを通して改善点を検討する。	予習	5 歳児の音楽表現について理解しておく
			復習	音楽指導振り返りと改善点をふまえ、5 歳児の音楽指導案をノートにまとめる
第 15 回	内容	歌唱による鑑賞活動の模擬保育を行い、子どもに音楽表現	予習	子どもの各年齢に適した歌唱による鑑賞教材を検討し、提示の仕方を考える

			を伝える技術について検討する。	復習	模擬保育をふまえ、子どもへの歌唱表現の提示法の要点をノートにまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	課題返却時に評価及び課題点を記入する。 模擬保育については、仲間からの評価、教員からの評価を担当学生へフィードバックする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%）、レポート・課題（40%）、発表（40%）、実技（10%）、授業態度【積極的参加、協働的な取り組み】（10%）				
教科書	『保育で使える！子どもと遊ぶ＜表現＞−感性と実践力を磨く』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎） 『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび　―からだとこころを育む指導法−』　（宮下恭子編著、大学図書出版）				
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）				
注意事項	身体表現の授業では、原則学校指定のジャージを着用して出席すること。 塩崎：15 回、長谷川：15 回				

科　目　名	幼児の運動遊び	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき 塩崎　みづほ
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12210	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれ、遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、さらには指導法について実践的に学びます。そこでは、グループで決められた題材を用いて、模擬授業も行います
到 達 目 標	1. 子どもの発育発達に応じた運動遊びの意義とその内容を理解している。 2. 運動遊びの指導に必要な、ねらい、指導案の記入法、指導法について理解している。 3. 幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画

第１回	内容	講義：履修上の注意事項 乳幼児期の運動遊びの意義	予習	シラバスを見て質問等を考える
			復習	運動遊びの意義について自分の考えをまとめる
第２回	内容	鬼ごっこについて考えよう	予習	鬼ごっこの種類とルールをあげる
			復習	鬼ごっこの意義とルールをまとめる
第３回	内容	米袋を使った遊び	予習	本時に使用する米袋を作成する
			復習	米袋の遊びを、年齢ごとにまとめる
第４回	内容	フープを使った遊び	予習	フープの特性について教科書を読み考えてくる
			復習	本時の活動を年齢ごとにまとめる
第５回	内容	縄を使った遊び	予習	縄の特性について考えてくる
			復習	本時の活動を年齢ごとにノートにまとめる
第６回	内容	マットを使った遊び	予習	マットを使った遊びについて考えてくる
			復習	本時の活動を年齢ごとにノートにまとめる
第７回	内容	身近なものを使った遊び	予習	身近なものを集める
			復習	自分で考えて身近な遊びについてまとめる
第８回	内容	ボールを使った遊び	予習	ボールの特性について読み深める
			復習	ボール遊びの意義についてまとめる
第９回	内容	サーキット遊び	予習	サーキット遊びの意義について考えてくる
			復習	自分なりのサーキットを作成する
第 10 回	内容	講義：運動遊びの指導について、指導案の書き方	予習	指示された箇所の教科書を読んでくる
			復習	指導案の書き方を復習する
第 11 回	内容	運動遊びの指導案作成と指導言語を考える	予習	指導案を書き上げ、指導言語について考えてくる
			復習	指導練習を行う
第 12 回	内容	模擬保育の実践とグループディスカッション① マットを使った遊び	予習	マット遊びの特性と指導法について復習する
			復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
第 13 回	内容	模擬保育の実践とグループディスカッション② ボールを使った遊び	予習	ボール遊びの特性と指導法について復習する
			復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
第 14 回	内容	模擬保育の実践とグループディスカッション③ 用具を使わない遊びや身近なものを使った遊び	予習	用具を使わない遊びの特性と指導法について復習する
			復習	本時の授業内容、講評をノートに記入する
第 15 回	内容	まとめ　幼児の運動遊びの指導における特徴と意義について考える グループディスカッション	予習	指導を行ってきたレポート課題を仕上げる
			復習	本時のグループ討議を踏まえ考察をノートにまとめる

予習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 45 分を目安とする。

課題へのフィードバック	振り返りを Google フォームにて行いその時間内に共有、次の時間においても活用する。 模擬保育についての講評は、個人へのフィードバックと全体へのフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　課題（40%）、作品（10%）、発表（20%）実技（20%）、授業態度【積極的参加、服装】(10%)
教科書	『乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび　―からだとこころを育む指導法―』　（宮下恭子編著、大学図書出版）
参考文献	
注意事項	実技の際は、指定のジャージを着用のこと。 実技のため、受講者数は 50 名までとします。

科目名	幼児の音楽遊び	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	はせがわ　きょうこ 長谷川　恭子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12212	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	領域「表現」に関する、音楽表現の意義を理解し、乳幼児の感性や創造性を豊かにする音や音楽の表現について実践的に学ぶ。具体的には、音や音楽を伴う活動や遊びを体験したり、器楽や歌唱の演奏を楽しんだりすることで、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。
到達目標	１．聴く・動く・演奏するなどの様々な表現を体験することを通して、イメージを豊かにすることができている。 ２．生活の中の音環境を、様々な素材を生かして表現することができる。 ３．音を感じたり音楽を表現したりするにあたり、積極的に活動に取り組み、企画に参加することができる。 ４．他者の表現や意見を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　3、7　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション：音や音楽を楽しむことを考える	予習	領域「表現」を読んでくる
			復習	本時の内容についてノートにまとめる
第２回	内容	音探しの旅１：身体で音を感じる	予習	身体から出る音について考えてくる
			復習	本時の内容についてノートにまとめる
第３回	内容	音探しの旅２：身の回りの音の音質を捉える（グループワーク）	予習	グループワークの内容を確認し、活動の趣旨を理解してくる
			復習	活動を振り返り、感じたことをノートにまとめる
第４回	内容	声によるアンサンブルの楽しみ：子どもができる声のアンサンブルをする　合唱	予習	歌の練習をする
			復習	活動を振り返り、活動の意義をノートにまとめる
第５回	内容	音楽を使った遊び１：楽器を使って音を楽しむ　楽器から出る音に注目し、響きを楽しむ	予習	一般的に保育で使われている楽器の奏法を確認しておく
			復習	活動を振り返り、保育への応用をノートにまとめる
第６回	内容	音楽を使った遊び２：手作り楽器でアンサンブルを作る（グループワーク）	予習	グループワークの内容を確認し、活動に必要なものを考えて用意する
			復習	活動の振り返をノートにまとめ、授業で行った内容を整理する
第７回	内容	音楽を使った遊び３：歌を伴う遊びを経験する	予習	歌の練習をする
			復習	活動の振り返をノートにまとめ、授業で行った遊びを覚える
第８回	内容	わらべうたによる保育の実際（外部講師）	予習	これまでに学習した幼児のわらべうたについて復習しておく
			復習	授業を振り返り、学んだことをノートにまとめる
第９回	内容	音楽表現の基礎１：発表の企画（グループワーク）	予習	どのような発表ができるか考える
			復習	活動を振り返り、感じたことをノートにまとめる
第10回	内容	音楽表現の基礎２：発表の練習（グループワーク）	予習	発表の内容を練習する
			復習	活動を振り返り、感じたことをノートにまとめる
第11回	内容	音楽表現の基礎３：発表のリハーサル（グループワーク）	予習	前時の反省をふまえ、発表の内容を練習する
			復習	活動を振り返り、感じたことをノートにまとめる
第12回	内容	音楽表現の応用１：発表内容の再検討（グループワーク）	予習	前時の反省をふまえ、改善点を考える
			復習	活動を振り返り、感じたことをノートにまとめる
第13回	内容	音楽表現の応用２：発表会	予習	発表に向けて練習する
			復習	活動を振り返り、感じたことをノートにまとめる
第14回	内容	音楽表現の応用３：発表をふまえての振り返り（討議）	予習	発表に関わる回のノートを確認し、グループ討議の準備をする
			復習	活動を振り返り、感じたことをノートにまとめる
第15回	内容	まとめ：授業をふまえて、音を楽しむとはどういうことかを考える（討議）	予習	これまでの活動についてノートを確認し、音楽表現の楽しさについてまとめておく
			復習	保育における音楽表現の意義について考え、ノートにまとめる

予習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。

課題へのフィードバック	ノートや課題の提出時は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。

成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（20%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的な参加】（30%）
教科書	授業時にプリントを配布する。ファイリングできるようにしておくこと。
参考文献	
注意事項	出欠も評価の対象とする。動きやすさや作業しやすさを考慮した服装で出席すること。30 名程度の定員とする。

科目名	健康	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	ひらやま　きたほら 平山・北洞
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12102	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	子どもにとって健康とは何かを教科書と資料から理解する。また幼稚園教育要領と保育所保育指針を参照して、健康のねらいと内容を学び、子どもの健康を現場でどのように確保促進していくかを理解する。
到達目標	１． 健康とは何かを理解する。 ２． 幼稚園教育要領と保育所保育指針の領域健康のねらいと内容を理解する。 ３． 年齢別の領域健康のねらいと内容の違いを理解する。
学位授与方針	幼児教育学科（ 4,5,6 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画					
	第１回	内容	オリエンテーション。保育ビデオ（子ども達は未来）鑑賞。	予習	シラバスを読んでくる
				復習	ビデオを見た感想をレポート提出する
	第２回	内容	幼稚園と保育園の違い：歴史、役割	予習	幼稚園と保育所の成り立ちを調べる
				復習	授業内容をノートにまとめる
	第３回	内容	健康の概念	予習	一般的な健康の考え方を調べる
				復習	授業内容をノートにまとめる
	第４回	内容	健康に関わる基礎知識①：発育発達について	予習	教科書 p17～24 を読む
				復習	授業内容をノートにまとめる
	第５回	内容	健康に関わる基礎知識②：運動の発達について	予習	教科書の該当箇所を読む
				復習	授業内容をノートにまとめる
	第６回	内容	幼稚園教育要領総則について	予習	幼稚園教育要領の総則を読む
				復習	まとめの資料を読んで内容を理解する
	第７回	内容	幼稚園教育要領の領域健康について	予習	幼稚園教育要領領域健康のねらいと内容を読む
				復習	まとめの資料を読んで内容を理解する
	第８回	内容	保育所保育指針第１章総則について	予習	保育所保育指針第１章総則を読む
				復習	まとめの資料を読んで内容を理解する
	第９回	内容	保育所保育指針第２章乳児保育のねらいと内容	予習	保育所保育指針第２章乳児保育のねらいと内容を読む
				復習	まとめの資料を読んで内容を理解する
	第 10 回	内容	保育所保育指針第２章１歳～3 歳、3 歳以上の保育のねらいと内容	予習	保育所保育指針第２章１歳～3 歳、3 歳以上の保育のねらいと内容を読む
				復習	まとめの資料を読んで内容を理解する
	第 11 回	内容	子どものからだのおかしさについてⅠ（実感調査より）	予習	子どもの体のおかしさを調べる
				復習	資料を読み内容を理解する
	第 12 回	内容	子どものからだのおかしさについてⅡ（前頭葉の 4 タイプ）	予習	前頭葉について調べる
				復習	資料を読み内容を理解する
	第 13 回	内容	食育について	予習	食育について教科書の該当箇所を読む
				復習	授業内容をノートにまとめる
	第 14 回	内容	アレルギーについて	予習	アレルギーの教科書の該当箇所を読む
				復習	授業内容をノートにまとめる
	第 15 回	内容	保育映画鑑賞（風のなかで）	予習	14 回の授業内容を復習する
				復習	映画を観た感想をレポート提出する
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。 復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	課題は Google クラスルームの Google ドキュメントで提出し、その評価とコメントでフィードバックする
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない 成績評価の方法： 筆記試験（20%）、レポート・課題（70%）、作品・発表（ %）、実技（ %）、授業態度【 積極性 】(10%)
教科書	「乳幼児の健康～教育・保育に向けた計画と実践～」（宮下恭子・茗井香保里・平山素子編、大学図書出版）
参考文献	「限界を超える子どもたちー脳・身体・障害への新たなアプローチ」（アナット・バニエル、太郎次郎社エディダス）
注意事項	リモート授業アプリの Google クラスルームを使える環境を整えること

科　目　名	人間関係	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	まるはし　さとみ 丸橋　聡美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12103	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。領域「人間関係」の指導基盤となる基礎理論として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係のなかで人と関わる力が育つことを理解する。
到達目標	1. 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解している。 2. 園生活における幼児期の人間関係の発達について理解している。 3. 遊びのなかで育つ人との関わりの発達について、乳幼児との関係、保育者との関係、集団のなかでの育ちを観点として説明できる。 4. 自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、それぞれの育ちについて子どもの発達の姿と合わせて説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.2.3.4.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション、現代社会と幼児の人間関係①幼児期の生活経験と現代の幼児の生活（グループワーク）	予習	講義内容を読んでおく
			復習	この科目で習得すべき内容を理解する
第２回	内容	現代社会と子どもの人間関係②ディスカッション（ICT の活用）	予習	子どもの定義を考える
			復習	人間関係の広義を理解する
第３回	内容	3 歳未満児の人間関係の発達①0 歳児	予習	保育の基本とは何かを確認しておく
			復習	0 歳児の関わりの発達をまとめる
第４回	内容	3 歳未満児の人間関係の発達②1・2 歳児	予習	1.2 歳児の発達を調べておく
			復習	1.2 歳児の人との関わりの発達をまとめる 小テストの内容を確認する①
第５回	内容	3 歳以上児の人間関係の発達①3 歳児	予習	3 歳児の発達を調べておく
			復習	小テストの内容を復習する①
第６回	内容	3 歳以上児の人間関係の発達②4・5 歳児	予習	4.5 歳児の発達を調べておく
			復習	小テストの内容を確認する②
第７回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係①乳幼児と遊び	予習	子どもの遊びを調べる
			復習	小テストの内容を復習する②
第８回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係②個の育ち	予習	事例プリントを読む
			復習	小テストの内容を確認する③
第９回	内容	遊びのなかで育つ幼児の人間関係③集団での育ち	予習	集団の形成について調べる
			復習	小テストの内容を復習する③
第 10 回	内容	乳幼児期の自立心の育ち（ICT 活用）	予習	子どもの心の発達を調べる
			復習	小テストの内容を確認する④
第 11 回	内容	幼児期の共同性の育ち	予習	プリントを読んでおく
			復習	小テストの内容を復習する④
第 12 回	内容	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち	予習	自身の事例をあげる
			復習	小テストの内容を確認する⑤
第 13 回	内容	乳幼児を取り巻く人間関係（家庭・地域など）の関わりと育ち	予習	身の周り（地域・家族）の事例を考える
			復習	小テストの内容を復習する⑤
第 14 回	内容	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿	予習	幼稚園教育要領第 1 章第 2 を読んでおく
			復習	幼児期までに育って欲しい 10 の姿をまとめる
第 15 回	内容	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係（ICT 活用）	予習	実習を通して子どもの人間関係と育みたい資質を考える
			復習	幼児期に育みたい資質・能力をまとめる

予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題や小テスト採点後返却し、説明を行う
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　レポート（40%）、課題（20%）、小テスト（20%）、授業態度【積極的な取り組み】（20%）
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』・解説書、プリント資料、
参考文献	
注意事項	必要に応じてビデオ視聴を取り入れ、資料・プリントを配布しながら進める

科　目　名	人間関係	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	今井（いまい）　由美（ゆみ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12103	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	現代社会における諸問題を踏まえ、乳幼児の人間関係の育ちの基本や目的について理解し、乳幼児教育で保障すべき内容に関する知識を身につける。領域「人間関係」の指導基盤となるよう関係論的発達過程についても学び、他者や集団のを通して人と関わる力が育つことを理解する。
到達目標	１．　乳幼児期の人間関係における現代的課題を理解している ２．　乳幼児の人間関係の発達について理解している ３．　乳幼児の人間関係を育むための知識を身につけている
学位授与方針	幼児教育学科（　1,2,3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション　/　人間関係を学ぶとは	予習	自身の人間関係を振返っておく
			復習	人間関係を学ぶ目的を理解する
第２回	内容	現代社会における保育と人間関係	予習	現代社会における諸問題を調べておく
			復習	現代社会における人間関係の課題を整理する
第３回	内容	人間関係からみる乳幼児教育の基本	予習	乳幼児の生活をイメージしておく
			復習	保育における人間関係の広がりを理解する
第４回	内容	人間関係からみる発達過程①　乳児	予習	乳児の発達過程を調べておく
			復習	乳児の発達過程を整理する
第５回	内容	人間関係からみる発達過程②　幼児	予習	幼児の発達過程を調べておく
			復習	乳幼児の発達過程を整理し理解する
第６回	内容	遊びの中での人との関わり①　遊びの広がり	予習	乳幼児の遊びをイメージしておく
			復習	遊びながら学ぶことを理解する
第７回	内容	遊びの中での人との関わり②　遊びと人間関係	予習	遊びから生まれる人間関係を考えておく
			復習	遊びながら人と関わる力が育つことを理解する
第８回	内容	遊びの中での人との関わり③　遊びと援助支援	予習	乳幼児の遊びへの関わり方をイメージしておく
			復習	人間関係を育むための援助方法を整理する
第９回	内容	人との関わりの基盤①　自立心の育ち	予習	保育でみられる自立場面をイメージしておく
			復習	人間関係を通して自立心が育つことを理解する
第 10 回	内容	人との関わりの基盤②　協同性の育ち（グループワーク）	予習	保育でみられる協同場面をイメージしておく
			復習	ディスカッション内容を整理する
第 11 回	内容	人との関わりの基盤③　道徳性・規範意識	予習	幼児にとっての道徳性・規範意識を調べておく
			復習	人間関係を通しての育ちを理解する
第 12 回	内容	保育者としての役割①　家庭との関わり	予習	家庭との関わりをイメージする
			復習	家庭との関わりの必要性を理解する
第 13 回	内容	保育者としての役割②　小学校との関わり	予習	小学校での生活をイメージする
			復習	小学校との連携の重要性を整理する
第 14 回	内容	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿	予習	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を調べる
			復習	指針や要領を踏まえながら整理する
第 15 回	内容	幼児期に育みたい資質・能力	予習	幼児期に育みたい資質・能力を調べておく
			復習	小学校との連携を考えながら理解する

予習に要する学習時間：概ね　20　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。

課題へのフィードバック	課題・小テストは、添削して返却し、解説を行う。 グループワークは、発表後に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　60　%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（　40　%）
教科書	なし
参考文献	『保育所保育指針』（厚生労働省）　『幼稚園教育要領』（文部科学省） 『人間関係』（高杉自子・岸井慶子、東京書籍）　『事例で学ぶ保育内容　領域人間関係』（無藤隆・岩立京子、萌文書林）
注意事項	

科　目　名	環　境	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	なかむら　よういち 中 村　陽 一
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12104	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	子どもは家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。本講義は、幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」の内容を理解し、保育者に求められる援助について理解することを目的とする。
到 達 目 標	1.子どもの成長にとって望ましい自然体験と保育者の適切な援助方法について理解している。 2.「環境を通した保育」の意義と、保育者の援助について、自分の考えを述べることができる。 3.自然と生命を尊重する態度を身につけ、子どもに伝えることができる。 4.保育内容「環境」と小学校「生活科」の連続性について理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	保育と環境－「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境との関わり	予習	幼稚園教育要領 第１章を読む。
				復習	「環境を通して行う保育」についての課題
	第２回	内容	領域「環境」のねらいと内容－「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園　教育・保育要領」。	予習	教科書 1～8p を読む。
				復習	領域「環境」の概要についての課題
	第３回	内容	子どもの生活と物的環境①－保育の環境構成（保育室、園舎）。	予習	教科書 11～15p を読む。
				復習	頬幾室の環境に関する課題
	第４回	内容	子どもの生活と物的環境②－保育の環境構成（園庭）。	予習	教科書 27～31p を読む。
				復習	園庭の環境に関する課題
	第５回	内容	子どもの生活と自然環境①－子どもを取り巻く自然環境	予習	教科書 45～47p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 195p を読む。
	第６回	内容	子どもの生活と自然環境②－自然環境と保育実践（自然への気づき・季節感）	予習	教科書 47～54p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 197p を読む。
	第７回	内容	子どもの生活と自然環境③－動物との関わり、飼育動物の特徴と配慮	予習	教科書 54～57p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 66.67p を読む。
	第８回	内容	子どもの生活と自然環境④－植物の関わり、栽培植物の特徴と配慮、実践例	予習	教科書 57～58p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 199p を読む。
	第９回	内容	子どもの生活と社会①－社会環境と地域性、情報化と保育	予習	教科書 61～67p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 205p を読む。
	第 10 回	内容	子どもの生活と社会環境②－情報と生活、伝統的な行事との関わり、地域や施設との関わり	予習	教科書 67～75p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 200ｐを読む。
	第 11 回	内容	数量や文字に関する取り扱い①－子どもの生活と数、子どもの生活と文字	予習	教科書 77～84p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 203ｐを読む。
	第 12 回	内容	数量や文字に関する取り扱い②－小学校教育とのつながり	予習	教科書 84～91p を読む。
				復習	幼稚園教育要領解説 212ｐを読む。
	第 13 回	内容	小学校教育への連続性－保育内容「環境」と小学校教育の「生活科」「総合学習」への連続性	予習	教科書 93～99p を読む。
				復習	小学校「生活科」についての課題
	第 14 回	内容	保育内容「環境」に関わる教育思想の変遷－ペスタロッチ・フレーベル・オウエン・倉橋惣三など。	予習	配布された資料を読む
				復習	環境を通した保育思想についてまとめる。
	第 15 回	内容	グループ討論と発表。 授業の振り返りとまとめ	予習	教科書 123～126p を読む。
				復習	「環境を通して行う保育」についてレポートを作成する。
	予習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題に対するフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　%）、レポート・課題（100%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度（　%）
教科書	『保育所保育指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領/幼稚園教育要領』（文部科学省・厚生労働省・内閣府、チャイルド本社） 『コンパス 保育内容 環境』（高橋貴志・目良秋子編、建帛社）
参考文献	なし
注意事項	保育者としての自覚と問題意識を持って授業に臨むこと。

科　目　名	言葉	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	いざわ　えいしゅう 伊澤　永 修
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12105	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	人が社会の中で生活するために必要な言葉の意義や機能、乳幼児の言葉の発達過程、言葉の楽しさや美しさなどを映像や事例を通して具体的に学ぶ。また、保育の中で効果的に活用できるように、児童文化財についての教材研究を行い、また、実際に演じることで保育への活かし方について体験的に学ぶ。
到達目標	１．「言葉」の意義や機能について理解している ２．乳幼児の言葉の発達過程について理解している ３．領域「言葉」のねらいや内容に基づく保育内容について理解している
学位授与方針	幼児教育学科（ １、２、５ ）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション 自己紹介文章作成及び実施を通して効率的な言葉による伝達方法について理解する。	予習	シラバスを読んでおく
			復習	この科目で習得できる内容について理解する
第２回	内容	幼児教育の根幹及び育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についてグループディスカッション及び解説から理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第３回	内容	幼児教育における非認知能力について及び用語と教育の一体性についてグループディスカッション及び解説から理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第４回	内容	幼児期にふさわしい保育とは何か、子どもの発達を促すとは何かについてグループディスカッション及び解説から理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第５回	内容	遊びを通しての総合的な指導と一人一人の発達に合わせた指導についてグループディスカッション及び解説から理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第６回	内容	保育者の様々な役割についてグループディスカッション及び解説から理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第７回	内容	乳幼児期の発達とことばについて理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第８回	内容	乳幼児期のことばの発達と大人の存在と言葉の発達を捉える視点についてグループディスカッション及び解説から理解する	予習	テキストの該当箇所を読み込んでおく
			復習	授業の内容を踏まえ、テキストの該当箇所を読み理解の定着を図る
第９回	内容	児童文化財について理解する	予習	児童文化財について下調べをしてまとめておく
			復習	児童文化財について理解した上で、保育への活用方法を考える
第 10 回	内容	言葉の働きや役割及び言葉と文化の関係性を理解する	予習	言葉と文化について下調べをしておく
			復習	言葉の働きや役割、言葉と文化の関係性などについてまとめる
第 11 回	内容	身振り手振りを使ってのグループワークを通して言葉の機能について理解する	予習	言葉の働きや役割について振り返りをしておく
			復習	グループワークで体験したことを振りかえりながら改めて言葉の機能について理解を深める
第 12 回	内容	日本語の美しさと魅力について理解する	予習	美しい日本語や美しくない日本語など普段使っている言葉について振り返りを行う
			復習	美しい言葉や魅力的な言葉を子どもたちに伝えられる保育内容について考える
第 13 回	内容	乳幼児期のことばの発達を映像視聴から理解を深める（前半）	予習	これまで学んだ乳幼児のことばの発達について振り返りをしておく
			復習	映像から理解できたことをこれまで学習してきたことと照らし合わせて理解を深める
第 14 回	内容	乳幼児期のことばの発達を映像視聴から理解を深める（後半）	予習	これまで学んだ乳幼児のことばの発達について振り返りをしておく
			復習	映像から理解できたことをこれまで学習してきたことと照らし合わせて理解を深める
第 15 回	内容	オノマトペについての理解する	予習	オノマトペについての下調べをしておく
			復習	効果的なオノマトペの使い方についてまとめる

予習に要する学習時間：概ね２５分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね２０分を目安とする。

課題へのフィードバック	提出物に関する評価を行い、返却時に解説する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%)、レポート・課題（７０%)、作品・発表（　　%)、実技（　　%)、授業態度【参加度合】（３０%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 『事例で学ぶ保育内容』　無藤隆監修　萌文書林
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
注意事項	

科　目　名	造形表現	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	とよいずみ　なおみ 豊 泉　尚美
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12106	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授　業　の 内　　容	幼児の造形表現について、その発達の姿と重要性を理解し、幼児の感性や創造性を豊かに育むための表現遊びや環境構成などの専門的な知識・技能を学ぶ。また、幼児の表現を支えるために、自身の感性も大切にしながら表現力を身につける。
到 達 目 標	１．　幼児期に特徴的な造形表現について理解し、それを受け止めて共感したうえで、造形活動の指導計画が立案できる。 ２．　様々な表現の基礎的知識・技能を生かし、幼児の造形表現活動に展開できる。 ３．　自然と生命を大切にする心をもち、それを子どもに伝えることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　2・3・6・7　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	授業のねらい・進め方について・幼児の造形表現とは	予習	こども園教育・保育要領等の領域「表現」の箇所を読み込んでおく。
				復習	幼児の造形表現について、自身の考えをまとめる。
	第２回	内容	造形表現活動を体験し、分析と考察を行う (1)自然の色・自然の美しさ（ICT 活用）	予習	自然の中にある色の多様性を調べておく。
				復習	植物染料を幼児の造形活動で活用する方法をまとめる。
	第３回	内容	造形表現活動を体験し、分析と考察を行う (2)自然素材でスタンピング	予習	幼児が楽しめる造形活動について考えておく。
				復習	幼児が造形活動を行う準備と方法をまとめる。
	第４回	内容	造形表現活動を体験し、分析と考察を行う (3)自然素材でフロッタージュ・コラージュ	予習	現代美術の描画技法について調べる。
				復習	自然素材を使って行う造形活動の方法をまとめる。
	第５回	内容	造形表現活動を体験し、分析と考察を行う (4)自然素材を使って描く（ICT 活用）	予習	自然の中にある音や風を感じ、その感想（イメージ）をメモしておく。
				復習	幼児の描画活動についてまとめる。
	第６回	内容	造形表現活動を体験し、分析と考察を行う (5)自然素材で作る	予習	自然素材を使った造形活動を調べておく。
				復習	幼児が制作するための「指導案」を作成する
	第７回	内容	幼児画と造形活動の発達について－保育事例の映像を通して－（ICT 活用）	予習	幼児の手指の発達について下調べをする。
				復習	幼児画の発達についてまとめる。
	第８回	内容	季節や自然に関わる伝承遊びや行事を学び、制作する (1)春～夏編	予習	春から夏の行事について調べておく。
				復習	自然に関わる伝承遊びと行事についてまとめる。
	第９回	内容	季節や自然に関わる伝承遊びや行事を学び、制作する (2)秋～冬編	予習	秋から冬の行事について調べておく。
				復習	自然に関わる伝承遊びと行事についてまとめる。
	第 10 回	内容	造形表現活動を支える環境構成について－レッジョ・エミリアの幼児教育から－（ICT 活用）	予習	造形活動を行う環境について考えておく。
				復習	レッジョ・エミリアの幼児教の特徴をまとめる。
	第 11 回	内容	造形表現のプロジェクト活動について－共同制作のテーマを決める－	予習	レッジョ・エミリアでのプロジェクトについて調べる。
				復習	グループで話し合ったことをまとめ、テーマを決める。
	第 12 回	内容	テーマに沿った制作の準備と制作	予習	制作のための準備をする。
				復習	制作過程をまとめ、次回の制作予定を立てる。
	第 13 回	内容	テーマを共同で制作し、完成する	予習	制作のための準備をしておく。
				復習	制作活動の過程をまとめる。
	第 14 回	内容	プロジェクト活動のドキュメンテーションを作成する	予習	ドキュメンテーションについて調べる。
				復習	グループでのプロジェクト活動をまとめる。
	第 15 回	内容	グループで発表する	予習	グループ発表の準備をする。
				復習	発表の様子、感想をまとめる。
	予習に要する学習時間：概ね　25　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　20　分を目安とする。				

課題へのフィードバック	課題に対して解説を行う。発表後は講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○ ）しない 成績評価の方法：筆記試験（　%）、レポート・課題（30　%）、作品・発表（30%）、実技（　%）、授業態度【積極的参加・丁寧な制作】(40%)
教科書	『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』森下英美子・豊泉尚美　著（圭文社）
参考文献	『子どもたちの 100 の言葉』レッジョ・チルドレン編（学習研究社） 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著（新潮社）
注意事項	作品提出の期限を厳守すること。制作活動に積極的に、丁寧に取り組むこと。

科　目　名	音楽・身体表現	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しおざき　はせがわ 塩崎・長谷川
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12107	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	対面・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	領域「表現」における音楽・身体表現の指導法に関する、乳幼児期の特徴を捉え、乳幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びや環境について実践的に学ぶとともに、保育者として必要な知識・技能を学び、豊かな感性と表現力を身に付ける。また、ICT を活用し、スマートフォンやタブレット端末を使用し、コメントや評価など双方向型授業も行う。
到達目標	1.見る・聴く・動くなどの様々な表現を楽しむことを通して、イメージを豊かにすることができている。 2.生活の中での出来事を、様々な素材を生かして表現することができる。 3.それぞれの表出・表現を受け止め、表現する過程を工夫し、より楽しめるよう発展させることができている。 4.他者を受け入れ、互いに共感しあう活動を通して、表現の楽しさの要因についての知識を深め、生かすことができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　３・７　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	「表現とは」　領域「表現」のねらい及び内容について理解する	予習	領域「表現」のねらいの箇所を読んでくる
			復習	本時の内容についてノートにまとめる
第２回	内容	「乳幼児の表現」　保育者として受け止める視点についてグループ討議し、その大切さについて考える。	予習	乳幼児期の表現の特徴について、調べる
			復習	グループ討議やまとめの内容をノートまとめる
第３回	内容	「身体表現とは」　豊かな表現を引き出すための保育者の役割や、題材について討議する。	予習	身体表現遊びの題材について調べてくる
			復習	身体表現の題材についてまとめる
第４回	内容	「童謡」や「歌遊び」を題材とした身体表現遊びの実技の実践とまとめ	予習	身体表現へ用いることのできる「歌遊び」を２つ探してくる
			復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめる
第５回	内容	「絵本と身体表現」　絵本を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ討議する。	予習	身体表現に利用できる絵本を探してくる
			復習	気に入った絵本で身体表現遊びの活用についてまとめる
第６回	内容	「自然と身体表現」　自然を題材とした身体表現遊びの実技を通して、展開についてグループ創作・発表、討議をする。発表作品を動画で撮影する。	予習	自然観察し、動きに用いることのできる対象物を選び動画、写真などに撮影してくる
			復習	本時の発表作品を動画にまとめる。
第７回	内容	「生活の中での身体表現」　生活を題材とした身体表現遊びの実技を通して、豊かな表現活動の展開の可能性についてグループ討議する。	予習	生活の中での身表現の題材について考えてくる
			復習	本時の活動を発達ごとにノートにまとめ、考察する
第８回	内容	「ＩＣＴを使った身体表現」　ICT を利活用した表現方法について実践し、生かし方・工夫について話し合い、まとめる。	予習	ICT の意味について調べ活用方法について考えてくる
			復習	活用の仕方、操作の仕方の練習をする
第９回	内容	音楽の応用１多様な音楽表現の方法	予習	授業で指示した資料を確認する
			復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする
第 10 回	内容	音楽の応用２ アレンジによる音楽表現の応用	予習	コードネームについて確認する
			復習	経験した音楽表現法を記録し振り返りをする
第 11 回	内容	音楽表現の展開１幼児の豊かな表現力と音楽的な資質・能力を養うための教材選択	予習	授業で指示した資料を確認する
			復習	教材選択の観点について考察し記録する
第 12 回	内容	音楽表現の展開２ 童謡を用いた総合的な表現活動の展開	予習	授業で支持した課題に取り組む
			復習	経験した総合的な表現活動について記録する
第 13 回	内容	音楽と身体表現の出会い　音と体を使って表現を楽しむ、工夫する	予習	発表の題材について考えてくる
			復習	本時の内容をまとめ、次時の課題を考えてくる
第 14 回	内容	様々な表現方法を用いて　様々な表現を集めて小作品を創作する	予習	音楽、動きについて考えてくる
			復習	発表作品の練習課題についてまとめる
第 15 回	内容	学習のまとめを発表する	予習	発表作品の練習をする
			復習	ノートのまとめをし、考察する

予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。

課題へのフィードバック	ノートや課題提出の際は、コメントを記入し返却する。 発表後は、講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（30%）、作品・発表（30%）、実技（20%）、授業態度【積極的参加、出席状況】(20%)

教科書	『書名』（著者名、出版社名） 『保育で使える！子どもと遊ぶ＜表現＞−感性と実践力を磨く』（塩崎みづほ・小口偉・長谷川恭子、推敲舎）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名） 『運動あそび・表現あそび　指導方法を身に付ける理論と実例』（宮下恭子編著、大学図書出版）
注意事項	身体表現の授業では、学校指定のジャージを着用のこと。 塩崎15回、長谷川15回

科目名	音楽Ⅰ	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12101	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	この授業では、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のためのピアノ実技個人レッスンと、音楽に関する基礎的な知識や理論（楽典）、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を並行して行う。
到達目標	１．基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 ２．幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、子どものうたの弾き歌いができる。 ３．保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.3.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画				
第１回	内容	オリエンテーション 授業内容、進め方について	予習	事前にシラバスを読んでおく
			復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく
第２回	内容	ハ長調の和音 大学ピアノ教本　No.1,2,3	予習	大学ピアノ教本　No.1,2,3 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.1,2,3 の復習
第３回	内容	分散和音の伴奏形①・②・③ 大学ピアノ教本　No.9,10,11,12,13,14,15,16	予習	大学ピアノ教本　No.9～16 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.9～16 の復習
第４回	内容	分散和音の伴奏形④　4 分音符と 8 分音符 大学ピアノ教本　No.17,19,21,22,24	予習	大学ピアノ教本　No.17,19,21,22,24 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.17,19,21,22,24 の復習
第５回	内容	ハ長調の下属和音 大学ピアノ教本　No.26	予習	大学ピアノ教本　No.26 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.26 の復習
第６回	内容	ヘ長調の主和音・属和音・下属和音 大学ピアノ教本　No.27,29,31,32	予習	大学ピアノ教本　No.27,29,31,32 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.27,29,31,32 の復習
第７回	内容	ト長調の主和音・属和音・下属和音 大学ピアノ教本　No.33,35,36,38	予習	大学ピアノ教本　No.33,35,36,38 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.33,35,36,38 の復習
第８回	内容	中間発表会（個人発表）	予習	大学ピアノ教本　No.の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.の復習
第９回	内容	高い音の練習　6/8 拍子 大学ピアノ教本　No.44,48	予習	大学ピアノ教本　No.44,48 の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.44,48 の復習
第 10 回	内容	付点を用いたリズム　大学ピアノ教本　No.50,51 生活のうたの弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.他の復習
第 11 回	内容	ハ長調の音階　低い音の練習　大学ピアノ教本　No.56,58 生活のうたの弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.他の復習
第 12 回	内容	ヘ長調の音階　大学ピアノ教本　No.60 生活のうたの弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.他の復習
第 13 回	内容	ト長調の音階　大学ピアノ教本　No.63 生活のうたの弾き歌い④	予習	大学ピアノ教本　No.他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.他の復習
第 14 回	内容	臨時記号・半音階　大学ピアノ教本　No.69 生活のうたの弾き歌い⑤	予習	大学ピアノ教本　No.他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.他の復習
第 15 回	内容	これまでの授業のまとめと発表	予習	発表曲の予習
			復習	指導を受けた点を復習する
予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　10%）、作品・発表（30%）、実技（50%）、授業態度（10%）
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』（小林美実　他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
注意事項	

科　目　名	音楽Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12102	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	音楽Ⅰに引き続き、保育現場で求められるピアノ演奏技術の修得のためのピアノ実技個人レッスンと、音楽に関する基礎的な知識や理論（楽典）、歌唱法、伴奏法を学ぶクラス授業を並行して行う。
到達目標	１．基礎的な練習曲を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を修得している。 ２．幼稚園・保育所実習や保育現場での実践に対応できるよう、子どものうたの弾き歌いができる。 ３．保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解を深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノ演奏することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.3.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	臨時記号と半音階　大学ピアノ教本　No.69 季節のうた（春）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.69 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.69 他の復習
第２回	内容	16 分音符を用いたリズム　大学ピアノ教本　No.72 季節のうた（春）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.72 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.72 他の復習
第３回	内容	イ短調の主要三和音　大学ピアノ教本　No.75 季節のうた（春）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.75 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.75 他の予習
第４回	内容	6 度・3 度の重音　大学ピアノ教本　No.78 季節のうた（夏）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.78 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.78 他の復習
第５回	内容	3 連符　大学ピアノ教本　No.79～80 季節のうた（夏）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.79～80 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.79～80 他の復習
第６回	内容	ヘ長調よりハ長調への転調　大学ピアノ教本　No.81 季節のうた（夏）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.81 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.81 他の復習
第７回	内容	3 度の重音と 8 度の跳躍　大学ピアノ教本　No.82 季節のうた（秋）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.82 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.82 他の復習
第８回	内容	弱起の曲　大学ピアノ教本　No.83～84 季節のうた（秋）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.83～84 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.83～84 他の復習
第９回	内容	ニ長調とニ短調の主要三和音　大学ピアノ教本　No.85～86 季節のうた（秋）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.85～86 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.85～86 他の復習
第 10 回	内容	装飾音　大学ピアノ教本　No.90 季節のうた（冬）弾き歌い①	予習	大学ピアノ教本　No.90 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.90 他の復習
第 11 回	内容	複付点音符　大学ピアノ教本　No.91 季節のうた（冬）弾き歌い②	予習	大学ピアノ教本　No.91 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.91 他の復習
第 12 回	内容	大学ピアノ教本　No.93、94 季節のうた（冬）弾き歌い③	予習	大学ピアノ教本　No.93、94 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.93、94 他の復習
第 13 回	内容	マーチ、その他①　大学ピアノ教本　No.95～98	予習	マーチ曲（大学ピアノ教本　No.95～98）の予習
			復習	マーチ曲（大学ピアノ教本　No.95～98）の復習
第 14 回	内容	マーチ、その他②　大学ピアノ教本　No.99～102	予習	マーチ曲（大学ピアノ教本　No.99～）の予習
			復習	マーチ曲（大学ピアノ教本　No.99～）の復習
第 15 回	内容	マーチ、その他③　大学ピアノ教本　No.103～107	予習	大学ピアノ教本　No.103～107 他の予習
			復習	大学ピアノ教本　No.103～107 他の復習

予習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（ ○ ）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　10%）、作品・発表（30%）、実技（50%）、授業態度（10%）
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』（大学音楽教育研究グループ、教育芸術社） 『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』（小林美実　他、チャイルド本社）
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
注意事項	

科目名	音楽Ⅲ	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12201	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	音楽Ⅰ、音楽Ⅱで学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。
到達目標	１．音楽Ⅰ、音楽Ⅱで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育所実習、保育現場での実践に対応できるよう、より多くの子どものうたを弾き歌いすることができる。 ２．コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　1.3.5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション	予習	事前にシラバスを読んでおく
			復習	この科目で学ぶ内容を確認しておく
第２回	内容	園生活のうた　弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他	予習	「おはよう」「おはようのうた」の予習
			復習	「おはよう」「おはようのうた」を復習
第３回	内容	園生活のうた　弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他	予習	「おべんとう」「おかえりのうた」の予習
			復習	「おべんとう」「おかえりのうた」の復習
第４回	内容	園生活のうた　弾き歌い③ 「さよならのうた」「おかたづけ」「おむねをはりましょ」	予習	「さよならのうた」の予習
			復習	「さよならのうた」の復習
第５回	内容	季節のうた　４月①　他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」	予習	「あくしゅでこんにちは」他の予習
			復習	「せんせいとおともだち」他の復習
第６回	内容	季節のうた　４月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他	予習	「チューリップ」「ちょうちょう」他の予習
			復習	「ちょうちょう」「めだかの学校」他の復習
第７回	内容	季節のうた　５月① 「こいのぼり」「手をたたきましょう」他	予習	「手をたたきましょう」「こいのぼり」他の予習
			復習	「手をたたきましょう」「こいのぼり」他の復習
第８回	内容	中間発表会 季節のうた　５月②「ぶんぶんぶん」他	予習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の予習
			復習	「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他の復習
第９回	内容	季節のうた　６月① 「あめふりくまのこ」「あまだれぽったん」他	予習	「あめふりくまのこ」他の予習
			復習	「あめふりくまのこ」他の復習
第10回	内容	季節のうた　６月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」「歯をみがきましょう」	予習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の予習
			復習	「とけいのうた」「すてきなパパ」他の復習
第11回	内容	季節のうた　７・８月① 「たなばたさま」「うみ」「アイスクリームのうた」他	予習	「たなばたさま」「うみ」の予習
			復習	「たなばたさま」「うみ」の復習
第12回	内容	季節のうた　７・８月② 「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他	予習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の予習
			復習	「おばけなんてないさ」「シャボン玉」他の復習
第13回	内容	あそびのうた① 「グーチョキパーでなにつくろう」他	予習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の予習
			復習	「グーチョキパーでなにつくろう」他の復習
第14回	内容	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげじいさん」他	予習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の予習
			復習	「とんとんとんとんひげじいさん」他の復習
第15回	内容	あそびのうた③「むすんでひらいて」他 授業のまとめと発表	予習	「むすんでひらいて」他の予習
			復習	「こぶたぬきつねこ」他の復習

予習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　60　分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　作品・発表（　30　%）、実技（　50　%）、授業態度（　20　%）
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』(小林美実　他、チャイルド本社)
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
注意事項	

科　目　名	音楽Ⅳ	単 位 数	1	授業時間数	３０	担当教員	しかと　かずのり 鹿戸　一範　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDS12202	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　　）
授業の内容	音楽Ⅰ～Ⅲで学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能として、さらに高度なピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを中心に学ぶ。
到達目標	１．音楽Ⅰ～Ⅲで身につけた知識、ピアノ演奏技術を深め、教育実習や保育所実習、保育現場での実践に対応できるよう、より多くの子どものうたを弾き歌いすることができる。 ２．コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３・５　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	季節のうた　9月① 「とんぼのめがね」「つき」「大きなくりの木の下で」他	予習	「とんぼのめがね」「つき」他の予習
			復習	「とんぼのめがね」「つき」他の復習
第２回	内容	季節のうた　9月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他	予習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の予習
			復習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の復習
第３回	内容	季節のうた　10月① 「やきいもグーチーパー」「きのこ」他	予習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の予習
			復習	「きらきら星」「どんぐりころころ」他の復習
第４回	内容	季節のうた　10月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他	予習	「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」の予習
			復習	「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」の復習
第５回	内容	季節のうた　11月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他	予習	「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」の予習
			復習	「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」の復習
第６回	内容	季節のうた　11月② 「夕やけこやけ」「たきび」「こぎつね」他	予習	「夕やけこやけ」「たきび」他の予習
			復習	「夕やけこやけ」「たきび」他の復習
第７回	内容	季節のうた　12月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他	予習	「あわてんぼうのサンタクロース」他の予習
			復習	「あわてんぼうのサンタクロース」他の復習
第８回	内容	季節のうた　12月② 「ジングルベル」「サンタクロース」他	予習	「ジングルベル」他の予習
			復習	「ジングルベル」他の復習
第９回	内容	中間発表会 季節のうた　1月①「お正月」「雪」他	予習	「お正月」「雪」他の予習
			復習	「お正月」「雪」他の復習
第10回	内容	季節のうた　1月② 「雪のこぼうず」「雪のペンキやさん」他	予習	「雪のこぼうず」「雪のペンキやさん」他の予習
			復習	「雪のこぼうず」「雪のペンキやさん」他の復習
第11回	内容	季節のうた　2月① 「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他	予習	「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他の予習
			復習	「まめまき」「北風小僧の寒太郎」他の復習
第12回	内容	季節のうた　2月② 「春がきた」「どこかで春が」他	予習	「春がきた」「どこかで春が」他の予習
			復習	「春がきた」「どこかで春が」他の復習
第13回	内容	季節のうた　3月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他	予習	「うれしいひなまつり」他の予習
			復習	「思い出のアルバム」他の復習
第14回	内容	季節のうた　3月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」	予習	「一年生になったら」他の予習
			復習	「さよならぼくたちのほいくえん」他の復習
第15回	内容	コードネームを用いた伴奏づけ 授業のまとめと発表	予習	コードネームについての予習
			復習	コードネームを用いた伴奏の練習

予習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね６０分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業内での発表や実技試験での演奏に対して、個別に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　○　）する／（　　）しない 成績評価の方法：　作品・発表（　30　%)、実技（　50　%)、授業態度（　20　%）
教科書	『いろいろな伴奏で弾ける　こどものうた 100』(小林美実　他、チャイルド本社)
参考文献	必要に応じて楽譜・プリントを配布する。
注意事項	

科　目　名	教育社会学	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	まつき　ひさこ 松木　久子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SOE12101	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　　その他（　二部は遠隔で実施　）
授業の内容	教育に関するさまざまな問題がメディアを通して伝えられ議論がなされていますが、現代教育が抱えるさまざまな事柄を社会学的な視点で捉え直していこうと思います。これまで当たり前と思ってきた教育の実態や学校のシステムについて、再度考え直し見つめ直していくための視点を提供し、今後においてより良くしていくためにはどうすればよいかを共に考えていきたいと思います。
到達目標	１．　いじめ自殺などについて、自分なりの見解を説明できる。 ２．ジェンダーをめぐる問題について、自分なりの考えを説明できる。 ３．　子どもを取り巻く環境について説明できる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・３・５　）

授業計画					
	第１回	内容	オリエンテーション：諸注意と必要事項について	予習	教育問題について調べてまとめておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第２回	内容	教育社会学をまなぶこととは何かについて知る	予習	教育社会学について調べまとめておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第３回	内容	日本における学校教育の現状	予習	気になる学校での出来事についてまとめておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第４回	内容	いじめ自殺について考える	予習	いじめについて調べまとめておく
				復習	興味をもったことについて調べまとめる
	第５回	内容	登校拒否と不登校について考える	予習	登校拒否と不登校について調べまとめる
				復習	理解したことをまとめておく
	第６回	内容	学級崩壊について考える	予習	学級について調べまとめておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第７回	内容	学歴社会の実像と虚像	予習	学歴社会について調べまとめておく
				復習	興味をもったことについて調べまとめる
	第８回	内容	グローバル化と教育	予習	グローバル化について調べまとめておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第９回	内容	カリキュラムと学力	予習	カリキュラムについて調べまとめておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第 10 回	内容	学校の中のジェンダーについて考える	予習	ジェンダーについて調べまとめておく
				復習	興味をもったことについて調べまとめる
	第 11 回	内容	メディア社会と教育について考える	予習	メディアについて調べまとめておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第 12 回	内容	生徒―教師の関係について考える	予習	学校用語について調べまとめておく
				復習	興味をもったことについて調べまとめる
	第 13 回	内容	幼児教育の普及と早期化について考える	予習	早期教育について調べまとめておく
				復習	理解したことをまとめておく
	第 14 回	内容	日本の学校の今後のあり方について考える	予習	自分の理想とする学校像についてまとめておく
				復習	興味をもったことについて調べまとめる
	第 15 回	内容	まとめ	予習	いままで理解したことをまとめておく
				復習	興味をもったことについて調べまとめる
	予習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね９０分を目安とする。				

課題へのフィードバック	小テストを実施するなどをして、学生の理解度をその都度把握していこうと思います。調べるべき事柄について、アドバイスしていきます。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（50%）、レポート・課題（30%）、授業態度【　積極的参加等　】(20%)
教科書	特に指定はしません。
参考文献	授業中に必要に応じて適宜、紹介していきます。
注意事項	「学校」をめぐる問題について主体的に貪欲に調べてほしいと思います。ニュースや新聞に、触れるようにしてほしいと思います。

科目名	教育方法・技術論	単位数	1	授業時間数	３０	担当教員	いけだ　まゆこ 池田　麻由子
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12203	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	幼児が成長するなかで育むべき資質や能力を身につけられるよう、周囲がどのように働きかけるとよいか、指導方法を学ぶと共に指導の立案について検討する。
到達目標	１．　身体、言葉、表現、科学や算数的理解など幼児が学ぶべき領域や内容について理解している。 ２．　１を幼児が身につけるために具体的な指導方法について理解できている。 ３．　総合学習やICT（情報通信技術）教育の内容について理解できている。
学位授与方針	幼児教育学科（　1、3、5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	子どもの特徴を脳の仕組みや心理学の視点から理解する。	予習	シラバスをよく読むこと。
			復習	授業で挙がった子どもの特徴について教科書を読み返す。
第２回	内容	子どもの身近な環境を取りあげ、幼児の発達を促すための環境指導法について学ぶ。	予習	子どもの環境とは何か教科書から下調べする。
			復習	学生自らの環境指導法について再度考える。
第３回	内容	造形表現の特質と課題を理解し、造形表現の指導方法についてグループディスカッションを通して検討する。	予習	造形表現の特質と課題について教科書から下調べする。
			復習	学生自らの造形表現や指導法について再度考える。
第４回	内容	子どもの発達に伴う身体表現について理解するとともに、子どもの表現を引き出す指導方法についてグループディスカッションを通して検討する。	予習	身体表現について教科書から下調べする。
			復習	学生自らの子どもの表現を引き出す指導方法について再度考える。
第５回	内容	新しい時代を生きるための音楽表現や幼児の感性について理解し、指導法をグループディスカッションを通して検討する。	予習	幼児の感性とは何か教科書から下調べする。
			復習	学生自らの新しい時代を生きるための音楽表現や指導法について再度考える。
第６回	内容	幼児期に発達する言葉の能力、現代における言葉の習得および発達の課題について理解する。	予習	幼児期の言葉の発達について教科書から下調べする。
			復習	現代における言葉の習得および発達の課題について教科書の内容を読み返す。
第７回	内容	幼児の算数的活動の内容について理解し、発達に応じた算数的理解を促すための指導法について、グループディスカッションを通して検討する。	予習	幼児の算数的活動について教科書から下調べする。
			復習	算数的理解を促すための学生自らの指導法について再度考える。
第８回	内容	幼児教育における科学の指導の必要性と小学校教育への橋渡し（連携）について学ぶ。	予習	幼児教育における科学とは何か教科書から下調べをする。
			復習	小学校教育への連携の意義について教科書の内容を読み返す。
第９回	内容	総合学習の理論と実践について学び、指導法をグループディスカッションを通して立案し、立案した指導法をプレゼンテーションを用いて発表する。	予習	これま授業で挙がった指導法について教科書の内容を読み返す。
			復習	学生自らの総合学習の指導法について再度考える。
第10回	内容	ICT教育の内容について学び、支援や指導の方法についてグループディスカッションを通して立案し、立案した指導法をプレゼンテーションを用いて発表する。	予習	ICT教育とは何か教科書から下調べをする。
			復習	学生自らのICT教育の指導法について再度考える。
第11回	内容	外国諸国などの他文化を取り入れたICT保育および教育について学ぶ。	予習	他文化保育とは何か教科書から下調べをする。
			復習	他文化保育についての自らの考えをまとめる。
第12回	内容	発達の気になる子ども、障害を抱える子どもへの教育や支援の方法（インクルーシブ教育）について学ぶ。	予習	インクルーシブ教育とは何か教科書から下調べをする。
			復習	発達障害などを抱えるインクルーシブ教育の方法について自らの考えをまとめる。
第13回	内容	児童虐待について学び、虐待を受けた子どもへの支援方法について学ぶ。	予習	児童虐待の現状について教科書から下調べをする。
			復習	虐待を受けた子どもへの支援方法について自らの考えをまとめる。
第14回	内容	幼稚園、保育園、小学校教育の連携の必要性を学び、連携の方法についてグループディスカッションを通して検討する。	予習	小学校教育への連携の意義について教科書から下調べをする。
			復習	幼稚園、保育園、小学校教育の連携の方法について自らの考えをまとめる。
第15回	内容	保育者として幼児教育の方法と技術をどのように捉えるかグループディスカッションを通して検討し、検討した指導法をプレゼンテーションを用いて発表する	予習	これま授業で挙がった理論や指導法について教科書の内容を読み返す。
			復習	保育者として幼児教育の方法と技術についての重要箇所をまとめる。

予習に要する学習時間：概ね　30　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　45　分を目安とする。

課題へのフィードバック	授業中に適宜案内しますが、フィードバックがある場合は、Googleclassroom から行います。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（　50　%）、作品・発表（　30　%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（　20　%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名） 実践につながる　新しい幼児教育の方法と技術　大浦　賢治 編著　野津　直樹 編著　2020　ミネルヴァ書房
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）
注意事項	グループディスカッションやプレゼンテーションの評価は「作品・発表」の点数として扱います。意欲的に取り組むことを評価します。 復習において考えたこと、まとめた箇所は期末レポート課題の材料として挙げて頂きますので、積極的に検討しましょう。

科　目　名	教育相談	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	みよし　ちから 三好　力
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12203	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	幼稚園や学校における教育相談は，心理学の専門家や一部の教師が担うものではなく，学級運営と同じように全ての教師が担当する教育活動の一環として位置づけられている。本講義では，教育相談の理論，技術，キンダー（スクール）カウンセラーの位置づけなどについて概説し，幼稚園や学校（教育現場）における教育相談の役割を理解することを目的とする。
到達目標	１．教育現場での生徒指導上の問題に応じ，適切に対応できる。 ２．カウンセリングの基本的な理論と態度技術を身につけている。 ３．集団指導に有益な心理的技術について理解している。 ４．教育相談における保護者や地域との連携と関わり，キンダー（スクール）カウンセラー等との連携を理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　1，3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画					
	第１回	内容	オリエンテーションとガイダンス：教育相談とは何か	予習	教育相談についてのイメージを膨らませる
				復習	教育相談の日本における位置づけを整理する
	第２回	内容	子どもを支えるために必要な教師の資質とカウンセリングマインド	予習	教師の資質について考えておく
				復習	カウンセリングマインドを整理する
	第３回	内容	子ども理解のための心理学――理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための発達心理学的基礎知識	予習	子ども家庭支援の心理学などのノートを確認
				復習	発達理論に基づき各世代について理解整理する
	第４回	内容	子ども理解のための心理学――理論と実際の双方向からの多面的理解：教育相談のための臨床心理学的基礎知識	予習	臨床心理学を漠然とで良いので下調べしておく
				復習	臨床心理学の有用な技法を整理しておく
	第５回	内容	発達障害をめぐる諸問題	予習	発達障害について下調べしておく
				復習	学修した後のギャップを整理しておく
	第６回	内容	アセスメント――多面的に子どもを理解する視点と方法	予習	子どもに利用するアセスメントツールを調べる
				復習	アセスメントについての自分の考えをまとめる
	第７回	内容	心理テスト体験実習	予習	心理テストについて調べる
				復習	測定されたものについて詳しく調べる
	第８回	内容	カウンセリング――信頼関係を築き，子どもを援助する方法	予習	カウンセリングについて下調べしておく
				復習	カウンセリング技法について整理する
	第９回	内容	コンサルテーション――よりよい指導・援助のための協働	予習	コンサルテーションとは何かを調べる
				復習	コンサルテーションにおける連携を整理する
	第 10 回	内容	ソーシャルスキル教育やストレスマネジメント教育	予習	自分のストレスマネジメントについて整理する
				復習	ＳＳＴについて整理する
	第 11 回	内容	教育相談を成立させる現実条件（目標の立て方や進め方）	予習	事前に配布プリントを読み込んでおく
				復習	教育相談の目標設定について整理する
	第 12 回	内容	学級経営と学校のリスクマネージメント	予習	学校や園のリスクについて考えておく
				復習	多くのリスクについて整理しておく
	第 13 回	内容	「チーム学校」にみる支援体制（他職種連携）、保幼少連携	予習	保幼小連携について大切なことを考えておく
				復習	他職種連携と保幼小連携について整理する
	第 14 回	内容	相談事例の検討：いじめ、不登校・不登園、非行などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく
				復習	ディスカッションした内容をまとめておく
	第 15 回	内容	相談事例の検討：対人コミュニケーションの問題、発達障害を伴う問題などを扱いグループディスカッションを行う	予習	事前に配布するプリントを読み込んでおく
				復習	ディスカッションした内容をまとめておく
	予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	Google Classroom を用いて課題や小テストのフィードバックを行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（100%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	使用しない
参考文献	絶対役立つ教育相談:学校現場の今に向き合う　藤田哲也他　2017　ミネルヴァ書房 教師のための教育相談の技術　　吉田圭吾　2007　金子書房　　ほか
注意事項	毎回小テストや課題を行う。その他、特別教材(2 回分)として別途 600 円を授業中に集金します。

科目名	教育相談	単位数	2	授業時間数	30	担当教員	いまみず　ゆたか 今水　豊
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDP12203	授業形態	講義	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。 授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。
到達目標	1.発達を多角的にとらえることができる。 2.発達の知識と臨床心理学的な知識を援助活動に活かすことができる。 3.相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解する 。
学位授与方針	幼児教育学科（3.5.7　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第1回	内容	Ⅰ 教育相談とは何か　①相談の必要性	予習	相談やカウンセリングについて考える
			復習	教育相談の意義を理解する
第2回	内容	Ⅰ 教育相談とは何か　②相談のながれ	予習	相談場面を想像する
			復習	相談のパターンを理解する
第3回	内容	Ⅱ 子どもの発達の特徴 ①発達の表の作成 （身体・運動・言語の発達）	予習	左記の子どもの発達について考える
			復習	表を通して発達の特徴を理解する
第4回	内容	Ⅱ 子どもの発達の特徴 ②発達の表の作成 （認知・親子関係の発達）	予習	左記の子どもの発達について考える
			復習	表を通して認知の発達を理解する
第5回	内容	Ⅱ 子どもの発達の特徴 ③発達の表の作成 （親子関係の発達）	予習	母子関係の発達について考える
			復習	表を通して人間関係の発達を理解する
第6回	内容	Ⅱ 子どもの発達の特徴 ④発達の表の作成 （社会心理的発達）	予習	身体から親子関係までの発達を把握する
			復習	表を通じて子どもの発達を多角的に理解する
第7回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　①発達障害の実際	予習	発達障害の記事や話題を調べる
			復習	発達障害の実際を理解する
第8回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　②特別支援教育	予習	義務教育の支援について調べる
			復習	義務教育の支援を把握する
第9回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　③養育者の実際	予習	養育者の苦労を考える
			復習	障害受容について理解する
第10回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　④虐待	予習	虐待の記事や話題を調べる
			復習	虐待の心理的影響を把握する
第11回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　⑤大震災と PTSD	予習	東日本大震災当時を思い起こす
			復習	PTSD について理解する
第12回	内容	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題　⑥心のケアの実際	予習	震災が子どもに及ぼす影響を考える
			復習	子どもの反応と対応を理解し、その時に備える
第13回	内容	Ⅳ 相談の実際　①教育相談の意義	予習	連携する相談機関を調べる
			復習	教育相談の利点を理解する
第14回	内容	Ⅳ 相談の実際　②遊戯療法	予習	遊戯療法について調べる
			復習	遊戯療法の利点を理解する
第15回	内容	Ⅳ 相談の実際　③遊戯療法の実際	予習	遊戯療法について調べる
			復習	子どもの見立てについて理解する

予習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 90 分を目安とする。

課題へのフィードバック	わからない内容や疑問に思うことは、授業後質問して理解すること。 定期テストについては実施後に答え合わせと解説を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（○）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　50　%)、レポート・課題（　30　%)、作品・発表（　　%)、実技（　　%)、授業態度【積極的参加】(20%)
教科書	
参考文献	
注意事項	教育相談では、保護者の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き理解するという構えを求める。

科　目　名	保育・教職実践演習(幼稚園)	単 位 数	2	授業時間数	３０	担当教員	なかむら　まるはし　おおくま 中 村・丸 橋・大 熊　他
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12204	授業形態	演習	実務経験			

授 業 方 式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授　業　の 内　　容	これまでの教育に関する科目および教職に関する科目の学修や実習経験を踏まえ、保育士・幼稚園教諭として必要な学びを振り返り、将来の教職生活のために自己課題を見つける。 尚、学生が主体的に学ぶことを基本とし、これまで履修してきた科目や実習とのつながりを理解し、保育を総合的に捉えることがきるよう演習を展開する。
到 達 目 標	幼児教育学科のディプロマポリシーに照らして、本演習を通して保育士・幼稚園教諭として必要な以下の資質能力を身につけている。 1.幼児教育学・保育学の知識と技能をしっかりと習得している。 2.コミュニケーション能力があり、周囲の人と協調することができる。 3.子どもを取り巻く環境や社会問題を理解し、自ら課題を見つけ取り組むことができる。 4.自然と生命を大切にする心をもち、それを子どもに伝えることができる。 5.自分を生き生きと表現し、他者の表現を受け入れることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（1.2.3.4.5）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授 業 計 画					
	第１回	内容	保育・教職実践演習の授業の進め方について これまでの学修の振り返り	予習	この授業についてシラバスを読んでおく。
				復習	授業の概要をまとめる。
	第２回	内容	保育者の役割・職務内容・子どもに対する責任等について (1)講義・レポート	予習	保育者の役割・職務内容について調べる。
				復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。
	第３回	内容	保育者の役割・職務内容・子どもに対する責任等について (2)グループワーク	予習	グループワークに必要な情報をまとめる。
				復習	グループワークの内容をまとめる。
	第４回	内容	学級経営、学級経営案の作成について（講義・レポート）	予習	学級経営について調べてくる。
				復習	授業内容を振り返り、レポートを書く。
	第５回	内容	子ども理解の方法と実際について （講義・グループワーク・レポート）	予習	子ども理解の方法について調べる。
				復習	授業を振り返り、レポートを書く。
	第６回	内容	組織の一員としての自覚（講義・レポート）	予習	組織で協働することについて調べる。
				復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。
	第７回	内容	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について （グループワーク・ロールプレイ）	予習	保護者や地域関係者との交流について調べる。
				復習	グループワーク・ロールプレイを振り返り、まとめる。
	第８回	内容	幼稚園・保育園の安全管理について （講義・グループワーク）	予習	実習園での安全管理について調べる。
				復習	授業を振り返り、まとめる。
	第９回	内容	子どもを取り巻く環境、子育てに関する社会問題について （講義・レポート）	予習	子どもを巡る社会問題について調べる。
				復習	講義内容を振り返り、レポートを書く。
	第 10 回	内容	感性と認識についてのフィールドワーク（自然保育実習）	予習	幼児の感性について調べる。
				復習	自然保育実習を振り返り、レポートを書く。
	第 11 回	内容	保育内容と保育方法について（グループワーク）	予習	保育内容と保育方法について調べる。
				復習	グループワークを振り返り、まとめる。
	第 12 回	内容	保育における活動を計画する。(グループワーク)	予習	保育における様々な活動を調べる。
				復習	話し合った計画についてまとめる。
	第 13 回	内容	保育における活動を実践する。(ロールプレイ)	予習	グループでの計画を実践するための材料を準備し、方法を調べる。
				復習	実践したことを振り返り、まとめる。
	第 14 回	内容	保育者の専門性について（グループワーク・レポート）	予習	保育者の専門性について確認する。
				復習	グループワークの内容をまとめる。
	第 15 回	内容	授業全体の振り返り・資質能力の確認	予習	学科のディプロマポリシーを読み、自己課題を考える。
				復習	授業全体を振り返り、自己課題をまとめる。
	予習に要する学習時間：概ね 20 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 25 分を目安とする。				

課題へのフィードバック	課題への取り組み・ドキュメンテーション作成の過程で、また発表後に講評を行う。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　○　）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（30%）、作品・発表（40%）、授業態度【積極的参加】(30%)
教科書	なし

参考文献	なし
注意事項	グループワークに積極的に参加すること。

科　目　名	保育所実習Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	おぐち　すぐる 小口　偉
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12108	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	これまでに講義、演習で学んだ内容を基礎として、保育所保育、保育所の機能・役割、保育士の職務内容について、実際の保育の場で観察・参加実習をすることで理解を深める。実習中は課題を明確にし、日誌へ記録し考察をする。 保育所実習のうち保育所実習Ⅰは前期実習となる。
到 達 目 標	1. 保育所の１日の流れを理解している。 2. 保育所の役割や機能について理解している。 3. 保育士の職務内容を理解している。 4. 観察、参加実習や子どもとの関わりを通して子どもを理解している。
学位授与方針	幼児教育学科（　　２、５　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	第１回 実習施設について理解する 第２回 保育所における一日の流れを学ぶ 第３回 観察と記録により子どもを理解する 第４回 子どもの生活と遊びについて学ぶ 第５回 子どもの発達過程を理解し援助や関わり方を学ぶ 第６回 保育計画や発達過程に応じた保育内容を学ぶ 第７回 保育の環境について学ぶ 第８回 安全への配慮について学ぶ 第９回 保育者の個々の子どもへの対応について学ぶ 第 10 回 保育士の業務内容や役割分担、連携方法について学ぶ 第 11 回 保育士の役割と職業倫理について学ぶ 第 12 回 反省会を通し実習を振り返る
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：実習（８０％）、レポート・課題（１０％）、日誌等書類作成（１０％）
教科書	
参考文献	『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説　平成３０年３月』（厚生労働省、フレーベル館）
注意事項	実習関係書類の提出遅延、実習中の怠惰等があった場合は本学「実習派遣規制」により実習の中止等があり得るので注意すること。

科　目　名	施設実習	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	しのはら　みよし 志濃原・三好
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12204	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について実際的に学習する。 保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、障害者支援施設等で実践するものである。
到 達 目 標	1.居住型及び通所型児童福祉施設等の利用者の生活が理解できる。 2.居住型及び通所型児童福祉施設等の保育士の役割について理解できる。 3. 居住型及び通所型児童福祉施設等の機能が理解できる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 1. 2. 3 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）
授 業 計 画	１．実習施設の目的・機能の理解①（一日の生活の理解） ２．実習施設の目的・機能の理解②（利用児・者についての理解） ３．実習施設の人的・物的環境の理解①　（施設職員の役割・協働について） ４．実習施設の人的・物的環境の理解②　（施設の物的環境について） ５．施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①（利用者の生活実態の把握） ６．施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②（利用者への援助） ７．施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③（利用者への援助のための間接業務） ８．保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①（施設で働く保育士の役割） ９・保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②（保育士と他職種との連携） １０．施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解 １１．反省会・まとめ① １２．実習施設の役割の理解 １３．実習施設の社会的機能の理解 １４．これからの施設の在り方への考察 １５．反省会・まとめ②
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　実習（80%）、レポート・課題（　10%）、日誌等書類作成（　10%）
教科書	『保育福祉小六法 2022 年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。
注意事項	「福祉施設実習研究」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。 　また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。

科　目　名	保育所実習Ⅱ	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	おぐち　すぐる 小口　偉
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12211	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	具体的な実践を通して、保育所の役割や機能、保育の理解を深める。また、これまでの実習での学びを踏まえ、保育・子育て支援・保育の計画や記録等について実際に取り組み、理解を深める。さらに、保育士の業務内容や職業倫理について実践的な経験を通して理解し、自己の課題を明確化する。
到 達 目 標	1.保育所の役割や機能について総合的に理解する。 2.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践を通して理解する。 3.保育の計画を適切に作成することができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　　1,2,3,4,5　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	1.保育所の役割や機能の具体的展開 (1)養護と教育が一体となって行われる保育 (2)保育所の社会的役割と責任 2.観察に基づく保育理解 (1)子どもの心身の状態や活動の観察 (2)保育士等の援助や関わり (3)保育所の生活の流れや展開の把握　3.子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携　(1)環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解　(2)入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援　(3)関係機関や地域社会との連携・協働 4.指導計画の作成・実践・観察・記録・評価　(1)全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解　(2)作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5.　保育士の業務と職業倫理 (1)多様な保育の展開と保育士の業務 (2)多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6.自己の課題の明確化
成績評価	試験期間における定期試験:実施( )する/(○)しない 成績評価の方法:実習施設による評価(50%)、実習日誌の評価(30%)、個別面談等(20%)
教科書	なし
参考文献	なし
注意事項	実習関係書類の提出遅延、実習中の怠惰等があった場合は本学「実習派遣規制」により実習の中止等があり得るので注意すること。

科目名	保育所実習指導Ⅰ	単位数	1	授業時間数	４０	担当教員	おぐち しおざき こやま 小口・塩崎・小山
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12109	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	保育所実習に必要な知識や技術を学ぶ。保育所実習の目的、内容、方法、実習施設の機能を学ぶとともに、手続書類の作成等について指導を行う。実習に対する課題を立て、事後の学習目標を明確にしていくことで今後の実習に対する意欲を高める。
到達目標	１．保育所実習の意義・目的・内容を理解している。 ２．実習の計画、実践、観察、評価の方法について理解し実践できる。 ３．事前準備として実習課題を明確にし、取り組むことができる。 ４．事後指導の実習の統括と自己評価から、課題と目標を明確にしている。
学位授与方針	幼児教育学科（ ２、５ ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	保育所実習の意義を知る	予習	「保育施設とは」ノートにまとめる
			復習	授業内容を振り返り、ノートにまとめる
第２回	内容	保育所実習Ⅰ、Ⅱの目的を理解する	予習	保育所実習の目的を考える
			復習	授業内容を踏まえて、自分自身の実習の目的を考える
第３回	内容	保育実習Ⅰの目的を理解する	予習	事前に配布する資料を読む
			復習	前期実習の目的を考えノートにまとめる
第４回	内容	保育所前期実習参加の心得を知る	予習	実習の注意事項を考える
			復習	前期実習の心得をノートにまとめる
第５回	内容	実習手続き書類の作成指導（配当資料の作成）	予習	事前の配布資料を読む
			復習	清書をする(次回授業提出)
第６回	内容	実習手続き書類の作成指導（調査書の作成）	予習	事前の配布資料を読む
			復習	清書をする(次回授業提出)
第７回	内容	参加・観察実習の留意点を知る	予習	事前の配布資料を読む
			復習	参加・観察実習の留意点をノートにまとめる
第８回	内容	保育所の一日の流れを知る	予習	事前の配布資料を読む
			復習	保育所の一日の流れをノートにまとめる
第９回	内容	実習日誌の作成指導１ 実習開始前に必要な記入事項の説明	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	必要事項を日誌に記入する
第 10 回	内容	実習日誌の作成指導２ 実習課題の立て方	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	実習課題を考える
第 11 回	内容	実習日誌の作成指導３ 時系列記録による記録方法の理解１	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 12 回	内容	実習日誌の作成指導４ 時系列記録による記録方法の理解２	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 13 回	内容	実習日誌の作成指導５ 時系列記録による記録方法の理解３	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 14 回	内容	実習日誌の作成指導６ エピソード記録による記録方法の理解	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 15 回	内容	実習日誌の作成指導７ 振り返り等の書き方の理解	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	記録方法をノートに整理する
第 16 回	内容	部分実習指導計画案作成指導	予習	テキストの関連ページを読み込んでおく
			復習	指導計画案を作成する
第 17 回	内容	実習オリエンテーションについて理解する	予習	事前配布資料を読んでおく
			復習	オリエンテーションの注意事項をノートにまとめる
第 18 回	内容	持ち物、身だしなみ等、実習の諸注意について	予習	事前配布資料を読んでおく
			復習	諸注意事項をノートにまとめる
第 19 回	内容	実習の評価の観点と訪問指導を理解する	予習	事前配布資料を読んでおく
			復習	訪問指導についての必要性をノートにまとめる
第 20 回	内容	実習の総括と自己評価	予習	これまでの授業のノートを見直す
			復習	実習指導Ⅰから学んだ事をノートにまとめる

	第 21 回	内容		予習	
				復習	
	第 22 回	内容		予習	
				復習	
	第 23 回	内容		予習	
				復習	
	第 24 回	内容		予習	
				復習	
	第 25 回	内容		予習	
				復習	
	第 26 回	内容		予習	
				復習	
	第 27 回	内容		予習	
				復習	
	第 28 回	内容		予習	
				復習	
	第 29 回	内容		予習	
				復習	
	第 30 回	内容		予習	
				復習	
	予習に要する学習時間：概ね３０分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね１５分を目安とする。				
課題へのフィードバック	授業内で課題への補足説明を行う。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%)、レポート・課題（６０%)、授業態度【　積極的な参加　】(４０%)				
教科書	『パターンと練習問題でだれでも書けるようになる！保育実習日誌・指導案』(浅井拓久也、明治図書出版)				
参考文献	『保育所保育指針<平成 29 年告示>』(厚生労働省、フレーベル館)、『保育所保育指針解説　平成３０年３月』(厚生労働省、フレーベル館)				
注意事項					

科目名	施設実習指導	単位数	1	授業時間数	６０	担当教員	しのはら　みよし　せき 志濃原・三好・関
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	SWS12205	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（　　）
授業の内容	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。
到達目標	1. 実習施設について理解を深めることができる。 2. 実習課題が設定できる。 3. 自己の適性を知ることができる。
学位授与方針	幼児教育学科（　１，３　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	オリエンテーション（履修上の諸注意）	予習	シラバスを確認する
			復習	履修上の諸注意を確認する
第２回	内容	施設実習の意義の理解	予習	実習の手引きを一読する
			復習	実習の手引きを確認しながら理解を深める
第３回	内容	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解	予習	配当の確認をする
			復習	配当の施設について調べる
第４回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（乳児院）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする
			復習	感想文を書く
第５回	内容	実習生調書の作成１	予習	実習生調書下書き
			復習	実習生調書を直す
第６回	内容	実習生調書の作成２	予習	実習生調書下書き
			復習	実習生調書清書
第７回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（児童養護施設）	予習	児童福祉施設の知識の復習をする
			復習	感想文を書く
第８回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害児関連施設）	予習	障害児への知識を確認する
			復習	感想文を書く
第９回	内容	居住型福祉施設の生活実態を知る（障害者関連施設）	予習	障がい者福祉の知識を確認する
			復習	感想文を書く
第 10 回	内容	各施設への実習前訪問と諸注意	予習	実習先の概要を確認する
			復習	実習先への交通経路等の確認をする
第 11 回	内容	外部講師の話	予習	実習への心構えを考えておく
			復習	感想文を書く
第 12 回	内容	実習日誌の書き方１	予習	実習日誌を一読する
			復習	日誌の記入方法等を確認する
第 13 回	内容	実習日誌の書き方２	予習	実習日誌の部分的に書くことのできる箇所に記入する
			復習	日誌の記入方法等を確認する
第 14 回	内容	実習の各種手続き１（細菌検査等）	予習	実習に向けての準備を整える
			復習	細菌検査の日程などを確認する
第 15 回	内容	実習に各種手続き２（巡回指導の方法）	予習	実習に向けての準備を整える
			復習	巡回指導の書類の確認、担当教員へあいさつをする
第 16 回	内容	実習課題の作成とレポートの内容説明	予習	実習課題の下書きをする
			復習	実習課題をたてる
第 17 回	内容	実習に向けての諸注意	予習	実習に向けて準備を整える
			復習	諸注意の確認をする
第 18 回	内容	実習概要報告書の作成１（書き方の説明）	予習	報告書の下書きをする
			復習	報告書の作成
第 19 回	内容	実習概要報告書の作成２	予習	報告書の作成
			復習	報告書の作成、提出
	内容		予習	

	第 20 回		実習報告会について	復習	実習を振り返る
	第 21 回	内容	実習報告会の資料作成	予習	実習報告会の資料作成準備
				復習	実習報告会の資料作成
	第 22 回	内容	提出物の確認と書類の整理	予習	実習報告会の準備
				復習	実習に関わる提出物の用意
	第 23 回	内容	評価面談 1	予習	提出物・書類の確認
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 24 回	内容	評価面談 2	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 25 回	内容	評価面談 3	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 26 回	内容	評価面談 4	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 27 回	内容	評価面談 5	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 28 回	内容	評価面談 6	予習	自己評価と省察
				復習	実習の振り返りと自己評価
	第 29 回	内容	実習を振り返って	予習	自己評価と省察
				復習	グループごとの実習の振り返り
	第 30 回	内容	まとめ、日誌の返却、講評	予習	感想文を書く
				復習	自己評価を考察する
	予習に要する学習時間：概ね　30 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　60 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	実習の評価面談、及び反省を通して、フィードバックする				
成績評価	試験期間における定期試験：　実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：課題（　30%）、レポート（　20%）、授業態度（　50%）				
教科書	『施設実習』（立花直樹他著者、ミネルヴァ書房）				
参考文献	『保育福祉小六法 2022 年版』（保育福祉小六法編集委員会編、みらい）				
注意事項	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。				

科目名	保育所実習指導Ⅱ	単位数	1	授業時間数	４０	担当教員	おぐち しおざき こやま 小口・塩崎・小山
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	CHS12212	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・ 遠隔 ・ その他（ ）
授業の内容	保育実習Ⅰにおける反省をもとに、保育実習Ⅱに必要な知識や技術を学ぶ。指導計画や実習日誌の考え方や書き方を中心とする。
到達目標	1.保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育を総合的に理解する。 2.指導計画の基本的な考え方と書き方を身につける。 3.実習日誌を適切に作成することかができる。
学位授与方針	幼児教育学科（ 1,2,3,4,5 ）地域保育学科（ ）文化表現学科（ ）

授業計画

第１回	内容	保育所実習研究Ⅱの目的と概要	予習	シラバスを確認する
			復習	授業概要についてまとめる
第２回	内容	保育実習Ⅱに必要な書類の準備	予習	どのような必要書類が必要か調べる
			復習	必要書類を確認する
第３回	内容	保育実習Ⅰの振り返り及び課題について検討する	予習	保育実習Ⅰの反省をまとめる
			復習	実習課題を考える
第４回	内容	保育実習Ⅱにおける課題を明確にする	予習	実習課題をまとめる
			復習	実習課題を整理し日誌に書く
第５回	内容	保育実習Ⅱにおける心構えとマナー	予習	マナーについて確認する
			復習	心構えをまとめる
第６回	内容	指導実習での指導計画の書き方:ねらいの書き方	予習	指導計画とは何か調べる
			復習	ねらいの書き方をまとめる
第７回	内容	指導実習での指導計画の書き方:援助や配慮の書き方	予習	援助・配慮とは何か調べる
			復習	援助、配慮の違いについてまとめる
第８回	内容	指導実習での指導計画の書き方:乳児クラスの指導計画案について	予習	乳児の発達の特徴を調べる
			復習	乳児クラスの指導計画を確認する
第９回	内容	指導実習での指導計画の書き方:３～５才児クラスの指導計画案について	予習	３～５才児の発達の違いについて調べてまとめる
			復習	３～５才児クラスの指導計画を確認する
第 10 回	内容	指導実習に向けての模擬保育の計画立案１ グループワーク	予習	責任実習について調べる
			復習	責任実習の活動計画を考える
第 11 回	内容	指導実習に向けての模擬保育の計画立案２ グループワーク、内容検討	予習	責任実習の活動計画を確認する
			復習	責任実習の活動計画を再検討する
第 12 回	内容	指導実習に向けての模擬保育の計画立案３ グループワーク、発表	予習	責任実習の活動案に従って模擬保育の練習をする
			復習	模擬保育の振り返りをする
第 13 回	内容	指導実習に向けての模擬保育の計画立案４ グループワーク、発表、反省	予習	計画案の修正をして、模擬保育の練習をする
			復習	模擬保育の振り返りをする
第 14 回	内容	指導実習に向けての模擬保育の計画立案５ グループワーク、発表、反省、自己評価	予習	模擬保育の振り返りを整理する
			復習	自己評価をまとめる
第 15 回	内容	実習日誌の書き方:目的と概要	予習	保育所実習Ⅰの日誌を確認する
			復習	実習Ⅱで求められることは何かを考える
第 16 回	内容	実習日誌の書き方:エピソード記録	予習	保育所実習Ⅰの日誌を確認する
			復習	エピソード記録のワークに取り組む
第 17 回	内容	訪問指導の意義と目的	予習	訪問指導の必要性を考える
			復習	訪問指導での質問事項を考える
第 18 回	内容	保育所実習指導Ⅱでの学びを振り返る 実習前の最終確認	予習	ノートを確認し振り返る
			復習	実習での必要事項を確認する
第 19 回	内容	保育所実習Ⅱを振り返る	予習	自己評価をする
			復習	自己評価について考える
第 20 回	内容	自己評価と実習の総括	予習	自己評価について整理しまとめる
			復習	今後の課題を洗い出す
第 21 回	内容		予習	
			復習	

	第 22 回	内容		予習	
				復習	
	第 23 回	内容		予習	
				復習	
	第 24 回	内容		予習	
				復習	
	第 25 回	内容		予習	
				復習	
	第 26 回	内容		予習	
				復習	
	第 27 回	内容		予習	
				復習	
	第 28 回	内容		予習	
				復習	
	第 29 回	内容		予習	
				復習	
	第 30 回	内容		予習	
				復習	
	予習に要する学習時間:概ね 30 分を目安とする。復習に要する学習時間:概ね 15 分を目安とする				
課題へのフィードバック	課題や発表では、その都度補足説明や解説をする。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（〇）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（５０%）、作品・発表（３０%）、実技（　　%）、授業態度【積極的参加】（２０%）				
教科書	『パターンと練習問題でだれでも書けるようになる!保育実習日誌・指導案』（浅井拓久也、明治図書）				
参考文献	『保育所保育指針〈平成 29 年告示〉』（厚生労働省、フレーベル館）、『保育所保育指針解説　平成 30 年 3 月』（厚生労働省、フレーベル館）』				
注意事項					

科　目　名	教育実習Ⅰ	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	おおくま　きたざわ 大 熊 ・ 北 澤
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12105	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必修科目である。これまで学んできた学校での理論を統合的に整理し，保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。教育実習Ⅰ（前期教育実習）では，保育活動に直接参加する前段階として，子どもや保育者の活動を見学・観察し，客観的に記録する見学・観察実習と，保育活動に加わり，体験を通して保育の営みについて学ぶ参加実習を行う。
到 達 目 標	１．教育実習の意義を理解し，課題を持ち実習に臨むことができている。 ２．幼稚園の機能や活動内容を理解し，幼稚園教育の場を統合的に理解している。 ３．実習を通し，社会人としてのマナー，保育者としての使命感を認識することができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１・２・３・４・５　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	○前期教育実習：見学・観察・参加実習 幼稚園で生活する子どもや保育者の日々の営みについて，見学・観察をする。また，子どもの実態や保育内容，保育者の職務等について理解を深める。具体的には，以下の 5 つのねらいを持ち 10 日間の実習を行う。 （1）一日の保育の流れを理解する。 （2）子どもの生活実態と活動の様子を理解する。 （3）保育者の職務内容や保育活動について理解する。 （4）保育者としての自覚・態度を確認する。 （5）今後の学習の目標や自己課題について確認する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（　）しない 成績評価の方法：　筆記試験（　　%）、レポート・課題（　　%）、作品・発表（　　%）、実技（　　%）、授業態度【　　】（　　%）
教科書	『書名』（著者名、出版社名）
参考文献	『書名』（著者名、出版社名）
注意事項	

科　目　名	教育実習Ⅱ	単 位 数	2	授業時間数	９０	担当教員	おおくま　いざわ 大 熊 ・伊 澤
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12205	授業形態	実習	実務経験	有		

授　業　の 内　　容	教育実習は幼稚園教諭の免許状を取得するための必修科目である。これまで学んできた学校での理論を統合的に整理し，保育の場でどのように具現化・統合化されているのかを理解する。前期実習での学びを通し，後期実習では，幼稚園での子どもの生活や保育者の日々の営みについてさらに理解を深め，幼稚園教諭（保育者）として必要な技術を習得していく。
到 達 目 標	１．教育実習の意義を理解し，課題を持ち実習に臨むことができている。 ２．幼稚園の機能や活動内容を理解し，幼稚園教育の場を統合的に理解している。 ３．実習を通し，社会人としてのマナー，保育者としての使命感を認識することができている。
学位授与方針	幼児教育学科（　1，2，3，5　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）
授 業 計 画	○後期教育実習：参加・指導実習 前期実習での体験，大学で学んだ理論や技術を基に，幼稚園教育の場を統合的に理解する。また，実習生が主体となって指導する実践体験を積み重ねることにより，保育者論や指導技術の向上を図る。具体的には以下の 3 つのねらいを持ち，10 日間の実習を行う。 (1) 幼稚園の機能や活動内容を理解する。 (2) 大学で学んだ理論や技術と実践との関連性を確認する。 (3) 社会人としてのマナー，保育者としての使命感等を認識する。
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：　実習園による評価（50%）、実習日誌評価（50%）
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）
注意事項	1.「教育実習指導Ⅱ」を履修し，準備をすると同時に実習生としてふさわしい言動を心がけること。 2. 実習関係書類の提出期限は厳守すること。 3.「実習派遣規制」に基づき，実習の停止，中止等が行われる場合があるため注意すること。

科目名	教育実習指導Ⅰ	単位数	1	授業時間数	６０	担当教員	おおくま　はせがわ　きたざわ 大熊・長谷川・北澤
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12106	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	教育実習と並行して行われる授業であり、教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。前期教育実習の各段階における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。
到達目標	１．前期教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持っている。 ２．前期教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 ３．前期教育実習の事前事後指導を通し、後期教育実習に向けて必要な，保育者としての資質・能力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（　１．２．３　　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	幼稚園教育の意義の理解	予習	幼稚園教育要領を読んでおく
			復習	配布資料を読み返す
第２回	内容	教育実習の目的の理解	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく
			復習	教育実習の目的についてまとめる
第３回	内容	前期教育実習の目的の理解	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく
			復習	実習の手引きと配布資料を読み復習する
第４回	内容	前期教育実習参加の心得	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく
			復習	手引き・配布資料をみながら復習をする
第５回	内容	実習配当資料作成指導① 配当資料について	予習	自分の住んでいる地域の幼稚園について調べる
			復習	授業での説明を基に、幼稚園を調べる
第６回	内容	実習配当資料作成指導② 配当資料の作成	予習	先輩の報告書を読み、自分の行きたい園を考える
			復習	配当資料の作成を行う
第７回	内容	実習内容指導① 幼稚園の一日の流れ	予習	配当資料に記入した園のディリープログラムを調べる
			復習	配布資料と自分の調べたディリープログラムを見直し幼稚園の一日の流れについて理解を深める
第８回	内容	実習内容指導② 参加･観察実習の留意点	予習	実習の手引きの教育実習部分を読み直しておく
			復習	配布資料と手引きを読み返す
第９回	内容	実習内容指導③ 実習中の心構え	予習	実習の手引きの該当部分を読んでくる
			復習	配布資料・手引きをみて自分の心構えをまとめる
第 10 回	内容	実習内容指導④ 実習中のマナー･身支度	予習	実習中のマナーや身支度について考えまとめておく
			復習	配布資料を読み返し、今から実施できることを箇条書きにまとめる
第 11 回	内容	実習内容指導⑤ 守秘義務について	予習	実習の手引きの該当部分を読んでおく
			復習	実習の手引きを読み返し守秘義務について理解する
第 12 回	内容	実習生調査書作成指導① 記入上の注意	予習	自分の長所・短所を箇条書きにしてくる
			復習	記入上の注意を読み返す
第 13 回	内容	実習生調査書作成指導② 自己評価･資格･健康状態棟	予習	自分の持つ資格などを確認しておく
			復習	実習生調査書（下書き）の抱負以外を記入する
第 14 回	内容	実習生調査書作成指導③ 抱負	予習	実習への心構えや想いを整理してくる
			復習	実習への抱負を文章にしてみる
第 15 回	内容	実習生調査書作成指導④ 作成･提出	予習	実習生調査書（下書き）の抱負の見直しを行う
			復習	作成したものの見直しを行う
第 16 回	内容	実習配当発表と今後の流れについて	予習	前期の内容を復習する
			復習	自分の配当先を確認し実習園の概要を調べる
第 17 回	内容	オリエンテーションについて	予習	実習園の概要の見直し、場所などを確認しておく
			復習	オリエンテーションへの準備を行う
第 18 回	内容	教育実習日誌の作成指導① 教育実習日誌とは	予習	実習園の概要などをまとめたものに目を通しておく
			復習	配布資料を読み返す
第 19 回	内容	教育実習日誌の作成指導② 実習園の概況･環境等	予習	実習日誌の書式全体に目を通す
			復習	実習園の概況など記入できる部分を記入する

	第 20 回	内容	教育実習日誌の作成指導③ 実習課題とは	予習	前期教育実習において学びたいことを箇条書きにしておく
				復習	実習課題をまとめる
	第 21 回	内容	実習報告会	予習	先輩への質問を箇条書きにしておく
				復習	報告会の振り返りを記入する
	第 22 回	内容	教育実習日誌の作成指導④ 保育の記録:一日の流れ	予習	幼稚園の一日についての配布資料を読み返す
				復習	一日の流れについての出された課題を行う
	第 23 回	内容	教育実習日誌の作成指導⑤ 保育の記録:振り返り	予習	振り返りの書式（日誌）に目を通しておく
				復習	配布資料を読み返す
	第 24 回	内容	部分実習指導案の作成指導	予習	前期教育実習の段階について手引きや配布資料を見返しておく
				復習	部分実習指導案を作成する
	第 25 回	内容	直前指導・最終確認	予習	日誌の必要な部分を記入する
				復習	最終チェックの項目を自分で確認し実習への準備を進める
	第 26 回	内容	前期教育実習の振り返り:自己評価	予習	実習日誌を完成し実習園への提出などを行う
				復習	自分自身の評価を記入する
	第 27 回	内容	前期教育実習の振り返り:グループワーク	予習	実習の振り返りを自分の言葉でまとめておく
				復習	振り返りを共有した感想などをまとめる
	第 28 回	内容	前期教育実習評価	予習	評価面談にむけて実習の振り返りを行う
				復習	園からの評価を受け、後期への課題を考える
	第 29 回	内容	前期教育実習の総括	予習	学校への日誌提出に向け、最終確認する
				復習	これまでの振り返りを行う
	第 30 回	内容	後期教育実習に向けて	予習	後期実習に向けて主活動の内容を調べてくる
				復習	後期実習に向けて春休みの課題を行う
	予習に要する学習時間：概ね　９０　分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね　９０　分を目安とする。				
課題へのフィードバック	評価面談にて実習の評価を伝え、後期実習につなげていく。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（○）しない 成績評価の方法：レポート・課題（　９０　%)、授業態度【　積極的参加　】（　１０　%）				
教科書	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』(小櫃智子他 2 名、わかば社) 『実習の手引き』(秋草学園短期大学・実習委員会)				
参考文献	『幼稚園教育要領』(文部科学省)				
注意事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明，提出書類の作成を行うので，原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延，授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており，実習派遣できなくなるので十分に留意すること。 3. 必要な資料は授業内で適宜、配布するので、ファイルを作り毎週持参すること。				

科　目　名	教育実習指導Ⅱ	単 位 数	1	授業時間数	６０	担当教員	大熊（おおくま）・伊澤（いざわ）
ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞｺｰﾄﾞ	EDU12206	授業形態	演習	実務経験			

授業方式	(対面)・　遠隔　・　その他（　　）
授業の内容	教育実習Ⅱと並行して行われる授業であり、後期教育実習に関する事前事後の指導を行う。具体的には、後期教育実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容について学ぶとともに、実習手続きに必要な書類の作成の指導を行っていく。後期実習における実習内容や目的、実習記録の方法、指導計画の理解と作成について学習することを目的とする。
到達目標	１．後期教育実習の事前準備として、実習の心構えを理解し、実習に必要な態度や意欲を持つ。 ２．後期教育実習の事前準備として、実習の課題を明確にしている。 ３．実習の事前事後指導を通し、保育者としての資質・能力を身につけている。
学位授与方針	幼児教育学科（1，2，3　）地域保育学科（　　）文化表現学科（　　）

授業計画

第１回	内容	**後期実習の目的・心得の理解**	予習	「実習の手引き」の後期実習の目的・心得を読んでおく
			復習	後期実習の目的・心得について，まとめる
第２回	内容	**後期実習手続き書類の作成指導** **調査書について**	予習	調査書記入内容について考えてくる
			復習	調査書を完成させる
第３回	内容	**オリエンテーションについて**	予習	前期実習のオリエンテーションの反省点を書きだしておく
			復習	後期実習のオリエンテーションに必要なことをまとめる
第４回	内容	**実習中のマナーについて**	予習	実習生のマナーについて確認する
			復習	実習生として必要吾マナーについて理解を深める
第５回	内容	**部分実習の留意点**	予習	部分実習の内容について考えてくる
			復習	部分実習の内容をまとめる
第６回	内容	**責任実習の留意点**	予習	責任実習の内容について考えてくる
			復習	責任実習の内容をまとめる
第７回	内容	**後期実習日誌の作成指導①** **実習課題について**	予習	後期実習に必要吾視点について考えてくる
			復習	後期実習に必要な視点について，まとめる
第８回	内容	**後期実習日誌の作成指導③** **保育の記録・振り返り**	予習	前期実習の保育の記録で指摘された点について確認してくる
			復習	保育の記録記入の留意点をまとめる
第９回	内容	**指導計画案の作成指導①** **指導案とは**	予習	指導案について調べてくる
			復習	指導案を作成する目的について理解を深める
第 10 回	内容	**指導計画案の作成指導②** **指導案作成の留意点**	予習	指導案作成の留意点について考えてくる
			復習	指導案作成の留意点についてまとめる
第 11 回	内容	**指導計画案の作成指導③** **部分指導案作成（主活動：制作）**	予習	指導案を作成する制作活動を調べてくる
			復習	制作の指導案を完成させる
第 12 回	内容	**指導計画案の作成指導④** **部分指導案作成（主活動：ゲーム）**	予習	指導案を作成するゲームを調べてくる
			復習	ゲームの指導案を完成させる
第 13 回	内容	**指導計画案の作成指導⑤** **日案作成（デイリー）**	予習	日案作成に必要な情報を調べてくる
			復習	日案の主活動以外の部分を完成させる
第 14 回	内容	**指導計画案の作成指導⑥** **日案作成**	予習	日案作成に必要な材料をそろえてくる
			復習	デイリーと主活動を合わせて，日案を完成させる
第 15 回	内容	**直前指導・まとめ**	予習	これまで学んだ内容を復習してくる
			復習	後期実習の準備が整っているか確認する
第 16 回	内容	**実習概要報告書の作成**	予習	概要報告書に記入する内容をまとめてくる
			復習	概要報告書を完成させる
第 17 回	内容	**実習の総括①** **後期実習の振り返り：責任実習について（自己評価）**	予習	後期実習の責任実習の振り返りをしてくる
			復習	後期実習の責任実習で学んだことをまとめる
第 18 回	内容	実習の総括② 後期実習の振り返り：責任実習について（グループワーク）	予習	後期実習の責任実習から学んだことをワークシートに記入しておく
			復習	グループワークから見えてきたことをまとめる
第 19 回	内容	**実習の総括③** **後期実習の振り返り：課題について（自己評価）**	予習	後期実習の課題の振り返りをしてくる
			復習	後期実習の課題で達成できたことをまとめる

	第 20 回	内容	実習の総括④ 後期実習の振り返り：課題について（グループワーク）	予習	後期実習から学んだことをワークシートに記入しておく
				復習	グループワークから見えてきたことをまとめる
	第 21 回	内容	実習の総括⑤ 前期実習との比較から振り返り（自己評価）	予習	前期実習との違いを考えてくる
				復習	前期実習と比較して，成長した点，今後学ぶべき点等をまとめる
	第 22 回	内容	実習の総括⑥ 前期実習との比較から振り返り（グループワーク）	予習	前期実習との違いを発表できるように準備する
				復習	グループワークから見えてきたことをまとめる
	第 23 回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて，省察する。
	第 24 回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて，省察する。
	第 25 回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて，省察する。
	第 26 回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて，省察する。
	第 27 回	内容	評価面談	予習	実習の自己評価をまとめる
				復習	評価を受けて，省察する。
	第 28 回	内容	成果報告①	予習	成果報告の準備をする
				復習	成果報告をまとめる
	第 29 回	内容	成果報告②	予習	成果報告の準備をする
				復習	成果報告をまとめる
	第 30 回	内容	**成果報告③**	予習	成果報告の準備をする
				復習	成果報告をまとめる
	予習に要する学習時間：概ね 15 分を目安とする。　復習に要する学習時間：概ね 30 分を目安とする。				
課題へのフィードバック	個別面談にて実習に関する評価を伝える。				
成績評価	試験期間における定期試験：実施（　）する／（ ○ ）しない 成績評価の方法：　レポート・課題（60%）、授業態度【主体的取組】（40%）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）				
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）				
注意事項	1. 実習について必要な事柄や注意事項の説明，提出書類の作成を行うので，原則として欠席は認めない。 2. 実習書類の遅延，授業態度の怠慢等は「実習派遣規制」によって禁じられており，実習派遣できなくなるので十分に留意すること。				

【幼児教育学科第一部・二部】

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧

（シラバスリンク）
https://www.akikusa.ac.jp/akitan/pdf/infant1_resume/yk_syllabus_2022.pdf

	科目名	単位数	授業形態	担当教員	シラバスページ
1	保育所実習Ⅰ	2	実習	小口偉	107
2	施設実習	2	実習	志濃原亜美・三好力	108
3	保育所実習Ⅱ	2	実習	小口偉	109
4	教育実習Ⅰ	2	実習	大熊美佳子・北澤明子	116
5	教育実習Ⅱ	2	実習	大熊美佳子・伊澤永修	117
	計	10			

注）「実務経験のある教員等による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。必修科目、選択科目又は自由科目の別を問わない。